

専門は花、
教養は土

2025年度の行事予定

	行 事	期日・期間
前 学 期	学年開始・前学期開始	4月1日(火)
	春期休業	4月1日(火)～4月9日(水)
	全学共通教育ガイダンス	インターネット上にて動画配信によって実施 (視聴できない学生向けに、健康診断の期間4月 1日(火)、2日(水)、3日(木)教室での上映 も行います)
	入学式	4月7日(月)
	前学期授業開始	4月10日(木)
	創立記念日	6月4日(水)
	夏季休業	8月6日(水)～9月30日(火)
	前学期終了	9月30日(火)
後 学 期	後学期開始	10月1日(水)
	後学期授業開始	10月1日(水)
	岐大祭	10月31日(金)～11月3日(月)
	冬季休業	12月27日(土)～1月7日(水)
	授業再開	1月8日(木)
	学年終了・後学期終了	3月31日(火)

- ◆注 1. 夏季及び冬季などの休業期間に補講、集中講義などが行われることがあります。
2. 全学共通教育科目の履修申請(登録)の日程等は、この履修案内の25、26ページ及び全学共通教育授業時間割表で確認するようにしてください。

全学共通教育事務室 窓口対応時間

授業期間中 月～金曜日 8:30～17:00
(年末年始及び祝祭日を除く)

休業期間中 8:30～12:00
13:00～17:00

(12:00～13:00 窓口は閉まります)



教養科目で土台をつくり，自分らしい花を咲かせましょう。

全学共通教育について

すべての学生が読むページ

目次

岐阜大学の教育	4
岐阜大学での学び	5
大学生としての学び	6
履修科目の選び方	7
全学共通教育及び教養教育について	8
履修単位について	9
授業科目の内容と履修申請の方法	11
初年次セミナー	14
人文科学, 社会科学, 自然科学, 岐阜学, スポーツ・健康科学	14
英語科目, 言語と文化科目	18
社会人リテラシー, 数理・データサイエンス・AI, 自由選択科目	20
学部等開講科目	21
日本語・日本事情に関する科目	21
連携開設科目	22
履修計画を立てよう	23
Webでの履修申請から履修確定まで	24
履修申請の日程	25
「出席情報システム」による打刻方法	27
受講に際しての注意	28
定期試験について	30
気象警報発表時及び交通障害時における授業の取扱い	32
本学以外の教育施設等における学修の単位認定	32

各学部等の全学共通教育について

各学部等の学生が読むページ

教育学部	35
地域科学部	41
医学部医学科	47
医学部看護学科	53
工学部	59
応用生物科学部	65
社会システム経営学環	75

全学共通教育科目一覧

すべての学生が読むページ

初年次セミナー	81
人文科学科目	84
社会科学科目	86
自然科学科目	88
岐阜学科目	90
スポーツ・健康科学科目	93
英語科目	95
言語と文化科目	100
社会人リテラシー科目	103
数理・データサイエンス・AI科目	104
日本語科目及び日本事情に関する科目	105
次世代地域リーダー育成プログラム概要(2025年度版)	107
社会教育士の資格取得に必要な科目・単位について	118
Q & A	120

岐阜大学の教育

岐阜大学の教育は「教養科目」と「専門科目」の2つの柱でなりたっています

教養科目

全学共通教育科目・学部等開講科目

人間
を深める

人文科学

文化
を味わう

社会科学

社会
を知る

自然科学

自然
を観る

岐阜
を知る

岐阜学

身体
をつくる

スポーツ
健康科学

世界
とつながる

英語
言語と文化

将来
を考える

社会人リテラシー

情報
を活用する

数理・
データサイエンス・AI

専門分野のほかに、人間・文化・社会・経済・哲学・宗教・倫理・芸術・自然科学など、人間の叡智を幅広く学んで多様な知識を身につけ、視野を広げて総合的な判断力と創造的で批判的な精神を養います

健康を維持し
体力を増進させる

国際化社会における
コミュニケーション力と多文化理解による視野の広さを身につける

長い目で人生
設計を考える

情報化社会に
適応する基礎的な能力を身につける

哲学
歴史学
文学
言語
心理・行動学
文化・芸術

法学
政治学
経済学
経営学
社会学
地理・地域論
教育学
社会・総合

数学
物理学
化学
生物学
医学
宇宙地球科学
環境学
自然科学総合
実験講座
情報学

岐阜学

スポーツ演習
健康科学講義

英語
ドイツ語
フランス語
中国語
ポルトガル語
朝鮮・韓国語
アイスランド語

日本語表現
先輩社会人に学ぶ

データ科学基礎
データ科学基礎演習
データサイエンス入門

専門科目

学部等開講科目

教育学

子どもと遊び、子どもを理解し
子どもを大切にする教員を目指す

地域科学

地域の創造的発展に貢献できる
人材の育成を目指す

医学

最新の教育環境で人間性豊かな
医療人と創造的な医学研究者の
育成を目指す

工学

社会を支える先端的な工業
技術者の育成を目指す

応用生物科学

生命科学を究明し、生物産業界で
活躍する人材の育成を目指す

社会システム経営学環

経営にイノベーションをもたらす、
豊かで活力ある社会システムの実現に
貢献できる人材育成を目指す

初年次セミナー

大学生としての基本的な
学びを身につける

日本語・日本事情

留学生が日本理解を
深める

自由選択科目

興味をもった分野を
さらに究める

学部等開講科目

学部等の特性を生かした
教養を学ぶ

岐阜大学での学び

基盤的能力

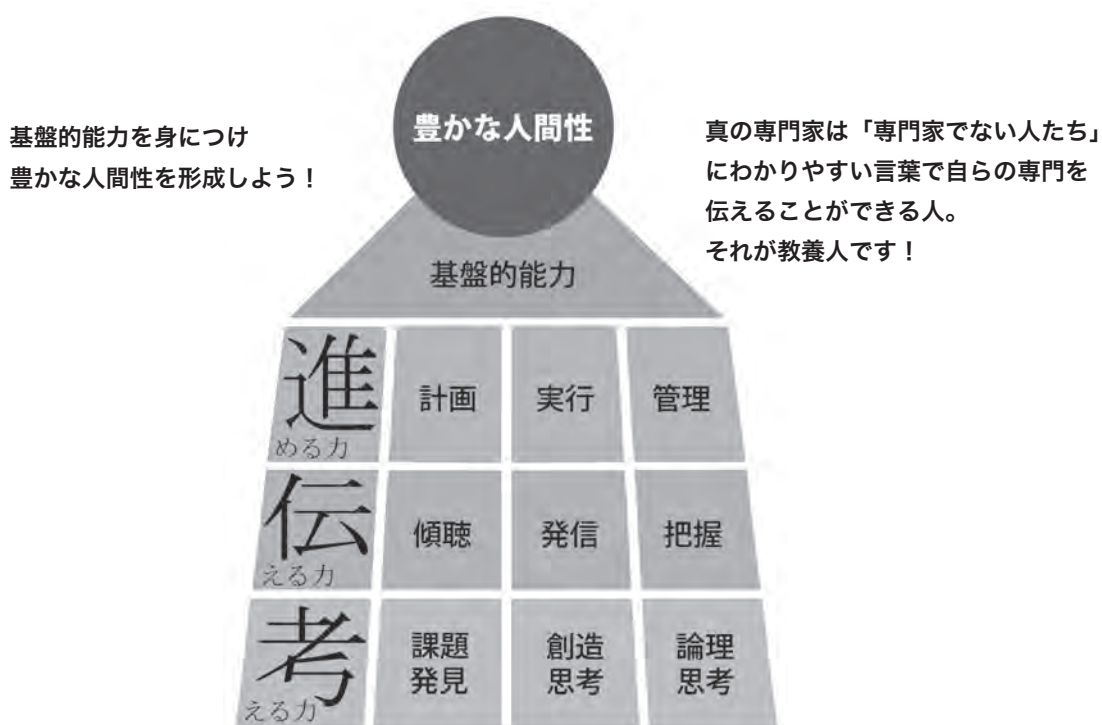
岐阜大学に入学し、これから大学生としての生活が始まります。これから4年間（医学科および共同獣医学科は6年間）、岐阜大学生として生活を楽しむとともに、様々な学びを通して成長し、「豊かな人間性」を備えた「高度な専門的職業人」である21世紀型市民として卒業して欲しいと願っています。

学びの目的 岐阜大学での学びは「基盤的能力」と「専門的能力」を身につけることを目的としています。「基盤的能力」については「キャンパスガイド」に詳しく書かれているので、必ず読んでください。この目的を達成するために、岐阜大学での教育を、「教養教育」と「専門教育」（二つを合わせて正課と言います）から構成しています。さらに「サークル活動」や普段の生活そのもの（これらを正課外と言います）も学びであると言えます。この正課と正課外を充実させることで豊かな学生生活を送ることができます。

全学共通教育 「教養教育」のうち、岐阜大学生として、入学した学部等にかかわらず全ての岐阜大学生に学んで欲しい内容を含む科目群を「全学共通教育」としています。

「全学共通教育」は岐阜大学に入って、皆さんがはじめに出会う科目です。この教養科目としての全学共通教育における授業はどの学部等の学生にとっても共通に必要な「学部等での勉強の基盤」及び「社会人として生きていくための素養」に関わっています。

学びのきっかけと基盤形成 専門的な勉強をしたいと思って入学した皆さんにとって、なぜ「教養教育」を受けなければならないのか疑問に思うかもしれません。しかし、**真の専門家は「専門家でない人たち」にわかりやすい言葉で自らの専門を伝えることができる人です。**そのためには、広く深い知識やものの見方を身につけていなければなりません。この「広く深い知識やものの見方」を「教養」と呼ぶことができます。ですから、この全学共通教育はあらゆる意味で、大学生活のみならず生涯にわたる自ら学ぶ学習の出発点であり基盤となる学習です。ここをおろそかにすると大学生活そのもの、さらには専門の学習も含めた学部等や卒業後の生涯にわたる自立的な学びが揺らいでしまいます。



大学生としての学び

教養教育について伝えるに先立って、「大学生としての学び」について知っておいて欲しいことがあります。高校生だった皆さんにはなじみの薄いことがあるからです。

自立した学びへ 大学での学びは「自分自身で何を学ぶか」を決めるところから始まります。これまでは学校が作った時間割があり、いつどのような科目を勉強するかは先生が決めていたはずですが、大学では時間割は学生自身が作ることでなっています。専門教育ではかなりきちんとした時間割がある学部等もありますが、教養教育、特に全学共通教育については、英語などいくつかの科目をのぞき、すべて**学生自らが時間割を作らなければなりません**。といっても、勝手に作れるわけではありません。岐阜大学の学生としてふさわしい力を身につけるために必要だと私たち「教員が考えた科目群」の中から選ぶことになっています。この科目群こそが「全学共通教育科目」であり、「教養教育」の中心となる科目群です。言い換えれば、これまでの「誰かが決めた」という受動的な態度から**自ら学ぶ**という能動的で自立的な態度へ変えてほしいということです。

学びの成果としての「単位」 もう一つ大事なことは、学んだ成果がどのように認められるかということです。大学では学ぶことで一定の能力を得たという証として「単位」を使います。高校でも「単位」という言葉があったかと思いますが、大学では卒業するのに必要な条件を「単位」の数で決めています。各科目を十分に勉強し、所定の目標に達したと判断されると、その科目の「単位」を得ることができます。この単位の積み重ねにより、卒業のための条件を満たしていきます。この卒業のための条件となる単位数を「卒業に必要な最低修得単位数」とここでは言うことにします。時間割と卒業に必要な最低修得単位数は関係があるのです。このように、高校までとは違い、皆さんは自立した人間として振る舞うことが期待され、自分自身で何を学ぶかを決めるとともに、所定の能力を得たという証として一定の単位数以上を得ることが必要とされています。

全学共通教育がめざす教養教育とは

人間としての成長 全学共通教育の授業が目的としている「教養教育」は、「人間形成」及び専門教育の「基盤の形成」に関わっています。特に「人としてどう生きるべきなのか」「互いを尊重した他者との関わりの中での自分とは」を考えることが大切です。皆さんも、例えば「人の生き方なんかどうでも良い、金さえ儲かればよい」とか「機械のことは知っているけど、日本の地理も歴史も文化もおぼつかなく、ましてや世界のことなどまるで関心もない」という人間では「人間として、社会人として優れた人」とは言えそうにない、と思っているに違いないからです。

専門と教養の関わり 先にも書いたように、真の専門家は「専門家でない人たち」にわかりやすい言葉で自らの専門を伝えることができる人です。そのためには、広く深い知識やものの見方を身につけていなければなりません。皆さんが目指している専門家として活躍するためには、その分野の知識や見方・考え方を身につけるのは当然です。この専門的能力を実際に社会で発揮するためには、社会の中での自らの立場や置かれた状況を理解し、行動しなければなりません。そこでは、予想もしないことがたくさん起きるでしょう。その予想外の事態に対応する能力や新しい解決策を生み出す基礎となるのは、実は「教養」なのです。ですから、本来、「専門」と「教養」の区別などないのです。さらに、社会に何かを受け入れてもらうためには、先にも書いたように専門外の人たちでもわかるように、その意義や優れているところをわかりやすい言葉で説明しなければなりません。そして、受け入れてもらうためには相手や社会からの要求に応じ、修正することも必要になります。このことからわかるように、社会人として必要なことは「広い視野」と「柔軟な思考」を持ち、「社会と関わる」ことなのです。全学共通教育が目的としている教養教育は「教養」と「専門」を皆さんの学びを通じて総合し、**自立した人材としての「広い視野」と「柔軟な思考」を持つために設置されている**とも言えるのです。

大学で学ぶ目的 大学教育の目的は、学部等での専門教育を含め、生涯にわたり自ら学んでいくための知識基盤や思考方法を学生自身が得ることにあります。大学ですべてのことを学ぶことはできません。学部等専門教育は「ほんの一部」です。大事なことは、生涯にわたり「自ら探求していくこと」なのです。大学での学びは次の四つにまとめられます。1. **自分自身で勉強する** 2. **意味を考える** 3. **つねに問題意識を持ち疑問を抱く** 4. **疑問に対し自ら答えを出そうとする**

履修科目の選び方

大学で学ぶ目的を達成する第一歩が履修科目の選択です。履修科目を選ぶときに気をつけるべきことは何でしょうか。

シラバスをよく読んで選ぶ 選択科目を履修しようという時にもっとも大事なことは、「シラバス（授業の案内・内容・計画などを示したもの）」を必ずよく読んで履修科目を選ぶということです。そのとき、「授業内容やレベルや授業目的」などをしっかり確認してください。確かめることを怠って履修すると「失敗した」ということになります。実際に、毎年そうした学生諸君が出てきます。「授業テーマ」を見ただけで「勝手に内容を想像」して選ぶと失敗します。後悔しても取り返しがつかないので「シラバスをよく読むこと」を絶対に守ってください。

どのように選ぶか 選ぶときにどのようにすればよいのでしょうか。考えてほしいことは3つあります。

1. 教養教育として何を学びたいか。
2. どんなことに興味があるのか。
3. 新しい見方や考えを知ることができそうな科目はどれか。

皆さんの興味は専門ないし専門に近いテーマにあるかもしれません。しかし、そのような授業は専門教育でたくさん学びます。ここでは、できるだけ自分が属する学科のテーマとは違っているけれども興味を持っていることや持ちそうなことを考えてください。

しないほうが良いこと 逆に選び方としてしないほうが良いことは何でしょうか。全学共通教育の授業を履修する際に「してはならないこと」、「しない方がいいこと」を示しましょう。「してはならないこと」「しない方がいいこと」は次の3点です。

1. やさしそうな授業、簡単に単位が取れそうな授業を選ぶ。
2. 趣味的に選ぶ。
3. 自分の専門に関わった授業ばかり選んでしまう。

これは多くの学生が実際にやってしまい、卒業してから「しまったな、失敗したな」と言って後悔していることなのです。卒業生の声だと言えますので良く理解してください。何故これらは駄目なのでしょう。 「やさしそうな授業」「簡単に単位が取れそうな授業」を探すということですが、これは「多くの学生諸君が真っ先に考える」ことのようにです。しかし、この態度は「ただ楽をして学位記（卒業証書）をもらいたい」というだけの動機であり、勉強に対する意欲も誠実さも意識もない態度と言えます。大学は「勉強する場」だということをしっかり理解しておいてください。それに、そのような態度で履修しても何の見返りもなく、ただ「無駄な時間」を過ごしたというだけで終わります。これは絶対にやってはいけないことです。「安易な人間」「易きに流れる人間」にはならないようにしてください。

また、「趣味的に好きなものだけ」を選ぶというのも駄目となりますが、これについては少しコメントが必要です。たとえば絵が「趣味」だとしましょう。この場合、「美術系の授業だけ無作為に選ぶ」というのが駄目だと言うのであって、もし「絵」が好きならば、その「絵画のテーマ・題材を与えている背景としての文化史」「美術表現に見られる人間本性・感情のありかた」といったことを学びたいという明確な勉強意識があって選択するならいいのです。つまり、「**学びへの意識**」が大切なのです。ここからさらに発展させられるからです。

さらに、「**自分の属する学科のテーマに近い授業は選択しない**」ようにしてください。これは逆に多くの学生が「役に立つ」「得意分野だ」という理由で選択してしまうのですが、結果として「視野の狭さ」だけが残ることになります。それに、自分の学科等に関連するテーマなら学部等専門の授業で触れられるはずですから、異なった領域のものを選択して「視野を広げておく」という方が何倍も得策である、ということになるのです。専門家の役割の一つに、自らの専門分野の内容を専門外の人たちにもわかるように説明するということがあります。また、行き過ぎた専門性も多くの問題を起こしてきました。俗に言う「専門バカ」です。岐阜大学が目指す「高度な専門的職業人」として卒業するためには、専門でない分野についても視野を広げておく必要があります。そのためには、**できるだけ幅広いテーマを選んでください。**

■注意

学生のみなさんへの通知・連絡および呼び出し等は、すべて全学共通教育棟の掲示板及び Web の学務情報システムによって行います。登校時には、**毎日必ず掲示板を見る習慣を身につけてください。**また、**Web の学務情報システムも毎日確認してください。**掲示等を見落とししたことにより、不利益をこうむることがありますので、くれぐれも注意してください。

この履修案内の記載内容に不明な点があれば、この冊子を持参のうえ、**全学共通教育事務室で尋ねてください。**

※この冊子で記載する掲示等とは、全学共通教育からお知らせする情報です。(学部等の専門科目に関する連絡事項は各学部等の掲示等で確認してください。)

全学共通教育 及び 教養教育について

学士課程教育 大学では、**専門**について系統的に学ぶとともに、学術文化の知的蓄積であり、また善き社会人にはその修得が必須である**教養**に接し、これを深く広く学ぶ必要があります。本学では、この目的を達成するために、4年(医学科および共同獣医学科は6年)一貫教育体制のもとに、教養教育と専門教育とを並行して履修します。

全学共通教育 教養教育として開講される『教養科目』は、各学部等が担当する一部の学部等開講科目を除いて大部分は、全学体制として設置された「**教育推進・学生支援機構**」のもとで開講され、これら全学部等に関わる教育を**全学共通教育**と言います。「全学共通教育」として開設される本学の科目区分は、大きくは次の12に分類されます。

- 1 **初年次セミナー** …… 大学生としての学びを身につける
- 2 **人文科学**
- 3 **社会科学** …… 人類の叡智を学び、知識と思考力を身につける
- 4 **自然科学**
- 5 **岐阜学**
- 6 **スポーツ・健康科学** …… 健康に支えられた豊かな人生を歩む
- 7 **英語** …… 国際化社会におけるコミュニケーション能力と
- 8 **言語と文化** …… 多文化理解による視野の広さを身につける
- 9 **社会人リテラシー** …… 長い目で人生設計を考える
- 10 **数理・データサイエンス・AI** …… 情報化社会に適応する基礎的な能力を身につける
- 11 **自由選択科目** …… 興味をもった分野をさらに究める (全学共通教育科目のいずれかから選択する。ただし初年次セミナー、および日本語・日本事情は含まない)
- 12 **日本語・日本事情** …… 留学生が日本語と日本事情を学ぶ

履修単位について

履修に関する基本用語と略称

基本用語

用語	解説
履修	各授業科目の講義、演習及び実験等の授業に出席し、各自の自習を含めて学ぶことをいいます。
履修登録	ネットワークに接続されているパソコン等から申請期間内に履修科目の登録が必要です。履修登録しないと授業に参加できません。
受講	各授業科目の講義、演習及び実験等の授業を受けることをいいます。
修得	授業科目を履修した上で、定期試験等を受験するなどして単位が認定された場合のことをいいます。なお、原則として全授業回数の2 / 3以上に出席しないと試験が受験できず、単位修得できません。
必修	必ず履修してその単位を修得しなければならない授業科目をいいます。
選択必修	定められた一定の範囲の授業科目の中から必ず履修して、その単位を修得しなければならない授業科目をいいます。
選択	定められた一定の範囲の授業科目を自由に選んで履修し、その（一定の範囲の）中から定められた単位数を修得すればよい授業科目をいいます。
不合格判定	履修した授業科目について、定期試験等を受験したが、成績表に「不可」あるいは「D」の成績評価がつくことをいいます。単位の上では未修得となります。
履修取消	授業についていけない、授業内容が期待していたものと異なるなど、理由によっては履修登録を取り消すことができます。決められた期間内に申請してください。ただし、抽選で落選者が出た科目は履修取消期間での取消はできません。
未履修	履修登録したものの、全授業回数の2 / 3以上出席しなかったり定期試験等を受験しなかったりしたため、成績評価の必要条件を満たしていない履修放棄及び受験放棄のことをいいます。
再履修	不合格判定及び未履修となった授業科目を、再度履修登録し、履修することをいいます。
追試験	やむを得ない理由により、試験を受験できなかった科目について、実施される試験のことをいいます。詳しくは、30ページを参照してください。
再試験	試験を受験した結果、不合格となった科目について、再度実施される試験のことをいいます。詳しくは、30ページを参照してください。
異議申立	自分の成績に納得できない場合には異議申立することができます。決められた期間内に必ず本人から申請する必要があります。
G P A (Grade Point Average)	成績評価（秀、優、良、可、不可）に応じて、グレード・ポイント（4・3・2・1・0）を付与して算出された1単位当たりの平均値のこと。未履修も不可と同等に扱われます。

単位

- 1 授業科目の学修を数量的に表わすために「単位」という概念が使われています。
- 2 授業科目の形態・コマ数によって単位の計算方法はそれぞれ異なり、1時限（90分）は2時間として計算されています。

初年次セミナー・人文科学・社会科学・自然科学・岐阜学・スポーツ・健康科学・言語と文化（講義科目）

・・・・・・2単位 = 週2時間・1学期15週・計30時間
(ただし、岐阜学の中には1単位科目もあります)

英語・言語と文化（演習科目）・社会人リテラシー・数理・データサイエンス・AI

・・・・・・1単位 = 週2時間・1学期15週・計30時間
(ただし、連携開設科目は2単位科目です。数理・データサイエンス・AIの中には2単位科目もあります)

- ☞ 1回の授業に対して、2単位科目は180分間の授業外学習が、1単位科目は45分間の授業外学習が求められています。

教養科目の最低修得単位数 ← これを満たさないと卒業できません！

科目区分	教育学部	地域科学部	医学部		工学部	応用生物科学部 応化・食農・生物圏	社会システム 経営学環	科目区分	応用生物科学部 共同獣医学科
			医学科	看護学科					
全学共通教育科目	初年次セミナー	2	2	2	2	2	2	2	
	人文科学	4	4	4	4	4	4	4	
	社会科学	4	4	4	4	4	4	4	
	自然科学	4	4	4	4	4	2	4	
	岐阜学	2	4	2	2	2	2	4	
	スポーツ・健康科学	2	2	2	2	2	2	2	
	英語	4	4	4	4	4	4	4	
	言語と文化	2	4	2	2	2	2	2	
	社会人リテラシー	1	1	1	1	1	1	1	
	数理・データサイエンス・AI	1	1	2	2	2	1	2	
	自由選択科目	4	2	5	3	2	2	—	
学部等開講科目	教養基礎	6	—	4	—	5	12	—	
	合計	36	32	36	30	34	38	29	

大学教育導入科目群 (学部等開講科目を含む)	6
人文・社会科学科目群	6
自然科学科目群 (学部等開講科目を含む)	10
複合領域科目群 (学部等開講科目, 岐阜学, スポーツ・健康科学, 社会人リテラシー, 数理・データサイエンス・AIを含む)	7
外国語科目群 (学部等開講科目を含む)	英語 6 第二外国語※1 2
合計	37

※1 言語と文化 (講義科目) の2単位科目から選択

☞ 自由選択科目は、全学共通教育科目から選択してください。

ただし、学部等開講科目、初年次セミナー、日本語・日本事情から選択することはできません。

- ◆ 一度単位を修得した授業科目は、再度履修することができません。
- ◆ 人文科学、社会科学、自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目分のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。(ただし、学部等によって自由選択科目に算入できる単位数は異なりますので、全学共通教育事務室または各学部等の事務室へ相談にきてください。)
- ◆ 同じ科目名のものは、授業名、担当教員及び開講時期が異なっても、一つしか履修できません。
- ◆ 英語、言語と文化、社会人リテラシー、数理・データサイエンス・AIは必修となる分野、授業科目が決まっています。

詳しくは各学部等のページを確認してください。

1つの学期に修得できる教養科目の単位数

1つの授業科目に対する単位の認定は、講義以外に予習・復習することを前提にしています。予習・復習の時間を確保し、十分に学修できるよう、以下の表のように、履修申請(登録)の授業科目の単位数に上限が設けられています。

学期	全学共通/学部等開講科目	教育学部	地域科学部	医学部		工学部	応用生物科学部		社会システム 経営学環
				医学科	看護学科		応化・食農・生物圏	共同獣医	
前学期	全学共通教育科目	18(集中含む)	18(集中含む)	24(集中含まない)	22(集中含まない)	18(集中含まない)	18(集中含まない)	19(集中含まない)	17(集中含む)
	学部等開講科目	—	—	3	—	4	12(集中含まない)	—	—
後学期	全学共通教育科目	16(集中含む)	18(集中含む)	24(集中含まない)	20(集中含まない)	16(集中含まない)	22(集中含まない)	19(集中含まない)	17(集中含む)
	学部等開講科目	—	—	1	—	—	—	—	—

☞ 学部等開講科目の単位数の上限は、全学共通教育の開講科目とは、別になっていますので、注意してください。

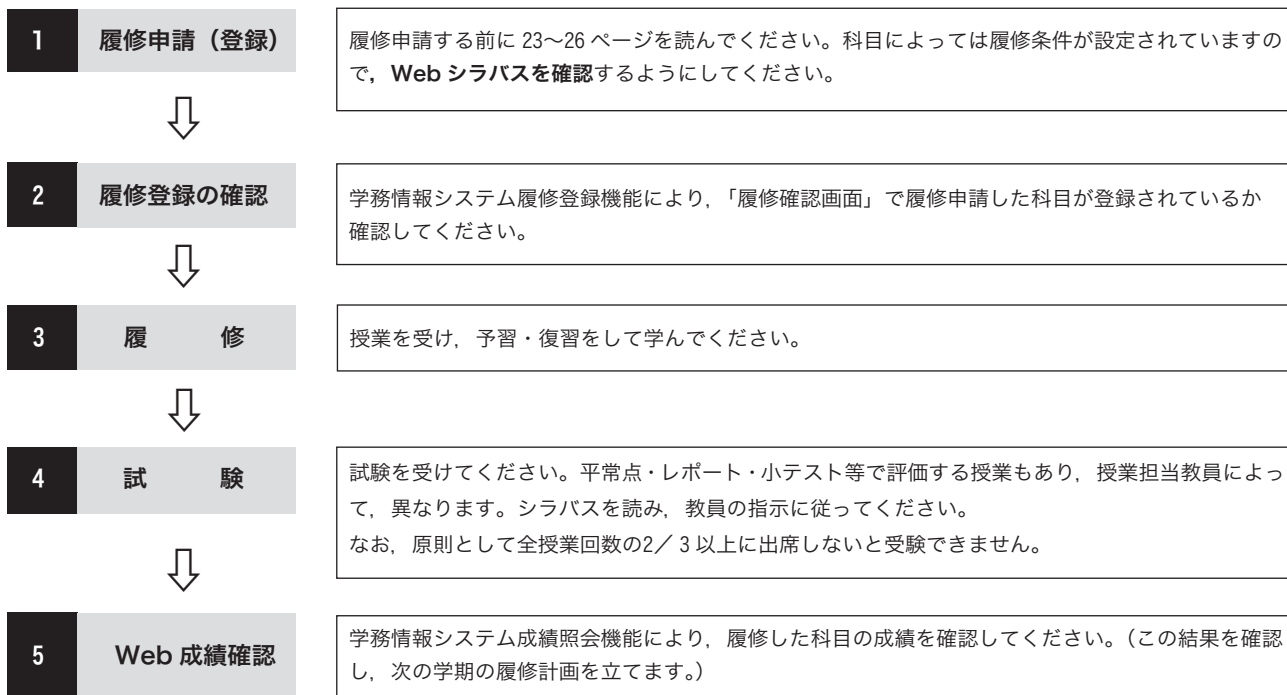
また、学部等によって専門科目と合わせた上限が設けられている場合があります。

☞ 全ての学部等において、初年次セミナーは上限に含まれます。また、事務で履修登録する科目も含まれます。

学部・学科等によって関門(進級に必要な単位数)が設けられている場合があります。各学部・学科等の便覧等により詳細を確認してください。

授業科目の内容と履修申請の方法

履修申請の概要

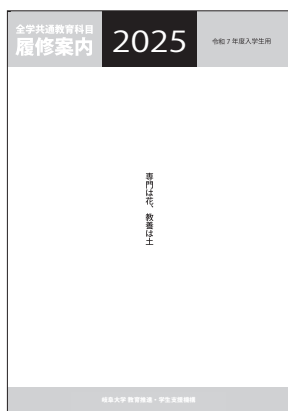


☞ 必修・英語、言語と文化及び初年次セミナーの再履修については、掲示等で方法を確認し、履修申請してください。

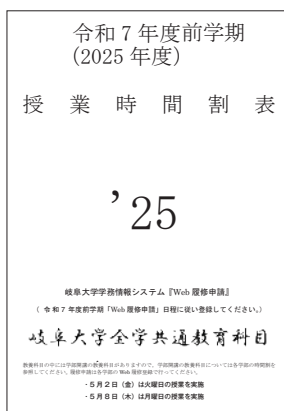
履修申請に必要なもの

授業を履修するためには、これに必要な手続きをしなければなりません。
全学共通教育ガイダンスで、全学共通教育の履修方法が説明されます。

用意するもの



全学共通教育科目履修案内
全学共通教育の履修方法・履修条件・授業科目等が記載されています。なお、シラバスは Web シラバスを必ず確認してください。



全学共通教育の授業時間割表
個々の授業科目の講義時期・教室等が記載されています。



ワークシート

全学共通教育の授業時間割表の最終ページに付録としてあります。1 週間の計画を立てるのに使用してください。提出する必要はありません。



ネットワークに接続されているパソコン

学内では、情報館及び図書館で利用できます。自宅からもアクセスできます。

授業科目の内容

教育推進・学生支援機構が開講する授業科目の区分と内容は、以下の表のとおりです。

科目区分		内容
教 養 科 目	初年次セミナー	大学での学びを自ら進めていくために、必要な知識・技術・態度を身に付ける科目です。
	人文科学	わたしたち人間について探究する学問分野であり、人間の行為や心理、人間が生み出す文化について多面的に学びます。
	社会科学	現代の社会の成り立ちやその仕組みを科学的に理解します。
	自然科学	いわゆるサイエンス系科目の基礎的な概念・知識・研究手法等を紹介し、さらには他分野への応用やその思想的背景・歴史にもふれます。
	岐阜学	多様な諸科学の視点から「岐阜」を含む地域を共通のテーマとして学術的にアプローチする科目です。
	スポーツ・健康科学	健康科学や身体活動・スポーツに関する知識・技能を修得します。
	英語	国際化した社会に適應できるよう、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能それぞれをバランス良く学びます。
	言語と文化	英語以外の言語を学ぶと同時に、その言語を使用する地域の文化や社会を理解します。
	社会人リテラシー	学生生活や社会人として必要となる知識や心構えを身につける科目です。
	数理・データサイエンス・AI	情報化社会に対応する基礎的な能力を身につける科目です。
	自由選択科目	初年次セミナー及び日本語・日本事情に関する科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選ぶ科目です。
	教養基礎	教養科目の中でも、特に各学部等（地域科学部、医学部看護学科、社会システム経営学環を除く）の専門の基礎科目に接続しており、専門教育と教養教育の架け橋とも言える科目です。
	日本語	外国人留学生等向けの日本語教育で、専門の基礎となる学習を行う科目です。
	日本事情	外国人留学生等向けの日本事情教育で、日本の社会、歴史、文化の特質等への理解を深めることを目指す科目です。

次頁へ

履修申請の手順

授業科目区分別の履修申請の手順は、以下の表のとおりです。再履修する場合は、掲示等に従ってください。

科目区分	履修申請（登録）方法
初年次セミナー	履修申請は、所定の期間に学務情報システムへログインして、各自行ってください。 (例外として、地域科学部、医学部及び社会システム経営学環の初年次セミナーは、事務で履修登録します。)
人文科学	① 各学期の履修申請期間中に、学務情報システムにログインして履修申請します。 ② 履修申請に当選したか否かは、締切後の抽選結果発表期間に、学務情報システムの抽選結果照会画面で当落を確認してください。 ●自由選択科目の単位となる選択の英語科目は、こちらの方法で履修申請します。 ●連携開設科目は、言語と文化科目も含めて、こちらの方法で履修申請します。 ●数理・データサイエンス・AI 科目のうち定員の上限がある科目は、こちらの方法で履修申請します。
社会科学	
自然科学	
岐阜学	
スポーツ・健康科学	
英語	① 学科や学籍番号等によってクラス分けします。 ② 履修登録は事務で行います。 ③ どのクラスになったかは、学務情報システムの履修登録画面で確認してください。
言語と文化 (前学期開講科目)	① 入学手続き時に選択した希望調査により、クラス分けされます。 ② 前学期開講科目の履修登録は事務で行います。(希望する言語になるとは限りません。) ③ どの言語になったかは、学務情報システムの履修登録画面で確認してください。
社会人リテラシー	履修申請は、所定の期間に学務情報システムへログインして履修申請します。
数理・データサイエンス・AI	
教養基礎	開講する学部等の履修申請期間中に、学務情報システムにログインして履修申請します。
日本語・日本事情	各学期の履修申請期間中に、学務情報システムにログインして履修申請します。

留意点（教養基礎は除く）：各学部等で決められた履修上限を超えたり、同じ時間帯に重複しての申請は決してしないでください。これに違反した場合は、掲示等で通知します。通知内容に応じない場合は、事務で強制的に履修取消処理をします。上限を超えた場合は超過した単位数に相当する科目を無作為に削除、重複履修の場合はその全科目を削除します。この処理後の異議申し立て、科目変更等は一切受け付けません。

〈初年次セミナー〉

初年次セミナーの概要と履修方法

- 1 初年次セミナーは2単位科目です。
- 2 初年次セミナーは学部等別に開講されます。各学部等が様々な初年次セミナーを開講しています。シラバスをよく読み、履修申請してください。
- 3 一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可等により再履修する場合は、次年度以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。
- 4 履修申請は各自行ってください。例外として、地域科学部、医学部（医学科・看護学科）、社会システム経営学環は事務で登録します。
- 5 クラス分け、履修内容などについては、各学部等の案内に従ってください。

〈人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学〉

人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の概要

- 1 人文科学科目，社会科学科目，自然科学科目，岐阜学科目，スポーツ・健康科学科目は一部を除いてすべて2単位科目です。
 - 2 (1)人文科学は6分野，社会科学は8分野，自然科学は10分野，また，スポーツ・健康科学は2分野に，それぞれ大分類されています。これらの分類は，履修者の選択の便宜のために，また学問分野の特性を考慮してなされた分類であり，履修対象者を指定・限定する分類ではありません。それぞれの分野に複数の科目が配置されています。
(2)10ページの最低修得単位数の表を参照しながら，各科目区分ごとに必要な単位数を履修してください。人文科学，社会科学，自然科学の科目については2科目め，3科目めを1科目めとは異なる分野から選択してください。同一分野で2科目以上履修した場合，卒業要件である科目の最低修得単位として認定されるのは1科目のみで，それ以外は自由選択科目となるので注意してください。（自由選択科目の最低修得単位数は学部等によって異なります。）
(3)同じ科目名のもは，授業名が異なっても，また，担当教員や開講時間が異なっても1つの授業しかシステム上単位を取得できません。ただし，授業担当教員の承諾があれば受講することは可能です。
 - 3 一度単位修得した授業科目は，再度履修することはできません。単位未認定等により再履修する場合は，次学期以降に履修します。履修申請に際しては，十分注意してください。
- ☞ 受講制限については，Web シラバスをご覧ください。

自然科学科目	科目名	授業名
数学分野	数論の数学 General Mathematics	数学概論Ⅰ(実数と数列) コンピュータのための数学概論
	基礎代数学 Basic Algebra	数学概論Ⅱ 古典数学へのいざない
	基礎解析学 Basic Analysis	解析学の基礎
	基礎統計学 Basic Statistics	微分積分学 統計学の基礎
	物理学入門 Introduction to Physics	身のまわりの物理学 現代物理学の基礎(相対論と量子 論入門)
物理学分野	古典物理学 General Physics	現代の視点から，古典に学ぶ(物 理学)
		物理学の基礎 露の科学
		物性の力学 力学現象の数学的見方

医学分野	科目名	授業名
教養の医学 General Medicine		人体生理学基礎
		生体防御・腫瘍病理基礎
現代医学 Modern Medicine		天文学への招待
		気象学概論
宇宙地球科学入門 Introduction to Earth and Space Science		地球環境の食源
		ESD入門
教養の宇宙地球科学 General Earth and Space Science Studies		宇宙科学
		自然災害と生活
現代宇宙地球科学 Modern Earth and Space Science Studies		生物の多様性と人間社会
		土の物理的環境
教養の環境学 General Environmental Science		

異なる「分野」から授業を履修して，卒業要件である最低修得単位数を満たさなければなりません。

同じ「科目名」のもは，1つの授業しかシステム上単位を取得できません。ただし，授業担当教員の承諾があれば受講することは可能です。

同じ「分野」であっても「科目名」が異なる授業は履修できます。ただし，卒業要件である最低修得単位数としては1科目2単位までしか認められず，それ以上は自由選択科目の単位として換算されます。

人文科学, 社会科学, 自然科学, 岐阜学, スポーツ・健康科学の履修方法

- ① 履修申請から、履修科目の確定までの流れを24ページに示しますので、参照してください。
- ② これらの科目は、学務情報システムにより履修登録期間中に履修したい科目を選択して Web で申請します。最初の履修申請期間中に申請しなかった場合は、再申請期間に履修申請してください。
- ☞ 同一の時間帯に2科目以上履修申請することはできませんので、注意してください。また、最初の申請期間で定員に達した科目にも再申請することはできません。
- ③ 履修申請者数が制限以内の場合、申請結果 Web 発表日に Web 上に「当選」と表示されます。
- ④ 履修申請者数が制限を超えた場合、抽選（特別な方法で抽選する科目もあります。）を行い、申請結果 Web 発表日に Web 上に「当選」・「落選」と表示されます。
- ⑤ 抽選に漏れてしまった場合は、定員に達していない他科目を再申請期間に履修申請してください。

スポーツ演習分野受講者の人数制限について

科目ごとにより定員（上限）が異なります。定員を超えて履修希望があった場合には抽選となります。

前学期

科目名（授業名）	主な 使用施設	担当教員	前学期										
			月				火						
			2	3	4	5	2	3	4	5			
ファストピッチ・ソフトボール (ウインドミル投法入門)	野球場	伊藤直人	25										
バドミントン A I	第1体育館	伊藤寿浩 大坪健太	40										
卓球	第2体育館	岸 順治			48								
ジョギング II	外周路・校外	中宗一郎 篠田知之		25				25					
ボールゲーム III	屋外コート（バレーボール他）	伊藤寿浩 坂本太一		30									
テニス I	テニスコート	長かおり		48	48								
バランスボールエクササイズ	柔道場	福田真衣子		20	20								
ハンドボール	第1体育館	杉森弘幸				36							
ボールゲーム I	第1体育館・屋外コート	日置佑輔					50						
バレーボール A	第1体育館	小栗和雄						56	56				
ヨガ・エアロビクス	剣道場	熊谷佳代									35		
卓球・水泳	第2体育館・プール	清水将文 他									21		
ペタンク（球技）	外周路	ゲラン, ジル									30		
太極拳	第2体育館多目的研修室	藤澤哲郎											10

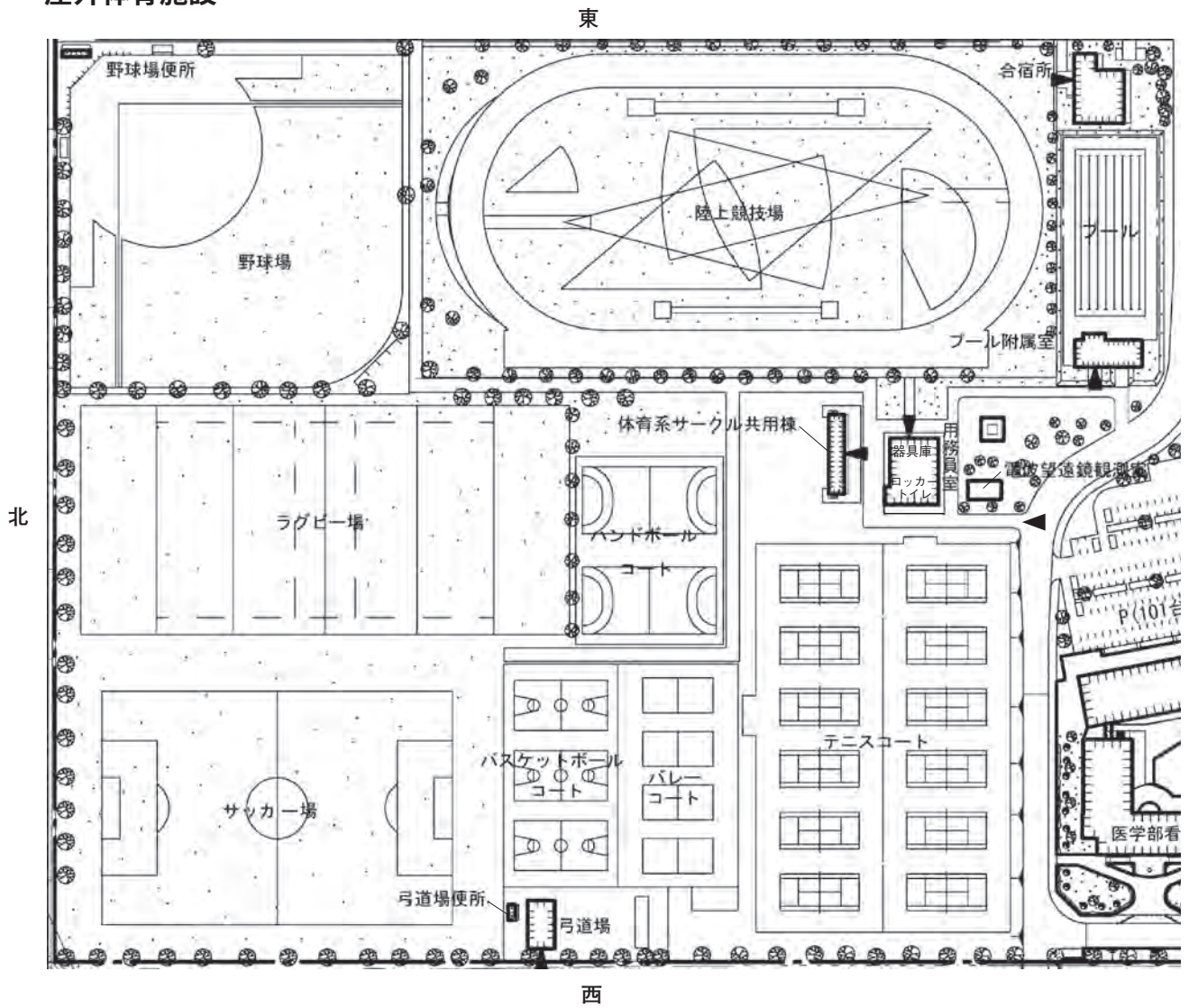
後学期

科目名（授業名）	主な 使用施設	担当教員	後学期									
			月				火				集 中	
			2	3	4	5	1	2	3	4		
卓球	第2体育館	西村真一	48									
		岸 順治		48	48							
新卓球（ラージボール）	第2体育館	横川隆志				40						
バドミントンAⅠ	第1体育館	大坪健太		48	48							
		小栗和雄						48	48			
テニスⅡ	テニスコート	長かおり		48	48							
バスケットボールA	屋外コート （バスケットボール）	小椋優作		48								
サッカー	サッカー場	難波宏明						30	30			
剣道Ⅰ	剣道場	坂本太一			20							
ボールゲームⅡ	第1体育館・屋外コート （ハンドボールコート他）	日置佑輔					50					
ペタンク（球技）	外周路	ゲラン, ジル							30			
アダブテッドスポーツ	第2体育館・ 第2体育館多目的研修室	河野公昭							20			
ジョギングⅡ	外周路・校外	篠田知之						25				
雪上スポーツで学ぶ（スキー）	志賀高原スキー場	春日晃章 他										50

👉 受講上の注意事項

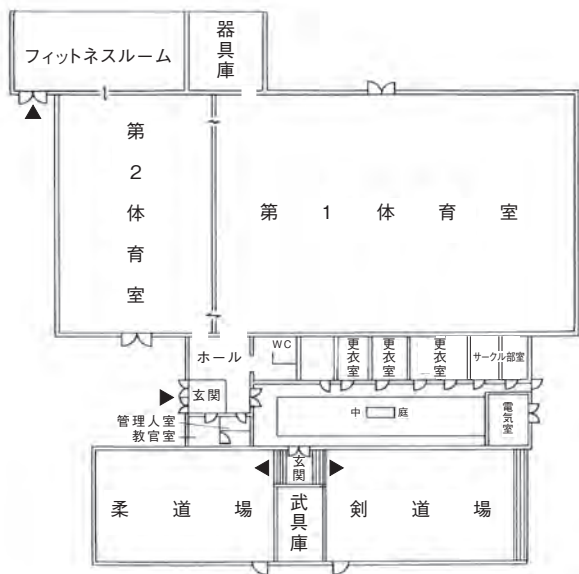
- ① 講義内容等：各科目の講義内容は Web シラバスを参照してください。
- ② 履修申請：「学務情報システム」を利用して、履修申請期間中に Web で申請してください。一覧表の開講曜日、時間帯、定員等を参考にして受講科目を選択してください。また、スポーツ演習分野の科目は、学年に関係なく抽選されますが、これ以外の方法で行われる場合もあります。
各学期、履修申請できるのは、健康科学講義分野・スポーツ演習分野を合わせて1科目までになります。
スポーツ・健康科学科目は、原則、履修取消申請できません。このことも踏まえて履修申請してください。
- ③ 人数制限：スポーツ演習各科目は、教育効果をより高めるために、施設・用具数や種目特性等によって「受入人数」を制限しています。受講希望者が定員（表参照）をオーバーする場合、その受講者は抽選により決定します。したがって、希望科目がその時間帯で受講できない場合があります。希望科目が年間に複数開講されている科目の場合は他の時間帯で受講してください。しかし、いずれの時間帯でも受講できないときは他の科目を受講してください。また、希望科目が年間に1つしか開講されない科目の場合は、2年次以降にわたる受講計画を立てて臨むか、他の科目を受講してください。
- ④ 雨天時展開：雨天の場合、各科目は屋内体育施設、フィットネスルーム及び教室を順番で使用します。雨天時の実施場所については保健体育棟と第1体育館の玄関前に掲示されます（その日の昼休み）。割り当てが「教室」となった場合は指定教室にてその科目に関する講義が行われます。指定教室については、授業時間割表で確認してください。
- ⑤ スポーツ・健康科学科目は、原則、履修取消申請の受付を行いません。また、②の上限1科目を違反した学生は、事務で削除科目を決めた上で通知をします。通知内容に応じない場合、当刻学期のスポーツ・健康科学科目は全て削除されます。詳細は、掲示等を確認してください。
- ⑥ スポーツ演習科目を受講する際は、貴重品等を更衣室に置いておくのではなく、鍵のあるロッカーに保管する等盗難に遭わないよう、各自管理を徹底してください。
- ⑦ 履修申請できる上限等、履修のルールが変更となった場合、掲示等によりお知らせします。

屋外体育施設



授業科目の内容と履修申請の方法

体育館



第1体育館



第2体育館

〈英語科目〉

こちらは、必修の英語科目についてです。

英語科目の概要と履修方法

- ① 英語科目は、1単位科目です。
- ② 英語科目は、学部等別に開講されます。履修登録は事務で行いますので、web上での登録は必要ありません。

英語のクラス分け

- ① 英語科目は、学務情報システムの履修登録画面で発表されたクラス分けに従って受講してください。
- ② 学部等によって英語1～4の開講学期・開講学年が異なります。

英語の集中クラス

英語を不合格判定（D：不可）となった場合、各学期終了後の休業期間に集中クラスを受講して再履修することができます。集中クラスの授業日程は、学期中に掲示及び学務情報システムにて周知します。

なお、集中クラスを受講することができるのは、当該学期に不合格判定（D：不可）となった場合のみです。未履修となった場合は集中クラスを履修することができません。

また、指定された日程の開講となります。他の集中講義等と重複しても、日程変更や履修取消に応じることはできません。

英語の再履修の方法と申請方法

- ① 英語を再履修（「不合格判定」及び「履修放棄」により）する場合は、原則として、次学期以降に開講される同じ授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。
- ② 専門教育の授業や、他の全学共通教育の授業開講の時間枠の関係で、再履修が困難になることがあります。特に、複数の授業科目が不合格（履修放棄含む）と判定された場合は、その後の他の授業科目の履修にも重大な支障をもたらします。十分に留意して勉学に励んでください。
- ③ 再履修の申請方法は、詳細を後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

〈言語と文化科目〉

言語と文化科目の概要と履修方法

- ① 言語と文化科目は、「言語と文化（講義科目）」と「第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）」があります。「言語と文化（講義科目）」は2単位科目、「第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）」は1単位科目です。
- ② 言語と文化科目のうち「言語と文化（講義科目）」は必修科目です。ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語の6つの言語（母語を除く）の中から1つ選択し、履修します。
- ③ 「第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）」は、「言語と文化（講義科目）」で学習した言語をさらに外国語として学ぶ科目です。アイスランド語を除く、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の5つの言語が開講されます。授業単位を取得した「言語と文化（講義科目）」と同一言語のⅠとⅡを履修することができます。ただし、各言語の授業実施方法の相違により、次の表に示すような履修条件がありますので注意してください。履修申請方法の詳細は、後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

第二外国語Ⅰ・Ⅱの授業実施方法による履修条件

言語	Ⅰ・Ⅱ履修	Ⅰのみ履修可	Ⅱのみ履修可
ドイツ語	○	○	○
フランス語	○	○	×
中国語	○	○	○
朝鮮・韓国語	○	○	×
ポルトガル語	○	×	×

- ④ なお、「第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）」は、地域科学部においてのみ必修科目となっています。地域科学部以外の学部等においては、選択科目です。履修方法については各学部等のページを確認してください。

言語と文化のクラス分け

- ① 「入学手続」時に選択した「言語と文化:言語の希望調査」の回答に基づいて自分が学ぶ言語のクラスが決定されます。授業は、およそ40人のクラス編成となります。特定の言語の希望者が多くなり、クラスの定員を超える場合は、希望順位の低い言語になることもあります。
- ② 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。

言語と文化の再履修の方法と申請方法

- ① 言語と文化を再履修（「不合格判定」及び「履修放棄」により）する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。
- ② 最低修得単位数を満たした場合でも、希望者は未修得の言語と文化を履修することができます。
- ③ 再履修の申請方法は、詳細を後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

〈社会人リテラシー科目〉

社会人リテラシー科目の概要と履修方法

- 1 社会人リテラシー科目は、1単位科目です。すべてオンデマンド型遠隔授業になります。
- 2 社会人リテラシー科目のうち日本語表現Ⅰ（初級）は必修になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。
- 3 一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可等により再履修する場合は、次学期以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

〈数理・データサイエンス・AI科目〉

数理・データサイエンス・AI科目の概要と履修方法

- 1 数理・データサイエンス・AI科目は、1単位・オンデマンド型遠隔授業科目と、2単位・対面型授業科目があります。
- 2 数理・データサイエンス・AI科目のうち、「データ科学基礎」は全学部で必修科目となります。「データ科学基礎演習A」「データ科学基礎演習B」は所属学部等によって必修科目の扱いが異なります。いずれも必修科目とならない学部等は自由選択科目となるので注意してください。

必修科目

科目名	教育学部	地域科学部	医学部		工学部	応用生物科学部	社会システム経営学環
			医学科	看護学科			
データ科学基礎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
データ科学基礎演習A			◎※1	◎	◎※2		◎
データ科学基礎演習B					◎※3		

※1 医学科は演習Aまたは演習Bのいずれかを選択必修

※2 工学部（化学・生命工学科のみ）は必修

※3 工学部（化学・生命工学科を除く）は必修

- 3 一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可等により再履修する場合は、次学期以降に開講される同じ授業科目を再履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

〈自由選択科目〉

自由選択科目の概要

初年次セミナー及び日本語・日本事情に関する科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選んで履修する科目です。なお、各科目の最低修得単位数を超えた単位は、自動的に自由選択科目として算入できます。

〈集中講義〉

集中講義の履修方法

集中講義の履修申請は、各学期の履修申請期間中に、学務情報システムにログインして行います。集中講義の日程を学務情報システムと掲示でお知らせしますので、履修を希望する場合は日程を確認してください。

学部等によっては、集中講義の単位数を、1学期に修得できる授業科目の単位数の上限に含めることがあります。10ページの「1つの学期に修得できる教養科目の単位数」を確認してください。

〈学部等開講科目〉

学部等開講・教養科目の概要

教養基礎（教育・医（医）・工・応生（共同獣医を除く））

- 1) 基礎科目的なものを、教養基礎として各学部別に指定された科目を履修します。
- 2) 開講学部以外に所属の学生も履修することはできますが、教養科目の卒業に必要な単位数には含まれません（教養科目の自由選択科目の単位にはなりません）。

☞ 詳しくは所属学部等の授業時間割表・履修案内・Web シラバスを参照してください。

〈日本語・日本事情に関する科目〉

日本語科目及び日本事情に関する科目の概要

1) 日本語

外国人留学生等が修得した日本語の単位のうち、2単位まで、言語と文化の「第二外国語（演習科目）」の1つの単位に充当することができます。希望する場合は、日本語の単位修得後速やかに全学共通教育事務室へ届け出なければなりません。

2) 日本事情

外国人留学生等が修得した日本事情に関する科目のうち、6単位まで、人文科学・社会科学・岐阜学及び言語と文化（講義科目）科目の単位に充当することができます。希望する場合は、その旨を日本事情の単位修得後速やかに全学共通教育事務室へ届け出なければなりません。学部等により人文科学・社会科学・岐阜学・言語と文化（講義科目）における修得単位数の指定がありますので、ご注意ください。

日本語科目及び日本事情に関する科目の開講時期・単位数

授業科目		前学期	後学期
日本語	日本語DⅠ－文章表現－	令和7年度非開講	
	日本語DⅡ－文章表現－		1
日本事情	日本事情AⅠ	2	
	日本事情AⅡ	令和7年度非開講	
	日本事情CⅠ	2	2
	日本事情CⅡ	令和7年度非開講	

〈連携開設科目〉

連携開設科目とは、他大学と本学が連携して開設する科目のことをいいます。令和5年度から、東海国立大学機構の下、岐阜大学と名古屋大学で連携開設科目が開設されました。岐大生は、名古屋大学で開講される連携開設科目を本学が開設した科目として受講することができます。両大学の強みである地域連携や国際関係分野の科目を共有し質の高い教育を目指しています。

連携開設科目の概要と履修方法

- 1 連携開設科目は、各科目の卒業に必要な最低修得単位数に算入することができます。ただし、教養科目及び専門科目合わせて上限30単位までです。
- 2 開講科目は、科目一覧または時間割表にて確認してください。
- 3 名古屋大学連携開設科目の履修申請は、岐阜大学の定める方法により行います。全学共通教育科目の履修申請は、各学期の履修申請期間中に、学務情報システムにログインして行います。履修申請者数が定員を超えた場合は、抽選が行われます。
- 4 連携開設科目は、各学期に修得できる全学共通教育科目の上限に含まれます。(ただし、集中講義を含むかは、学部等によって異なります。10ページにて確認してください。)

受講方法と注意点

- 1 名古屋大学連携開設科目は、名古屋大学の授業日程（学年暦）で受講することになります。授業日については、全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせにて確認してください。
- 2 名古屋大学の授業時間は、岐阜大学と同じです。

時限	時間	授業時間
第1時限		8：45～10：15
第2時限		10：30～12：00
第3時限		13：00～14：30
第4時限		14：45～16：15
第5時限		16：30～18：00

履修計画を立てよう

次の順序で、各学期の授業時間割を作成しながら、個々の授業計画の履修申請を進めていきます。

※授業時間割表（冊子）の最終ページに記入用ワークシートがあります。

所属する学部等の履修に関する内容（35ページ～78ページ）を必ず確認してください。

例 教育学部（英語教育）の学生の1年次前学期の場合を例にとります。

（言語と文化としてドイツ語を履修することになった場合）

① 全学共通教育の開講枠は、原則として、月曜日、火曜日、水曜日となっています（オンデマンド型遠隔授業科目（必修含む）や夏季休業や冬季休業等に行われる集中講義もあります）。

英語、言語と文化及び初年次セミナー（必修科目）は、履修クラスの曜日・時限が指定されているので、まずこれらをワークシートに記入します。☞ **記入例1**

② 次に、空いている曜日・時限に、時間割表・Web シラバス等を参照しながら、自分が希望する人文科学科目、社会科学科目、自然科学科目、岐阜学科目及びスポーツ・健康科学科目のWeb履修申請を行い、これらをワークシートに記入します。☞ **記入例2**

抽選の結果、抽選漏れになった場合は修正が必要です。

③ 1学期に履修申請できる単位数には上限が設定されています。10ページを参照してください。

集中講義も上限に含む学部等は数え間違いに注意してください。

記入例1

全学共通教育科目 履修申請ワークシート（控）

	月		火		水		木		金	
	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員
1					英語					
					英語2					
2	英語		言語と文化							
	英語1		ドイツ語							
3										
4										
5			初年次セミナー							

記入例2

全学共通教育科目 履修申請ワークシート（控）

	月		火		水		木		金	
	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員	科目区分 授業科目名	担当 教員
1			人文科学		英語					
			美術論		英語2					
2	英語		言語と文化		岐阜学					
	英語1		ドイツ語		自分らしいキャリア設計I					
3	スポーツ・健康科学									
	バドミントンAI									
4	社会科学		自然科学							
	メディア論		教養の宇宙地球科学							
5			初年次セミナー							

Webでの履修申請から履修確定まで

① 履修申請計画を立てます。

必修科目（英語科目等）の履修を最優先し、それ以外の授業時間に、どの科目を履修申請するか選んでください。その際、各学部等で指定されている最低修得単位数や履修上限単位数（全学共通教育への履修上限単位数にも注意してください）も考慮して計画を立ててください。また、Webシラバスで授業内容を確認してください。

② 申請期間に、Webで履修申請します。

申請期間内であれば、履修変更・修正が可能です。
申請期間後は、Webでは変更・修正はできません。
スポーツ・健康科学に申請できるのは、**各学期1科目まで**になります。



③ Webにて履修申請の結果を確認します。

定員オーバーとなった科目の抽選結果を公表します。
・「当選」：履修申請が受理されました。ここで確定した科目は、Webで取消・変更をすることはできません。
・「落選」：抽選漏れ等により、履修することはできません。
・「未処理」または表示なし：まだ抽選されていません。

④ 再申請期間に、（必要があれば）Webで履修申請します。

最初の履修申請で抽選に落ちた場合等、まだ履修が確定していない曜日・時限に申請できます。ただし、既に抽選・締切となった科目には、申請できません。この期間以降、科目の履修申請をすることはできません。（例外として、この再申請で抽選落ちした学生のみ、落選者限定申請ができます。下記⑤参照）
また、この期間は科目の追加申請のみで、確定している科目の変更・取消はできません。

⑤ Webにて再申請の結果を確認します。

再申請で抽選落ちした学生のみを対象として、落選者限定申請を行います。方法等詳細は、決定次第、掲示等によりお知らせします。

⑥ 履修登録確認期間に、自分の履修登録を確認します。

各自Webの『履修確認画面』により、申請（当選）した科目が全て登録されていることを確認してください。
やむを得ない理由により取消を希望する場合の方法等詳細は、決定次第、掲示等によりお知らせします。また、問題が発生した学生は掲示等で通知しますので、随時必ず掲示等を確認してください。

⑦ 履修登録完了・履修確定

当選した科目のみ受講します。

抽選が行われる科目以外は、所定の方法により履修登録し、受講します。

《注意事項》

- 履修申請期間は2回です。初回申請と再申請期間。期間外の申請は認めません。（落選者限定申請は再申請で抽選にもれた学生のみ対象）
- 初年次セミナー、日本語表現Ⅰ（初級）、データ科学基礎、データ科学基礎演習A及びデータ科学基礎演習Bは、クラス間違い、Web申請忘れをした場合は、履修登録確認期間に修正ができます。詳細は、学務情報システムの全学共通教育キャビネット及び全学共通教育掲示板によりお知らせします。
- 履修に問題が発生した場合、掲示等で通知します。掲示板及び学務情報システムのチェックを欠かさないでください。この通知内容に応じない場合は、強制処理します。処理後の申立て・科目変更は一切受け付けませんので、ルールを必ず守って申請してください。
- 同一曜日時限に全学共通教育科目を2科目以上履修申請する、という重複履修は重大なルール違反です。決してしないでください。重複履修が判明した場合は、その全科目を削除します。
- 全学共通教育への履修上限単位数は、Webでの申請時システムチェックはかかりませんので、各学部等で定められている「履修申請（登録）単位数の上限」を超えないように履修申請してください。
履修上限を超えて申請した場合は、超えた単位数に相当する科目を事務で無作為に削除します。
- これ以外にも問題が発生した場合は掲示等で通知し、その内容に応じない場合は強制処理を行います。
- 同じ科目名のもは、授業名、担当教員及び開講時期が異なっていても1つしか履修できません。
- 人文科学、社会科学、自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目分のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。（ただし、学部等によって自由選択科目に算入できる単位数は異なりますので、全学共通教育事務室または各学部等の事務室へ相談に来てください。）

履修申請の日程

履修申請は、以下に示す日程で行います。履修登録期間等は必ず守ってください。
期限に遅れると、一切履修申請できなくなりますので、注意してください。

履修について不明な点がある場合は、必ず事前に全学共通教育事務室に相談に来てください。

前学期

期日等	行 事	履修関係スケジュール	英語、言語と文化科目
4月 1日(火)	全学共通教育ガイダンス		「言語と文化」科目は、希望調査により、クラス分け決定後、事務で登録します。(※必ずしも希望通りになるとは限りません。) 「英語」科目は、事務でクラス分け登録します。
2日(水)	全学共通教育ガイダンス		
3日(木)	全学共通教育ガイダンス		
5日(土)		Web 履修申請期間 5日(土) 9:00～ 9日(水) 12:00まで。	Webにてクラス分け発表。
7日(月)	入学式		
8日(火)		9日(水) 17:00～10日(木)の間に順次申請(抽選)結果Web発表	自由選択科目の単位となる選択の「英語」は、Web履修申請期間に申請します。
9日(水)			
10日(木)	前学期授業開始		
11日(金) 13日(日)		Web 履修再申請期間 11日(金)～13日(日) 8:30まで。	連携開設科目は、言語と文化科目も含めて、Web履修申請期間に申請します。
13日(日) 16日(水)		13日(日) 17:00～16日(水) 15:00の間に順次再申請(抽選)結果Web発表	
16日(水) 18日(金)		履修登録確認期間※① 落選者限定申請期間 (再申請で抽選に落選した学生対象)※② 16日(水) 17:00～ 18日(金) 9:00まで。	
6月 2日(月) 4日(水)		履修取消期間※③ 6月2日(月) 8:30～ 4日(水) 17:00まで 受付：全学共通教育事務室窓口	

- ◎「全学共通教育ガイダンス」(今年度入学1年次のみ対象)は、履修方法等をビデオ上映します。上映するビデオをホームページにも公開しますので、ホームページからご覧になった場合は参加いただく必要はありません。
 新入生に係る授業開始までの行事予定は岐阜大学公式ホームページ「入学ガイダンス」で確認してください。
- ◎初年次セミナーの履修申請方法は学部によって異なります。医学部(医・看)及び社会システム経営学環はWeb申請期間前に全共事務で、地域科学部は第1回授業終了後に地域科学部事務で登録します。それ以外は4月5日(土)9:00～13日(日)8:30までに各自Web申請してください。
- ◎社会人リテラシー及び数理・データサイエンス・AIのオンデマンド型授業(定員なし)の履修申請は4月5日(土)9:00～13日(日)8:30までに各自Web申請してください。

履修登録確認期間、落選者限定申請期間、履修取消期間について (Web上では訂正・取消・申請はできません)

- ※① この期間中にWeb(学務情報システム)の「履修・成績」―「履修確認」で、自身の履修登録状況を印刷し、各自で必ず確認してください。不明な点がある場合、印刷した自身の履修確認画面を持って全学共通教育事務室に申し出てください。やむを得ない理由による取消申請の詳細は、学務情報システムの全学共通教育キャビネット及び全学共通教育掲示板によりお知らせします。ただし、スポーツ・健康科学科目は、原則、取消申請できません。
- ※② 再申請した科目の抽選に漏れた場合に限り、期間内に受入可能科目に申請ができます。詳細は学務情報システムの全学共通教育キャビネット及び全学共通教育掲示板によりお知らせします。
- ※③ 4月下旬に取消の申請方法を掲示、学務情報システム等によりお知らせします。ただし、抽選で落選者が出た科目及びスポーツ・健康科学科目の取消はできません。また、取消した科目の代わりに、新たな科目を追加登録することはできません。

後学期

令和7年7月頃に後学期の履修申請日程を確定します。掲示、学務情報システム、後学期授業時間割表等によりお知らせしますので、必ず確認するようにしてください。

期日等	行 事	履修関係スケジュール	英語
(夏休み 期間中) 9月初旬	Web で前学期・全学共通教育開講科目の成績確認		
9月中旬		Web 履修 申請期間 順次申請（抽選）結果は Web で発表	英語は、事務で履修登録します。
9月下旬 (10月上旬 を含む可 能性あり)		Web 履修 再申請期間 順次申請（抽選）結果は Web で発表 履修登録確認期間※① 落選者限定申請期間※② 再申請で抽選に落選した学生対象	ただし、自由選択科目の単位となる選択の「英語」及び連携開設科目（言語と文化科目も含めて）は、Web 履修申請期間に申請します。
10月1日 (水)	後学期授業開始 第1回目の授業には履修申請した結果を確認の上、確定した科目に出席してください。		
11月中旬		履修取消期間※③ 受付：全学共通教育事務室窓口	

◎社会人リテラシー及び数理・データサイエンス・AIのオンデマンド型授業（定員なし）の履修申請は初回申請から再申請期間までに各自 Web 申請してください。

履修登録確認期間、落選者限定申請期間、履修取消期間について（Web 上では訂正・取消・申請はできません）

- ※① この期間中に Web（学務情報システム）の「履修・成績」―「履修確認」で、自身の履修登録状況を印刷し、各自で必ず確認してください。不明な点がある場合、印刷した自身の履修確認画面を持って全学共通教育事務室に申し出てください。やむを得ない理由による取消申請の詳細は、学務情報システムの全学共通教育キャビネット及び全学共通教育掲示板によりお知らせします。ただし、スポーツ・健康科学科目は、原則、取消申請できません。
- ※② 再申請した科目の抽選に漏れた場合に限り、期間内に受け入れ可能科目に申請できます。詳細は学務情報システムの全学共通教育キャビネット及び全学共通教育掲示板によりお知らせします。
- ※③ 10月下旬に取消の申請方法を掲示、学務情報システム等によりお知らせします。ただし、抽選で落選者が出た科目及びスポーツ・健康科学科目の取消はできません。また、取消した科目の代わりに、新たな科目を追加登録することはできません。

「出席情報システム」による打刻方法

(授業担当教員の指導により、打刻が求められない場合があります。)

◎受講時、学生証による打刻（全学共通教育講義棟）

- 1 原則「入室時」の1回のみ打刻してください。下記打刻時間内に打刻すれば、「出席」となります。
- 2 各教室の入口にカードリーダーが設置してありますので、リーダーの下辺り（液晶画面下のマーク付近）に学生証をかざしてください。

時間 時限	授業時間	打刻時間
第1時限	8:45～10:15	8:00～8:45
第2時限	10:30～12:00	10:16～10:30
第3時限	13:00～14:30	12:30～13:00
第4時限	14:45～16:15	14:31～14:45
第5時限	16:30～18:00	16:16～16:30

[留意事項]

- 1 学務情報システムの確認画面表示は、「●：出席」、「▲：遅刻」、「×：欠席」の3パターンで判定されます。
※反映にはタイムラグがあります。
- 2 学生証を忘れた場合、出欠席確認を行う授業では、授業担当教員に届け出てください。
※ただし、考慮されるかどうかは、各科目の担当教員に一任されています。
- 3 出席情報システムの取扱いは、担当教員の指示に従ってください。
出席状態の判定についても、「出欠」とするか、「打刻情報としての参考」とするかは、担当教員によって異なります。

◎次のような不正な打刻は止めてください。

- 1 1人の学生が複数の学生証を打刻する。
- 2 打刻のみ行い授業に出席しない。

☞ 不正を絶対に行わないよう適正な打刻、積極的な授業への出席に努めてください。

※不正な打刻が発覚した場合は、単位が認定されない場合があります。

受講に際しての注意

1. 受講選択

受講に際してはとにかく「勉強したいテーマ」の授業を選ぶようにし、「単位目当て」「時間割の都合」などで授業を選ぶということはしないでください。

2. 私語の厳禁

多くの学生からこの「私語」へのクレームが寄せられています。「私語」は「授業妨害」であり、また、話しかければ「被害者」が生じます。

したがってこれについては、教員には先ず「注意」をするように要望しています。再度の注意にもかかわらずそれでも止まない時には「退席」が求められる場合もあります。

3. 「授業と関係のない行為」の厳禁

授業にかかわりのない行為、たとえば「他の本を読んで」いたり、「携帯メールを打って」いたり、「寝て」いたり、「パンなどを食べて」いたりといった行為は「教室の雰囲気壊す」として多くのクレームが寄せられています。

実際これは他方で「授業への参加を拒否」している態度と言えますので、先ず教員には「注意」をするように要望しています。それでもこの行為を繰り返した時には「退席」が求められる場合もあります。

4. 遅刻と無断での途中退席の厳禁

これは「いつまでも教室が落ち着かない」ということで「授業の妨害」となっています。やむを得ず遅刻した場合は静かに入室し着席してください。

また、通常「30分の遅刻は休講」とされており、これは教員だけではなく学生にも適用されると考えてください。すなわち、正当な理由のない30分以上の遅刻は入室が禁止されてもやむを得ないと考えてください。もちろん「電車・バスの遅延やその他の理由」がある場合は別です。

途中退席する場合は教員の「許可」をとった上で退席してください。

5. 代返・代書の厳禁

出席や小レポートでの代返や代書などは、「授業を行っている教員とまじめに出席している他の学生たちを欺く行為です。」従って、これが発覚したときには「した者、頼んだ者の両者」に「単位の不認定」が言い渡されても仕方がないと考えてください。

6. 試験・レポートでの「不正行為」の厳禁

試験・レポートでの不正行為は、従来から多くの場合「当該学期のすべての単位の取り消し」という処置となっています。ちょっとした「出来心」でも取り返しがつきません。今後、摘発や処置に厳正さが要求されていますので、疑わしい所作や行動はとらないように注意してください。また、教員の指示に従わない場合も「不正行為」と見なされることがあります。

7. その他

授業において不満・問題を感じた時には、そのクレームを受け付ける用意を教員・大学当局は持っております。当該教員に直接言いにくい場合は「全学共通教育事務室」宛てにクレームを寄せてください。その場合、対応を返答したいと思いますので学部等・学科等・学年・氏名・連絡方法を明記してください。この場合、学生諸君にかかわる個人情報には委員会内にとどまり、当該教員はじめ外部にもらすことは一切ありません。

なお、教員には別途「授業計画・運営」についての要望をし、学生諸君からの要望、声を反映してもらおうようにしています。教員、学生、大学当局などすべてが協力して良い授業を作り上げていくように協力してください。

定期試験について

実施方法・実施時期

- ① 全ての授業科目について、学習目標の到達度を評価するために、原則として定期試験を実施します（授業科目によっては、平常点・レポート・小テスト等で評価し、定期試験を行わないものもあります）。
- ② 定期試験は、それぞれ学期末に実施する予定です。
詳しい日程・実施方法等は、7月（前学期）と1月（後学期）に貼り出される掲示で確認してください。

受験資格

原則として全授業回数の2 / 3以上出席しなければ、試験を受けることができません。

受験上の注意事項

- ① 試験を受ける時は、以下の注意事項を必ず守ってください。
定期試験時間割表に指定された教室で受験してください。（通常の授業で使用している教室を変更する場合もあるので、確認してください）。
- ② 着席位置は、監督者の指示にしたがってください。
- ③ 学生証を机の上に置いてください。（試験当日、学生証を忘れた場合は全学共通教育事務室に申し出て、仮身分証明の交付を受けてください）。
- ④ 所持品は、許可された物以外を机の上・中に置かないでください。また、携帯電話は電源を切り、時計等の代わりにも使用しないでください。
- ⑤ 試験開始の合図があるまで解答を始めないこと。その他監督者の指示にしたがってください。
- ⑥ 遅刻は、原則として試験開始30分まで認め、これ以後の入室は認めません。
- ⑦ 退室は、試験開始後30分を経過するまで認めません。
- ⑧ 上記の指示に従わない者は、退室を命じます。
- ⑨ 不正行為を行った場合は、当該学期の全学共通教育科目の単位が取り消されます。

追試験

- ① 定期試験を受験できなかった者で次の番号のいずれかに該当する場合は、願い出により理由等を審査のうえ、1回に限り追試験を受けることができます。
 - 一 病気によるもの。ただし、医師の診断書により証明されたものに限りです。
 - 二 その他、不可抗力等やむを得ない理由によるもので教育推進・学生支援機構長が認めたもの。
- ② 追試験を受けようとする場合は、直ちに全学共通教育事務室へ願い出てください。事務室で渡す「追試験願」及びやむを得ない理由を証明する書類を、定期試験終了後1週間以内（特別の事情がある場合は、この限りではありません。）に提出しなければなりません。やむを得ない理由と明確な証明書の具体例は、以下の表のとおりです。
やむを得ない理由と明確な証明書の具体例

理 由	証 明 書
葬儀への参列	会葬お礼状など
電車・バスの遅れ、不通	遅延（延着）証明書、不通証明書
被災（地震・水害など）	罹災証明書、被災証明書

- ③ 追試験の実施期日等については、掲示等でお知らせします。追試験を欠席した場合、再度試験は行われません。

試験の結果、不合格になった授業科目の再試験

原則として、再試験は実施しません。ただし、特別な理由で再試験となった場合は、担当教員から指示がありますので、その指示に従ってください。

成績評価

成績評価の基準は、次のとおりです。秀、優、良、可が合格、不可は不合格となります。

評語	評価基準等	素点を用いる場合の得点率
秀	到達すべき目標を十分に達成し、優よりも更に卓越した成果をあげている。	90%以上
優	到達すべき目標を十分に達成し、優れた成果をあげている。	80%以上・90%未満
良	到達すべき目標を十分に達成している。	70%以上・80%未満
可	到達すべき目標を達成している。	60%以上・70%未満
不可	到達すべき目標を達成していない。	60%未満

評価は、学務情報システムの「成績照会」で確認することができます。成績照会等は「評語」のみが明示されます。ただし、履修放棄又は受験放棄した科目には「未履修」と表示されます。

不正行為に対する処分

試験やレポートなどにおいて不正行為を行った場合は、その学期に修得した全学共通教育科目の単位が取り消されます。

① 次に掲げる行為を「不正行為」とします。

筆記試験

- (1) 本人に代わって受験し、又は受験させる。
- (2) 次のア～カに該当する行為（カンニング）を行う（事前に許可されているものを除く）。
 - ア 定期試験等に関連した内容を机、筆記用具等へ書き込みをする。
 - イ 教科書、参考書、ノート、プリントを見る。
 - ウ 携帯電話、スマートフォン、電子辞書、電卓等の電子機器類を用いる。
 - エ 他の学生の答案の全部又は一部を書き写す。
 - オ 他の学生に答えを教える、答案を見せる。
 - カ その他定期試験等に関連した内容について記述したものを見る。
- (3) 試験監督者の指示に従わず、又は公正な試験を妨げると認められる行為をする。

レポート試験

- (4) 剽窃行為をする。
（書籍、論文、新聞、雑誌、資料、インターネット上の文章などの全部または一部を写し、自分のものとして提出すること）
- (5) 代筆する、又は代筆させる。
- (6) データの捏造、改ざんをする。

② 不正行為を行った者に対しては、以下のような措置をとります。

不正行為内容	措置
(1) 本人に代わって受験し、又は受験させる。 (2) カンニングを行う。 (4) 剽窃行為をする。 (5) 代筆する、又は代筆させる。 (6) データの捏造、改ざんをする。	当該学期に履修したすべての全学共通教育授業科目の成績を不可とする。
(3) 試験監督者の指示に従わず、又は公正な試験を妨げると認められる行為をする。	当該授業科目のみの成績を不可とする。

成績評価の異議申立て

当該学期の成績評価に関し、疑義を感じたときは、全学共通教育事務室へ申し出てください。異議申し立てができる期間は、前学期、後学期それぞれ掲示等によりお知らせします。申立ては学生本人に限ります。保護者および第三者からの申し出は受け付けません。

気象警報発表時及び交通障害時における授業の取扱い

① 気象警報発表時の取扱い

(1) 岐阜市に「特別警報」^(注)又は「暴風警報」が発表された場合は、原則として警報発表時以降の授業等を休講とする。ただし以下のとおり警報が解除された場合は、授業等を実施することとする。

①発表された警報が、午前6時までに解除された場合は、全日の授業等を実施する。

②発表された警報が、午前10時30分までに解除された場合は、午後の授業等を実施する。

(2)気象状況の悪化が予測される場合もしくは市町村等から避難指示・緊急安全確保が発令された場合の取扱いは、副学長（教育担当）の判断により決定する。

② 災害又はストライキ等による交通障害時の取扱い

災害又はストライキ等により、東海道本線の名古屋～大垣間、名鉄本線の名鉄名古屋～名鉄岐阜間が共に運休した場合又は岐阜駅からのバスが運休した場合は、上記1に準じた取扱いとする。

③ 上記によりがたい場合は、学長及び副学長（教育担当）が協議の上決定し各学部へ通知する。

④ 上記1～3により授業を休講する場合は、原則、本学のホームページに掲載するものとするが、1の(1)①の午前6時現在については、ホームページへの掲載が遅れることが予想されるので、各自がテレビ・ラジオ・インターネット等で確認するものとする。

⑤ その他詳細については本学のホームページ (https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/information/keiho.html) を確認してください。



(注)「特別警報（気象）」は、警報の発表基準をはるかに超える大雨、暴風、暴風雪、大雪などに対して発表される。

本学以外の教育施設等における学修の単位認定

下の表の資格のうち一つを得た学生で希望者に対しては、全学共通教育の英語を2単位以内に限り、単位修得したものと認定しています。認定された英語は、各学期に履修申請できる単位の上限には含まれませんので、空いた時間帯に他の科目を履修することもできます。

※単位認定された科目は、GPT及びGPAの計算対象外となります。

※GPT及びGPAの計算方法は各学部で配布する便覧等でご確認ください。

※本学在学中もしくは本学入学前に受験したものを対象とする。本学入学前に受験した場合は、受験日（複数回の試験で実施される試験にあっては、最終試験の受験日）から2年以上経過したものは除く。

① 申請手続き

申請手続き等の詳細は、掲示でお知らせします。

なお、本学入学前に受験したものについては、入学時の授業開始後の1週間以内に申請手続きをしてください。

② 単位認定

本学在学中に受験したものにあっては、資格取得日又は成績証明発行日の属する学期の翌学期以降に開講される授業科目において認定する。

英検等合格者の単位認定基準

学部等	成績基準（点／級／レベル）	授業科目及び認定単位数
全ての学部・学科等	TOEIC Listening & Reading 各セクション 350点以上	Listening セクション 350点以上 全学共通教育の英語科目「英語2」の1単位を認定する。
	※セクション別に評価しません。 ※TOEIC-IPは TOEIC Listening & Reading の成績基準に準ずる。	Reading セクション 350点以上 全学共通教育の英語科目「英語3」の1単位を認定する。
	TOEIC Speaking & Writing 各セクション Level 6以上	Speaking セクション Level 6以上 全学共通教育の英語科目「英語1」の1単位を認定する。
	※セクション別に評価しません。	Writing セクション Level 6以上 全学共通教育の英語科目「英語4」の1単位を認定する。

学部等	成績基準 (点/級/レベル)	授業科目及び認定単位数
全ての学部・学科等	TOEFL iBT 76点以上	全学共通教育の英語科目のうち「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」の中から、2単位までを認定する。
	TOEFL ITP 530点以上	全学共通教育の英語科目のうち「英語2」「英語3」の中から、2単位までを認定する。
	英検 準1級以上	全学共通教育の英語科目のうち「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」の中から、2単位までを認定する。
	IELTS 6.0点以上	全学共通教育の英語科目のうち「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」の中から、2単位までを認定する。
	ケンブリッジ英検 FCE 以上 ※ FCE (First Certificate in English)	全学共通教育の英語科目のうち「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」の中から、2単位までを認定する。

注) 認定可能な単位数は、すべての試験を通じ2単位までとする。

放送大学を利用した全学共通教育の単位修得

放送大学学習センター及びBSデジタル放送(テレビ・ラジオ)等による授業と単位認定試験を受けて修得した単位が、全学共通教育の卒業に必要な単位数として認定される場合があります。履修申請(登録)方法や申請期間、履修制限等の詳細は、全学共通教育の掲示でお知らせします。必ず事前に全学共通教育事務室まで相談にきてください。専門教育として履修を希望する場合は、所属学部等で確認してください。

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜参加校間における包括的単位互換制度に基づく単位修得

岐阜県内の「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜」に参加する大学に所属する学生が、他の参加大学で開講される様々な科目を履修し、単位修得した場合、学生が所属する大学の単位として認定される制度が実施されており、岐阜大学もこれに参加しています。

履修申請(登録)方法や申請期間、履修制限等の詳細は、GUC[ネットワーク大学コンソーシアム岐阜]のホームページURL: <https://www.gifu-uc.jp> で確認してください。教養科目と専門科目があります。専門教育として履修を希望する場合は、所属学部等で必ず相談してください。

放送大学及びネットワーク大学コンソーシアム岐阜による修得単位の認定上限について

放送大学及びネットワーク大学コンソーシアム岐阜による修得単位の認定上限については、学部・学科等によって異なりますので、所属学部等で確認してください。

協定大学等のサマースクール等における学修の単位認定

各学部等が卒業要件とする全学共通教育の英語科目のうち2単位まで認定する。

手続き等の詳細は、掲示でお知らせします。

※単位認定された科目は、GPT及びGPAの計算対象外となります。

※GPT及びGPAの計算方法は各学部等で配布する便覧等でご確認ください。

※単位認定は、協定大学等で行うサマースクール等の語学研修プログラムにおける学修の終了日の属する学期の翌学期以降に開講される授業科目において認定する。

その他

① 全学共通教育からの通知・連絡等

学生のみなさんへの連絡などは、原則としてすべて掲示等(全学共通教育講義棟の掲示板及び学務情報システム)によって行われます。日に一度は必ず全学共通教育講義棟のピロティ掲示板を見る習慣を付け、掲示を見落とすことのないようにしてください。また、学務情報システムも、併せて毎日確認するようにしてください。

② 学生呼び出し

学生個人に対する電話の呼び出しは、緊急かつ重要な場合を除いて、大学では取りつぎしませんので、その旨家族、友人等によく周知しておいてください。また、個人の住所、電話番号等の問い合わせに対しては、応じられません。

教育学部

地域科学部

医学部
医学科

医学部
看護学科

工学部

応用生物科学部

社会システム
経営学
環境学

教育学部

教育学部

1 全学共通教育に係る最低修得単位数

- (1) 教養科目の最低修得単位数は、表1.1のとおりです。

表1.1 教養科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数	
初年次セミナー	2	
人文科学	4	
社会科学	4	
自然科学	4	
岐阜学	2	
スポーツ・健康科学	2	
英語	4	
言語と文化	2	
社会人リテラシー	1	
数理・データサイエンス・AI	1	
自由選択科目	4	
学部開講科目	教養基礎	6
合計	36	

- (2) 卒業・教育職員免許状に必要な単位基準は、教育学部から配付された「教育学部便覧」の教育学部履修単位基準を参照してください。
- (3) 卒業研究を着手する前年度までに、表1.1に定める合計単位数36単位のうち、32単位以上を修得しなければ、卒業研究に着手することができません。3年次には教育実習があり、教養科目の履修が困難になる事もあるため考慮のうえ履修計画を立ててください。
- また、表1.1に定める単位数を満たさないと卒業できません。
- (4) 表1.1の単位数を超過して修得した単位のうち、4単位までは卒業に必要な単位として算入することができます。

2 履修申請（登録）単位数の上限

- (1) 全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、前学期は18単位、後学期16単位です。この履修申請（登録）できる単位数の上限には、英語、言語と文化科目の必修・選択必修科目も含まれます。
- (2) 2年次以降の全学共通教育に係る履修申請（登録）できる単位数の上限は、不足単位数の充足分及び上記1（4）に関する単位とします。

※教養科目の履修上限は上記のとおりですが、教養科目及び教育学部専門科目の履修申請単位数合計は、1年生前学期は28単位までとなっております。

詳しくは「教育学部便覧」のGPA取扱要領を参照してください。

3 全学共通教育の開講時間枠

全学共通教育の開講時間枠を表1.2に示します。

表1.2 全学共通教育の開講時間枠

1年前学期						1年後学期						2年前学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	◎ 英語 1	◎ 言語と文化	英語 2	専門	専門	1	◎ 英語 3	◎	◎ 英語 4	専門	専門	1	○	○	○	専門	専門
2	◎ 英語 1	◎ 言語と文化	◎	専門	専門	2	◎ 英語 3	◎	◎ 英語 4	専門	専門	2	○	○	○	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	3	○	○	専門	専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	4	◎	◎		専門	専門	4	○	○		専門	専門
5	◎	◎ 初年次 セミナー		専門	専門	5	◎	◎		専門	専門	5	○	○		専門	専門

◎：教養科目を履修できます。

○：専門科目がなければ教養科目を履修できます（2年生には専門科目が開講されます）。

- ・英語 1 ～ 4 は、いずれかの時間帯に履修するクラスが指定されます。
- ・言語と文化は、希望調査によりクラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。
- ・空いた時間帯に教養科目を履修できます。
- ・水曜の午後に、専門科目が開講されることがあります。

4 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

初年次セミナーは、学部等別に開講され、必修科目（2単位）です。クラス分け、履修内容などについては、学部のご案内に従ってください。一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可や未履修等により再履修する場合は、次年度以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目

- 1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。
- 2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数は、表1.3のとおりです。
- 3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。
- 4) 人文科学，社会科学，自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。（ただし、自由選択科目に算入できる単位数は、4単位までです。）

表1.3 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	2
スポーツ・健康科学	2
合計	16

（注1）スポーツ・健康科学科目の履修上の留意点

教員免許状の取得を希望する場合は、スポーツ・健康科学科目のうち、演習科目を必ず取得することが必要ですので、注意してください。各学期、履修申請できるのは、健康科学講義分野・スポーツ演習分野を合わせて1科目です。履修ミスは履修登録の取り消しになりますので、注意してください。

(注2) 社会科学科目の履修上の留意点

社会科学科目のうち「日本国憲法」は必修ですので、注意してください。

5) 上記科目区分の科目はすべて1年次から履修できます。

6) 履修申請方法は、24ページを参照してください。

(3) 英語科目

1) 英語を4科目4単位修得しなければなりません。

2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は、表1.4のとおりです。

表1.4 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目区分	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
英語	1	◎		4単位 (4科目)	
	2	◎			
	3		◎		
	4		◎		

3) 表1.4のとおり英語1, 英語2, 英語3, 英語4は全て必修です(履修登録は事務で行います)。

4) 英語のクラスは、8のクラスに分かれており、表1.5のとおり開講されます。英語1及び2(1年次前学期)で所属したクラスは、英語3及び4の授業でも同じクラスです。

5) 不合格と判定されたものは、当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は、学期中に掲示及びWeb(学務情報システム)により指示されます。

6) 上記の集中クラス以外に、不合格や履修放棄と判定されたものは、原則として次学期以降に開講される同じ授業科目(他学部等用のものでも可)を再履修します。

この手続き方法は、掲示等により指示されます。

※また、英検等の資格を取得して、英語の単位の認定を受けることもできます(32ページ参照)。

表1.5 英語のクラス編成及び開講時期

英語	クラス名	クラス内訳	開講学年	学期	曜日・時限
1	L1E1	学籍番号によるクラス分け	1年	前学期	月曜日・1時限
	L1E2				
	L1E3				
	L1E4				
	L1E5				
	L1E6	英語教育	1年	前学期	月曜日・2時限
	L1E7	学籍番号によるクラス分け			
	L1E8				
2	L1E1	学籍番号によるクラス分け	1年	前学期	水曜日・1時限
	L1E2				
	L1E3				
	L1E4				
	L1E5				
	L1E6	英語教育	学籍番号によるクラス分け		
	L1E7				
	L1E8				

3	L1E1	学籍番号によるクラス分け	1年	後学期	月曜日・1時限	
	L1E2					
	L1E3					
	L1E4					
	L1E6	英語教育				
	L1E5	学籍番号によるクラス分け				
	L1E7					
	L1E8					
L1E8						
4	L1E1	学籍番号によるクラス分け	1年	後学期	水曜日・1時限	
	L1E2					
	L1E3					
	L1E4					
	L1E5	学籍番号によるクラス分け	1年	後学期	水曜日・2時限	
	L1E6					英語教育
	L1E7					
	L1E8					

(4) 言語と文化科目

- 1) 言語と文化（講義科目）を1科目2単位修得しなければなりません。
- 2) 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は、表1.6のとおりです。

表1.6 言語と文化（講義科目）の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語	◎		2単位 (1科目)	6つの言語の中から、1つの言語を選んで履修します。
	フランス語				
	中国語				
	ポルトガル語				
	朝鮮・韓国語				
	アイスランド語		◎		

- 3) 言語と文化（講義科目）は、表1.6のとおり、1年次において、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語から1つ選んで履修します。
- 4) 希望調査により、クラス分け・履修登録されます（Webで申請する必要はありません）。指定されたクラスで受講してください。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。
- 5) 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。
- 6) 言語と文化を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。この手続き方法は、掲示等により指示されます。
- 7) 言語と文化（講義科目）で学習した言語をさらに学ぶ科目として、第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）があります。第二外国語Ⅰ・Ⅱは、アイスランド語を除く5つの言語が後学期に開講されます。履修申請方法等詳細を後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

(5) 社会人リテラシー科目

社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(6) 数理・データサイエンス・AI科目

数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(7) 自由選択科目

初年次セミナー及び日本語・日本事情に関する科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選択し4単位修得します。

教育学部

地域科学部

医学部
医学科

医学部
看護学科

工学部

応用生物科学部

社会システム
経営学環

地域科学部

地域科学部

1 全学共通教育に係る最低修得単位数

(1) 教養科目の最低修得単位数は、表2.1のとおりです。

表2.1 教養科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
初年次セミナー	2
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	4
スポーツ・健康科学	2
英語	4
言語と文化	4
社会人リテラシー	1
数理・データサイエンス・AI	1
自由選択科目	2
学部開講科目	教養基礎
	—
合計	32

(2) 初年次セミナー、英語、言語と文化、社会人リテラシー、数理・データサイエンス・AIの最低修得単位数を除く修得単位数のうち、4単位は3年次以上で修得してください。

(3) 教養教育の自由選択（2単位）を超えて履修した場合、4単位までは専門教育の自由選択科目として算入することができます。

2 履修申請（登録）単位数の上限

全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、各学期とも18単位です。この履修申請（登録）できる単位数の上限には、英語、言語と文化科目も含まれます。

3 全学共通教育の開講時間枠

全学共通教育の開講時間枠を表2.2に示します。

表2.2 全学共通教育の開講時間枠

1年前学期						1年後学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	◎ 言語と文化	英語 1	◎ 言語と文化	専門	専門	1	英語 3	◎	英語 4	専門	専門
2	◎	◎ 言語と文化	英語 2	専門	専門	2	◎	◎ 言語と文化	◎	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	4	◎	◎ 言語と文化		専門	専門
5	初年次 セミナー	◎		専門	専門	5	◎	◎		専門	専門

◎：教養科目を履修できます。

・言語と文化は、希望調査により、クラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。

・2年次以降は空き時間に教養科目を履修できます。

4 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

初年次セミナーは、学部等別に開講され、必修科目（2単位）です。クラス分け、履修内容などについては、学部の案内に従ってください。一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可や未履修等により再履修する場合は、次年度以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目

- 1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。
- 2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数は、表2.3のとおりです。
- 3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。
- 4) 人文科学，社会科学，自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。

表2.3 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	4
スポーツ・健康科学	2
合計	18

- 5) 履修申請方法は、24ページを参照してください。

(3) 英語科目

- 1) 英語4科目4単位を修得しなければなりません。
- 2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は、表2.4のとおりです。

表2.4 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目区分	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
英語	1	◎		4単位 (4科目)	
	2	◎			
	3		◎		
	4		◎		

- 3) 表2.4のとおり英語1，英語2，英語3，英語4は全て必修です（履修登録は事務で行います）。
- 4) 英語のクラスは、学籍番号に従って、それぞれ4つのクラスに分かれており、どのクラスを受講するかは、あらかじめ指定されます。指定されたクラスを受講してください。
- 5) 不合格と判定されたものは、当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は、学期中に掲示及びWeb（学務情報システム）により指示されます。
- 6) 上記の集中クラス以外に、不合格や履修放棄と判定されたものは、原則として次学期以降に開講される同じ授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。
この手続き方法は、掲示等により指示されます。
※また、英検等の資格を取得して、英語の単位の認定を受けることもできます（32ページ参照）。

表2.5 英語のクラス編成及び開講時期

英語	クラス名	開講学年	学期	曜日・時限
1	R1E1	1年次	前学期	火曜日・1時限
	R1E2			
	R1E3			
	R1E4			
2	R1E1	1年次	前学期	水曜日・2時限
	R1E2			
	R1E3			
	R1E4			
3	R1E1	1年次	後学期	月曜日・1時限
	R1E2			
	R1E3			
	R1E4			
4	R1E1	1年次	後学期	水曜日・1時限
	R1E2			
	R1E3			
	R1E4			

(4) 言語と文化科目

- 1) 言語と文化（講義科目）から1科目2単位及び第二外国語（演習科目）から2科目2単位の合計4単位を修得しなければなりません。
- 2) 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は、表2.6のとおりです。

表2.6 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語		◎	2単位 (1科目)	6つの言語の中から、1つの言語を選んで履修します。
	フランス語		◎		
	中国語		◎		
	ポルトガル語	◎			
	朝鮮・韓国語	◎			
	アイスランド語		◎		
第二外国語 (演習科目)	ドイツ語Ⅰ			1単位 (1科目)	5つの言語の中から、1つの言語を選んで履修します。
	フランス語Ⅰ	◎			
	中国語Ⅰ				
	ポルトガル語Ⅰ		◎		
	朝鮮・韓国語Ⅰ		◎		
	ドイツ語Ⅱ			1単位 (1科目)	Ⅰと同一言語を履修します。
	フランス語Ⅱ	◎			
	中国語Ⅱ				
	ポルトガル語Ⅱ		◎		
	朝鮮・韓国語Ⅱ		◎		

- 3) 表2.6のとおり、1年次において、言語と文化（講義科目）及び第二外国語（演習科目）を履修します。言語と文化は、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語から1つ選んで履修します。第二外国語Ⅰ・Ⅱは、アイスランド語を除く5つの言語から1つ選んで履修します。
- 4) 前学期受講言語については、入学手続きの際に案内される Web 希望調査に基づいてクラス分けおよび履修登

録が行われますので、指定されたクラスで受講してください。ドイツ語、フランス語、中国語の場合は第二外国語Ⅰ・Ⅱを、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の場合は言語と文化を履修します。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。

- 5) 前学期受講言語のクラス分けは、4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。
- 6) 後学期受講言語のクラス分けは、言語と文化の場合は、7月頃の履修希望調査により、クラス分け・履修登録を行います。第二外国語Ⅰ・Ⅱの場合は、所定の期間にWeb（学務情報システム）から各自履修申請します。言語と文化、第二外国語Ⅰ・Ⅱで異なりますので注意してください。
- 7) 言語と文化科目を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。

この手続き方法は、掲示等により指示されます。

(5) 社会人リテラシー科目

社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(6) 数理・データサイエンス・AI科目

数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(7) 自由選択科目

初年次セミナー及び日本語・日本事情に関する科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選択し2単位修得します。

医学部 医学科

医学部医学科

1 全学共通教育に係る最低修得単位数

(1) 教養科目の最低修得単位数は、表3.1のとおりです。

表3.1 教養科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数	
初年次セミナー	2	
人文科学	4	
社会科学	4	
自然科学	4	
岐阜学	2	
スポーツ・健康科学	2	
英語	4	
言語と文化	2	
社会人リテラシー	1	
数理・データサイエンス・AI	2	
自由選択科目	5	
学部開講科目	教養基礎	4
合計	36	

(2) 2年次以降は全て専門教育です（教養科目は履修できません）。

1年次で表3.1の全ての単位を修得することを専門教育の履修要件としています。

(3) 「初年次セミナー」、「英語（1～4）」、「数理・データサイエンス・AI」、「学部開講科目」は、開講時期が決まっており、年に1回しか受講機会がありません。

P13の「履修申請の手順」をもう一度確認してください。

2 履修申請（登録）単位数の上限

(1) 全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、各学期とも24単位です。この履修申請（登録）できる単位数の上限には、英語、言語と文化科目も含まれます。（ただし集中講義は含まれません。）

(2) 学部開講の教養科目は、(1)の科目とは別に前学期3単位、後学期1単位まで履修登録できます。

3 全学共通教育の開講時間枠

(1) 全学共通教育の開講時間枠を表3.2に示します。

表3.2 全学共通教育の開講時間枠

1年前学期						1年後学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	◎	◎ 言語と文化	◎	専門	専門	1	◎	◎	◎	専門	専門
2	英語1	◎ 言語と文化	◎	専門	専門	2	英語3	◎	◎	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化	◎ 英語2	専門	専門	3	◎	◎ 言語と文化	◎ 英語4	専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化	◎ 英語2	専門	専門	4	◎	◎	◎ 英語4	専門	専門
5	◎	◎		専門	専門	5	◎	◎		専門	専門

◎：教養科目を履修できます

- ・英語1～4は、いずれかの時間帯に履修するクラスが指定されます。
- ・言語と文化は、希望調査によりクラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。
- ・英語や言語と文化の指定されたクラスの開講時間以外は、教養科目を履修できます。

(2) 医学部の専門教育の授業時間帯は、全学共通教育とは異なる場合があります。

4 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

初年次セミナーは、学部等別に開講され、必修科目（2単位）です。履修内容などについては、学部の案内に従ってください。一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可や未履修等により再履修する場合は、次年度以降に履修することになります。履修申請に際しては、十分注意してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目

- 1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。
- 2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数は、表3.3のとおりです。
- 3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。
- 4) 人文科学，社会科学，自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。（ただし、自由選択科目に算入できる単位数は、6単位までです。）

表3.3 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	2
スポーツ・健康科学	2
合計	16

5) 上記科目区分の科目はすべて1年次に修得しなければなりません。

6) 履修申請方法は、24ページを参照してください。

(3) 英語科目

- 1) 英語4科目4単位修得しなければなりません。
- 2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は、表3.4のとおりです。

表3.4 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目区分	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
英語	1	◎		4単位 (4科目)	
	2	◎			
	3		◎		
	4		◎		

3) 表3.4のとおり英語1，英語2，英語3，英語4は全て必修です（履修登録は事務で行います）。

4) 英語のクラスは、4つのクラスに分かれており、表3.5のとおり開講されます。英語1及び2（1年次前学期）で所属したクラスは、英語3及び4の授業でも同じクラスです。

5) 不合格と判定されたものは、当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は、学期中に掲示及びWeb（学務情報システム）により指示されます。

6) 上記の集中クラス以外に、不合格や履修放棄と判定されたものは、原則として次学期以降に開講される同じ授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。

この手続き方法は、掲示等により指示されます。

※また、英検等の資格を取得して、英語の単位の認定を受けることもできます（32ページ参照）。

表3.5 英語のクラス編成及び開講時期

英語	クラス名	開講学年	学期	曜日・時限
1	M1E1	1年次	前学期	月曜日・2時限
	M1E2			
	M1E3			
	M1E4			
2	M1E1	1年次	前学期	水曜日・3時限
	M1E2			水曜日・4時限
	M1E3			
	M1E4			
3	M1E1	1年次	後学期	月曜日・2時限
	M1E2			
	M1E3			
	M1E4			
4	M1E1	1年次	後学期	水曜日・3時限
	M1E2			水曜日・4時限
	M1E3			
	M1E4			

(4) 言語と文化科目

- 1) 言語と文化（講義科目）を1科目2単位修得しなければなりません。
- 2) 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は、表3.6のとおりです。

表3.6 言語と文化（講義科目）の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語	◎		2単位 (1科目)	6つの言語の中から、1つの言語を選んで履修します。
	フランス語				
	中国語				
	ポルトガル語				
	朝鮮・韓国語				
	アイスランド語	◎			

- 3) 言語と文化（講義科目）は、表3.6のとおり、1年次において、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語から1つ選んで履修します。
- 4) 希望調査により、クラス分け・履修登録されます（Webで申請する必要はありません）。指定されたクラスで受講してください。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。
- 5) 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。
- 6) 言語と文化を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。この手続き方法は、掲示等により指示されます。
- 7) 言語と文化（講義科目）で学習した言語をさらに学ぶ科目として、第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）があります。第二外国語Ⅰ・Ⅱは、アイスランド語を除く5つの言語が後学期に開講されます。履修申請方法等詳細を後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

(5) 社会人リテラシー科目

社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(6) 数理・データサイエンス・AI科目

数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目、「データ科学基礎演習A」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）または「データ科学基礎演習B」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は選択必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(7) 自由選択科目

初年次セミナー及び日本語・日本事情に関する科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選択し5単位修得します。

医学部 看護学科

医学部看護学科

1 全学共通教育に係る最低修得単位数

(1) 教養科目の最低修得単位数は、表4.1のとおりです。

表4.1 教養科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
初年次セミナー	2
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	2
スポーツ・健康科学	2
英語	4
言語と文化	2
社会人リテラシー	1
数理・データサイエンス・AI	2
自由選択科目	3
学部開講科目	教養基礎
合計	30

(2) 進級に必要な最低修得単位数及びその認定時期は、看護学科発行の冊子「学生生活と履修の手引き」を参照してください。

(3) 看護学科では、1年次から2年次への進級に際し、関門制が設けられています。

進級するためには、表4.1の教養科目の最低修得単位数30単位のうち24単位以上、並びに第1年次に専門教育として開講する専門基礎科目及び専門科目のうち、必修科目の単位数をすべて修得しなければなりません。

2 履修申請（登録）単位数の上限

全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、前学期22単位、後学期20単位です。この履修申請（登録）できる単位数の上限には、英語、言語と文化科目も含まれます。（ただし集中講義は含まれません。）

3 全学共通教育の開講時間枠

(1) 全学共通教育の開講時間枠を表4.2に示します。

表4.2 全学共通教育の開講時間枠

1年前学期						1年後学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	◎	◎ 言語と文化	◎	専門	専門	1	◎	◎	◎	専門	専門
2	英語1	◎ 言語と文化	◎	専門	専門	2	英語2	◎	◎	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	4	◎	◎		専門	専門
5	初年次 セミナー	◎		専門	専門	5	◎	◎		専門	専門

2年前学期

	月	火	水	木	金
1	○	○	英語3	専門	専門
2	○	○	○	専門	専門
3	○	○		専門	専門
4	○	○		専門	専門
5	○	○		専門	専門

3年前学期

	月	火	水	木	金
1	○	○	○	専門	専門
2	○	英語4	○	専門	専門
3	○	○		専門	専門
4	○	○		専門	専門
5	○	○		専門	専門

◎：教養科目を履修できます。

○：専門科目がなければ教養科目を履修できます（2年生以上には専門科目が開講されます）。

- ・英語1～4は、いずれかの時間帯に履修するクラスが指定されます。
- ・言語と文化は、希望調査によりクラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。
- ・空いた時間帯に教養科目を履修できます。

4 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

初年次セミナーは、学部等別に開講され、必修科目（2単位）です。クラス分け、履修内容などについては、学部の案内に従ってください。一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可や未履修等により再履修する場合は、次年度以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目

- 1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。
- 2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数は、表4.3のとおりです。
- 3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。
- 4) 人文科学，社会科学，自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目分のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。（ただし、自由選択科目に算入できる単位数は、4単位までです。）

表4.3 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	2
スポーツ・健康科学	2
合計	16

5) 履修申請方法は、24ページを参照してください。

(3) 英語科目

- 1) 英語4科目4単位修得しなければなりません。
- 2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は、表4.4のとおりです。

表4.4 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目 区分	授業科目名	開講時期						最低修得 単位数	備 考
		1年次		2年次		3年次			
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
英語	1	◎						4単位 (4科目)	
	2		◎						
	3			◎					
	4					◎			

- 3) 表4.4のとおり英語1, 英語2, 英語3, 英語4は全て必修です(履修登録は事務で行います)。
 4) 英語のクラスは, 3つのクラスに分かれており, 表4.5のとおり開講されます。英語1(1年次前学期)で所属したクラスは, 英語2, 3及び4の授業でも同じクラスです。
 5) 不合格と判定されたものは, 当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は, 学期中に掲示及びWeb(学務情報システム)により指示されます。
 6) 上記の集中クラス以外に, 不合格や履修放棄と判定されたものは, 原則として次学期以降に開講される同じ授業科目(他学部等用のものでも可)を再履修します。
 この手続き方法は, 掲示等により指示されます。
 ※また, 英検等の資格を取得して, 英語の単位の認定を受けることもできます(32ページ参照)。

表4.5 英語のクラス編成及び開講時期

英語	クラス名	開講学年	学期	曜日・時限
1	N1E1	1年	前学期	月曜日・2時限
	N1E2			
	N1E3			
2	N1E1	1年	後学期	月曜日・2時限
	N1E2			
	N1E3			
3	N2E1	2年	前学期	水曜日・1時限
	N2E2			
	N2E3			
4	N3E1	3年	前学期	火曜日・2時限
	N3E2			
	N3E3			

(4) 言語と文化科目

- 1) 言語と文化(講義科目)を1科目2単位修得しなければなりません。
 2) 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は, 表4.6のとおりです。

表4.6 言語と文化(講義科目)の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得 単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語	◎		2単位 (1科目)	6つの言語の中から, 1つの言語を選んで履修します。
	フランス語				
	中国語				
	ポルトガル語				
	朝鮮・韓国語				
	アイスランド語	◎			

- 3) 言語と文化(講義科目)は, 表4.6のとおり, 1年次において, ドイツ語, フランス語, 中国語, ポルトガル語, 朝鮮・韓国語, アイスランド語から1つ選んで履修します。
 4) 希望調査により, クラス分け・履修登録されます(Webで申請する必要はありません)。指定されたクラスで

受講してください。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。

5) 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。

6) 言語と文化を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。この手続き方法は、掲示等により指示されます。

7) 言語と文化（講義科目）で学習した言語をさらに学ぶ科目として、第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）があります。第二外国語Ⅰ・Ⅱは、アイスランド語を除く5つの言語が後学期に開講されます。履修申請方法等詳細を後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

(5) 社会人リテラシー科目

社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(6) 数理・データサイエンス・AI科目

数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）及び「データ科学基礎演習A」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(7) 自由選択科目

初年次セミナー及び日本語・日本事情に関する科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選択し3単位修得します。

教育学部

地域科学部

医学部
医学科

医学部
看護学科

工学部

応用生物科学部

社会システム
経営学
環境学

工学部

工学部

1 全学共通教育に係る最低修得単位数

(1) 教養科目の最低修得単位数は、表5.1のとおりです。

表5.1 教養科目の最低修得単位数

科目区分		最低修得単位数	
初年次セミナー		2	
人文科学		4	
社会科学		4	
自然科学		4	
岐阜学		2	
スポーツ・健康科学		2	
英語		4	
言語と文化		2	
社会人リテラシー		1	
数理・データサイエンス・AI		2	
自由選択科目		2	
学部開講科目	教養基礎	社会基盤工学概論	3※
		機械工学概論	
		化学・生命工学概論	
		電気電子・情報工学概論	
		技術と技術者の論理	2
合計		34	

(2) 各学年への進級基準及び卒業に必要な単位基準は、工学部から配付された「工学部便覧」を参照してください。

(3) 表5.1の単位数を超えて修得した単位のうち、4単位までは卒業に必要な単位として算入することができます。

※学部開講の【概論】の科目は、4科目中3科目が選択必修となります。

2 履修申請（登録）単位数の上限

(1) 教養科目には全学共通教育に履修申請する科目と工学部に履修申請する科目があります。

(2) 全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、前学期18単位、後学期16単位です。履修申請（web登録）できる単位数の上限には、英語、言語と文化科目も含まれます。（ただし集中講義は含まれません）

(3) 学部開講の教養基礎科目の履修申請の具体的な方法は工学部ガイダンスで説明します。

(4) 各学期とも、履修申請（web登録）できる授業科目の単位数の上限は、教養科目と専門科目を合わせて、1年次では34単位です。

3 全学共通教育の開講時間枠

(1) 全学共通教育の開講時間枠を表5.2に示します。

表5.2 全学共通教育の開講時間枠

工学部 1年 前学期						工学部 1年 後学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	◎	◎ 英語 1	◎ 言語と文化	教養基礎	教養基礎	1	◎	◎ 英語 2	◎	専門	専門
2	◎	◎ 英語 1	◎ 言語と文化	教養基礎	教養基礎	2	◎	◎ 英語 2	◎	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	4	◎	◎		専門	専門
5	◎	初年次 セミナー		専門	専門	5	◎	◎		専門	専門

工学部 2年 前学期						工学部 2年 後学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	○	○	○	専門	専門	1	○	○	○	専門	専門
2	○	○	○	専門	専門	2	○	○	○	専門	専門
3	○	○		専門	専門	3	○	○		専門	専門
4	○	○		英語 3	専門	4	○	○		英語 4	専門
5	○	○		英語 3	専門	5	○	○		英語 4	専門

◎：教養科目を履修できます

○：専門科目がなければ教養科目を履修できます（2年生には専門科目が開講されます）

※英語 1～4 は、いずれかの時間帯に履修するクラスが指定されます

※言語と文化は、希望調査により、クラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。なお、開講時間帯は、100～101ページを参照してください。

※空き時間に教養科目を履修できます

4 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

高校生が大学生に変わるために必要な知識や心構えを習得します。所属学科の初年次セミナーを必ず登録してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目

1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。

2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数は、表5.3のとおりです。

3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。

4) 人文科学，社会科学，自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目分のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目または4単位までは卒業に必要な単位として算入することができます。

表5.3 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	2
スポーツ・健康科学	2
合 計	16

5) 履修申請方法は，24ページを参照してください。

(3) 英語科目

1) 英語 4 科目 4 単位修得しなければなりません。

2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は，表5.4のとおりです。

表5.4 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目区分	授業科目名	開講時期				最低修得単位数	備考
		1 年次		2 年次			
		前学期	後学期	前学期	後学期		
英語	1	◎				4 単位 (4 科目)	
	2		◎				
	3			◎			
	4				◎		

3) 表5.4のとおり英語 1，英語 2，英語 3，英語 4 は全て必修です（履修登録は事務で行います）。

4) 英語のクラスは，16 のクラスに分かれており，表5.5のとおり開講されます。

5) 不合格と判定されたものは，当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は，学期中に掲示及び Web（学務情報システム）により指示されます。

6) 上記の集中クラス以外に，不合格や履修放棄と判定されたものは，原則として次学期以降に開講される同じ授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。

この手続き方法は，掲示等により指示されます。

※また，英検等の資格を取得して，英語の単位の認定を受けることもできます（32ページ参照）。

表5.5 英語のクラス編成及び開講時期

学科	クラス名	英語 1	英語 2	クラス名	英語 3	英語 4
社会	T1E1	1年次前学期 火曜日 1時限	1年次後学期 火曜日 2時限	T2E1 T2E9	2年次 前学期 木曜日 4時限 または 5時限	2年次 後学期 木曜日 4時限 または 5時限
	T1E9	1年次前学期 火曜日 2時限	1年次後学期 火曜日 1時限			
機械	T1E2	1年次前学期 火曜日 1時限	1年次後学期 火曜日 2時限	T2E2 T2E3 T2E10 T2E11		
	T1E3					
	T1E10	1年次前学期 火曜日 2時限	1年次後学期 火曜日 1時限			
	T1E11					
化学	T1E4	1年次前学期 火曜日 1時限	1年次後学期 火曜日 2時限	T2E4 T2E5 T2E12 T2E13 T2E14		
	T1E5		1年次後学期 火曜日 1時限			
	T1E12	1年次前学期 火曜日 2時限				
	T1E13					
	T1E14					
電気	T1E6	1年次前学期 火曜日 1時限	1年次後学期 火曜日 1時限	T2E6 T2E7 T2E8 T2E15 T2E16		
	T1E7					
	T1E8					
	T1E15	1年次前学期 火曜日 2時限				
	T1E16					

(4) 言語と文化科目

- 1) 言語と文化（講義科目）を1科目2単位修得しなければなりません。
- 2) 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は、表5.6のとおりです。

表5.6 言語と文化（講義科目）の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得 単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語	◎		2単位 (1科目)	6つの言語の中から、1 つの言語を選んで履修し ます。
	フランス語				
	中国語				
	ポルトガル語				
	朝鮮・韓国語				
	アイスランド語				

- 3) 言語と文化（講義科目）は、表5.6のとおり、1年次において、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語から1つ選んで履修します。
- 4) 希望調査により、クラス分け・履修登録されます（Webで申請する必要はありません）。指定されたクラスで受講してください。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。
- 5) 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途

学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。

6) 言語と文化を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。この手続き方法は、掲示等により指示されます。

7) 言語と文化（講義科目）で学習した言語をさらに学ぶ科目として、第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）があります。第二外国語Ⅰ・Ⅱは、アイスランド語を除く5つの言語が後学期に開講されます。履修申請方法等詳細を後日掲示等でお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

(5) 社会人リテラシー科目

社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(6) 数理・データサイエンス・AI科目

数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。また、化学・生命工学科は「データ科学基礎演習A」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）が、それ以外の学科は「データ科学基礎演習B」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）が必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(7) 自由選択科目

初年次セミナー、日本語・日本事情に関する科目及び工学部開講科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選択し2単位修得します。

教育学部

地域科学部

医学部
医学科

医学部
看護学科

工学部

応用生物科学部

社会システム
経営学
環境学

応用生物科学部

応用生物科学部（応用生命化学科・食農生命科学科・生物圏環境学科）

1 全学共通教育に係る最低修得単位数

(1) 教養科目の最低修得単位数は、表6.1のとおりです。

表6.1 教養科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
初年次セミナー	2
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	2
岐阜学	2
スポーツ・健康科学	2
英語	4
言語と文化	2
社会人リテラシー	1
数理・データサイエンス・AI	1
自由選択科目	2
学部開講科目 教養基礎	12
合計	38

(2) 進級に必要な最低修得単位数及びその認定時期は、課程によって異なります。応用生物科学部から配布された「SYLLABUS（授業概要）」を参照してください。

2 履修申請（登録）単位数の上限

(1) 全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、前学期18単位、後学期22単位です。この履修申請（登録）できる単位数の上限には、英語、言語と文化科目も含まれます。（集中講義は含まない。）

(2) 応用生物科学部では、各学期とも全学共通教育の単位数と学部開講科目及び専門科目（教職科目及び集中講義を除く）の単位数とを合わせて、履修申請（登録）できる単位数の上限は30単位です。

3 全学共通教育の開講時間枠

全学共通教育の開講時間枠を表6.2に示します。

表6.2 全学共通教育の開講時間枠

1年前学期						1年後学期						2年前学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	◎	◎ 言語と文化	◎	教養基礎	専門	1	◎	◎	◎ 英語 3	教養基礎	専門	1	英語 4	○	○	専門	専門
2	◎	◎ 言語と文化	英語 1	教養基礎	教養基礎	2	◎	英語 2	◎ 英語 3	教養基礎	専門	2	○	○	○	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化	教養基礎	専門	教養基礎	3	◎	◎ 言語と文化	専門	専門	専門	3	○	◎ 教養基礎	専門	専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化	専門	専門	専門	4	◎	◎	専門	専門	教養基礎	4	○	専門	専門	専門	専門
5	初年次 セミナー	◎	専門	専門	専門	5	◎	◎	専門	専門	専門	5	○	○	専門	専門	専門

◎：教養科目を履修できます。

○：専門科目がなければ教養科目を履修できます（2年生には専門科目が開講されます）。

・英語1～4は、いずれかの時間帯に履修するクラスが指定されます。

- ・言語と文化は、希望調査によりクラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。
- ・空いた時間帯に教養科目を履修できます。

4 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

初年次セミナーは、学部等別に開講され、必修科目（2単位）です。クラス分け、履修内容などについては、学部の案内に従ってください。一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可や未履修等により再履修する場合は、次年度以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目

- 1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。
- 2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数は、表6.3のとおりです。
- 3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。
- 4) 人文科学，社会科学については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。（ただし、自由選択科目に算入できる単位数は、2単位までです。）

表6.3 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	2
岐阜学	2
スポーツ・健康科学	2
合計	14

5) 上記科目区分の科目はすべて1年次から履修できます。

6) 履修申請方法は、24ページを参照してください。

(3) 英語科目

- 1) 英語4科目4単位修得しなければなりません。
- 2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は、表6.4のとおりです。

表6.4 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目区分	授業科目名	開講時期				最低修得単位数	備考
		1年次		2年次			
		前学期	後学期	前学期	後学期		
英語	1	◎				4単位 (4科目)	
	2		◎				
	3		◎				
	4			◎			

3) 表6.4のとおり英語1，英語2，英語3，英語4は全て必修です（履修登録は事務で行います）。

4) 英語のクラスは、6つのクラスに分かれており、表6.5のとおり開講されます。英語1（1年次前学期）で所属したクラスは、英語2，3，4の授業でも同じクラスです。

5) 不合格と判定されたものは、当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は、学期中に掲示及びWeb（学務情報システム）により指示されます。

6) 上記の集中クラス以外に、不合格や履修放棄と判定されたものは、原則として次学期以降に開講される同じ授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。

この手続き方法は、掲示等により指示されます。

※また、英検等の資格を取得して、英語の単位の認定を受けることもできます（32ページ参照）。

表6.5 英語のクラス編成及び開講時期

英語	クラス名		開講学年	学期	曜日・時限
1	A1E1	応化	1年	前学期	水曜日・2時限
	A1E2	応化・食農			
	A1E3	食農			
	A1E4	食農・生物圏			
	A1E5	生物圏			
2	A1E1	応化	1年	後学期	火曜日・2時限
	A1E2	応化・食農			
	A1E3	食農			
	A1E4	食農・生物圏			
	A1E5	生物圏			
3	A1E1	応化	1年	後学期	水曜日・2時限
	A1E2	応化・食農			水曜日・1時限
	A1E3	食農			水曜日・2時限
	A1E4	食農・生物圏			
	A1E5	生物圏			
4	A2E1	応化	2年	前学期	月曜日・1時限
	A2E2	応化・食農			
	A2E3	食農			
	A2E4	食農・生物圏			
	A2E5	生物圏			

(4) 言語と文化科目

- 1) 言語と文化（講義科目）を1科目2単位修得しなければなりません。
- 2) 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は、表6.6のとおりです。

表6.6 言語と文化（講義科目）の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語	◎		2単位 (1科目)	6つの言語の中から、1つの言語を選んで履修します。
	フランス語				
	中国語				
	ポルトガル語				
	朝鮮・韓国語				
	アイスランド語		◎		

- 3) 言語と文化（講義科目）は、表6.6のとおり、1年次において、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語から1つ選んで履修します。
- 4) 希望調査により、クラス分け・履修登録されます（Webで申請する必要はありません）。指定されたクラスで受講してください。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。

- 5) 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。
- 6) 言語と文化を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。この手続き方法は、掲示等により指示されます。
- 7) 言語と文化（講義科目）で学習した言語をさらに学ぶ科目として、第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）があります。第二外国語Ⅰ・Ⅱは、アイスランド語を除く5つの言語が後学期に開講されます。履修申請方法等詳細を後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。
- (5) 社会人リテラシー科目
社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。
- (6) 数理・データサイエンス・AI科目
数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。
- (7) 自由選択科目
初年次セミナー及び日本語・日本事情に関する科目を除く全ての全学共通教育科目の教養科目から自由に選択し2単位修得します。

応用生物科学部（共同獣医学科）

1 共同獣医学科における一般教養科目

応用生物科学部共同獣医学科では、岐阜大学基盤教育センターが担当する全学共通教育科目と、応用生物科学部が担当する学部開講科目を合わせたものを一般教養科目として位置付けています。

他の学部等及び応用生物科学部の他の2課程と比べ、科目区分の名称が異なりますので、下記の内容及び「応用生物科学部共同獣医学科シラバス」を参考して、履修漏れがないように履修登録を行ってください。

- ・全学共通教育科目（基盤教育センターで開講する科目）

（履修登録の方法や授業の内容は、本冊子および Web シラバスを参照してください。）

授業科目区分 (共同獣医学科一般 教養科目による区分)	授業科目区分 (全学共通教育科目) (この冊子による区分)	科目名
大学教育導入科目群	初年次セミナー	初年次セミナー
人文・社会科学科目群	人文科学	人文科学科目内のすべての科目
	社会科学	社会科学科目内のすべての科目
自然科学科目群	自然科学	自然科学科目内のすべての科目
複合領域科目群	岐阜学	岐阜学科目内のすべての科目
	スポーツ・健康科学	健康科学講義分野内のすべての科目 スポーツ演習分野内のすべての科目
	社会人リテラシー	社会人リテラシー科目内のすべての科目
	数理・データサイエンス・AI	数理・データサイエンス・AI 科目内のすべての科目
外国語科目群	英語	英語 1
		英語 2
		英語 3
		英語 4
	第二外国語 (言語と文化)	ドイツ語
		フランス語
		中国語
		ポルトガル語
		朝鮮・韓国語
		アイスランド語

- ・学部開講科目（応用生物科学部で開講する科目）

（授業の内容は、応用生物科学部から配付された「SYLLABUS（授業概要）」を参照してください。）

授業科目区分	科目名
大学教育導入科目群	大学教育導入演習 A
	大学教育導入演習 B
	教養基礎演習
自然科学科目群	基礎数学
	物理学 I
	物理学 II
	化学 I
	化学 II
	生物学 I 生物学 II
複合領域科目群	生命倫理学
外国語科目群	科学英語

2 全学共通教育に係る最低修得単位数

(1) 一般教養科目の最低修得単位数は、表6.1のとおりです。

表6.1 一般教養科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数	
大学教育導入科目群（学部開講科目を含む）	6	
人文・社会科学科目群	6	
自然科学科目群（学部開講科目を含む）※1	10	
複合領域科目群※2 （学部開講科目，岐阜学，スポーツ・健康科学， 社会人リテラシー，数理・データサイエンス・AI を含む）	7	
外国語科目群 （学部開講科目を含む）	英語※3	6
	第二外国語※4 （言語と文化）	2
合計	37	

- ※1 自然科学科目群の最低修得単位数は、学部開講科目の8単位を含む。
- ※2 複合領域科目群の最低修得単位数は全学共通教育科目の岐阜学もしくは数理・データサイエンス・AIの科目（「データ科学基礎」以外）2単位、「データ科学基礎」1単位，社会人リテラシー科目1単位，健康科学分野もしくはスポーツ演習分野の科目1単位及び学部開講科目の生命倫理学2単位を含む。
- ※3 英語の最低修得単位数は、学部開講科目（科学英語）の2単位を含む。
- ※4 外国語科目群の第二外国語の最低修得単位数は全学共通教育科目の言語と文化（講義科目）2単位を含む。

(2) 進級に必要な最低修得単位数及びその認定時期は応用生物科学部から配布された「SYLLABUS（授業概要）」を参照してください。

3 履修申請（登録）単位数の上限

- (1) 全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、前学期19単位，後学期19単位です。この履修申請（登録）できる単位数の上限には、外国語科目も含まれます。（集中講義は含まない。）
- (2) 応用生物科学部では、各学期とも全学共通教育の単位数と学部開講科目及び専門教育科目（集中講義を除く）の単位数とを合わせて、履修申請（登録）できる単位数の上限は30単位です。

4 全学共通教育の開講時間枠

全学共通教育の開講時間枠を表6.2に示します。

表6.2 全学共通教育の開講時間枠

	1年前学期					1年後学期					2年前学期						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
1	◎	◎ 言語と文化	◎	一般教養 （学部開講）	専門	1	◎	◎	英語3	一般教養 （学部開講）	専門	1	英語4	○	○	専門	専門
2	◎	◎ 言語と文化	英語1	一般教養 （学部開講）	一般教養 （学部開講）	2	◎	英語2	一般教養 （学部開講）	一般教養 （学部開講）	専門	2	○	○	○	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化	一般教養 （学部開講）	専門	一般教養 （学部開講）	3	◎	◎ 言語と文化	一般教養 （学部開講）	専門	専門	3	○	○	○	専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化	専門	専門	専門	4	◎	◎	一般教養 （学部開講）	専門	一般教養 （学部開講）	4	○	○	専門	専門	専門
5	初年次 セミナー	◎	専門	専門	専門	5	◎	◎	専門	専門	専門	5	○	○	専門	専門	専門

- ◎：一般教養科目を履修できます。
- ：専門科目がなければ一般教養科目を履修できます（2年生には専門科目が開講されます）。
- ・言語と文化は、希望調査によりクラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。
 - ・空いた時間帯に一般教養科目を履修できます。

5 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

初年次セミナーは、学部等別に開講され、必修科目（2単位）です。クラス分け、履修内容などについては、学部の案内に従ってください。一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可等により再履修する場合は、次年度以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学，社会人リテラシー，数理・データサイエンス・AI科目

- 1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。
- 2) 全学共通教育で開講される科目については、1年次から履修できます。
- 3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。
- 4) 全学共通教育で開講される人文・社会科学科目群，自然科学科目群については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目分のみ算入されます。
- 5) 全学共通教育で開講される人文・社会科学科目群，自然科学科目群，複合領域科目群の履修申請方法は、24ページを参照してください。
- 6) 社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目です。
- 7) 数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目です。

(3) 外国語科目

- 1) 全学共通教育で開講される英語4科目4単位及び学部で開講される科学英語1科目2単位を修得しなければなりません。
- 2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は、表6.3のとおりです。

表6.3 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目区分	授業科目名	開講時期				最低修得単位数	備考
		1年次		2年次			
		前学期	後学期	前学期	後学期		
英語	1	◎				6単位 5科目	全学共通教育科目
	2		◎				全学共通教育科目
	3		◎				全学共通教育科目
	4			◎			全学共通教育科目
	科学英語				◎		学部開講科目（2単位）

3) 英語（科学英語は除く）

- a 表6.3のとおり英語1，英語2，英語3，英語4は全て必修です（履修登録は事務で行います）。
- b 英語のクラスは、4つのクラスに分かれており、表6.4のとおり開講されます。
- c 不合格と判定されたものは、当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は、学期中に掲示及びWeb（学務情報システム）により指示されます。
- d 上記の集中クラス以外に、不合格や履修放棄と判定されたものは、原則として次学期以降に開講される同じ授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。

この手続き方法は、掲示等により指示されます。その登録方法は全学共通教育事務室で確認してください。

※また、英検等の資格を取得して、英語の単位の認定を受けることもできます（32ページ参照）。

表6.4 英語のクラス編成及び開講時期

英語	クラス名		開講学年	学期	曜日・時限
1	A1E6	共同獣医	1年	前学期	水曜日・2時限
2	A1E6	共同獣医	1年	後学期	火曜日・2時限
3	A1E6	共同獣医	1年	後学期	水曜日・1時限
4	A2E6	共同獣医	2年	前学期	月曜日・1時限

4) 第二外国語（言語と文化）

- a 言語と文化（講義科目）を1科目2単位修得しなければなりません。
- b 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は、表6.5のとおりです。

表6.5 言語と文化（講義科目）の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得 単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語	◎		2単位 (1科目)	6つの言語の中から、1つの言語を選んで履修します。
	フランス語				
	中国語				
	ポルトガル語				
	朝鮮・韓国語				
	アイスランド語		◎		

- c 言語と文化（講義科目）は、表6.5のとおり、1年次において、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語から1つ選んで履修します。
- d 希望調査により、クラス分け・履修登録されます（Webで申請する必要はありません）。指定されたクラスで受講してください。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。
- e 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。
- f 言語と文化を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。この手続き方法は、掲示等により指示されます。キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

社会システム経営学環

社会システム経営学環

1 全学共通教育に係る最低修得単位数

(1) 教養科目の最低修得単位数は、表7.1のとおりです。

表7.1 教養科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
初年次セミナー	2
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	4
スポーツ・健康科学	2
英語	4
言語と文化	2
社会人リテラシー	1
数理・データサイエンス・AI	2
学部開講科目 教養基礎	—
合計	29

(2) 卒業に必要な単位基準は、「社会システム経営学環履修の手引き」を参照してください。

表7.1の合計29単位のほか、2単位までは専門科目と合わせた自由選択科目（4単位）に含めることができます。

2 履修申請（登録）単位数の上限

全学共通教育に履修申請（登録）できる単位数の上限は、各学期とも17単位（1年次）です。この履修申請（登録）できる単位数の上限には、英語、言語と文化科目も含まれます。

※教養科目の履修上限は上記のとおりですが、教養科目及び社会システム経営学環専門科目の履修申請単位数合計は、各学期26単位です。なお、直前の学期のGPAに基づき、単位数の上限は変更します。詳しくは「社会システム経営学環履修の手引き」の「社会システム経営学環におけるGPA取扱いについて」を参照してください。

3 全学共通教育の開講時間枠

全学共通教育の開講時間枠を表7.2に示します。

表7.2 全学共通教育の開講時間枠

1年 前学期						1年 後学期					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	英語 1	◎ 言語と文化	英語 2	専門	専門	1	英語 3	◎	◎	専門	専門
2	◎	◎ 言語と文化	◎	専門	専門	2	◎	◎	英語 4	専門	専門
3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	3	◎	◎ 言語と文化		専門	専門
4	◎	◎ 言語と文化		専門	専門	4	◎	◎		専門	専門
5	◎	初年次 セミナー		専門	専門	5	◎	◎		専門	専門

◎：教養科目を履修できます。

- ・言語と文化は、希望調査により、クラス分けされますので、指定されたクラスで受講してください。
- ・2年次以降は空き時間に教養科目を履修できます。

4 全学共通教育科目の履修方法等

(1) 初年次セミナー

初年次セミナーは、各学部等で開講され、必修科目（2単位）です。クラス分け、履修内容などについては、学環の案内に従ってください。一度単位修得した授業科目は、再度履修することはできません。不可や未履修等により再履修する場合は、次年度以降に履修します。履修申請に際しては、十分注意してください。

(2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目

- 1) 令和7年度に開講されている科目（授業）の詳細は、Web シラバスを参照してください。
- 2) 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数は、表7.3のとおりです。
- 3) 1つの授業科目が複数の授業名で開講されていますが、同じ科目名では1つの授業しか履修できませんので注意してください。
- 4) **人文科学，社会科学，自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目のみ算入されます。**

表7.3 人文科学，社会科学，自然科学，岐阜学，スポーツ・健康科学科目の最低修得単位数

科目区分	最低修得単位数
人文科学	4
社会科学	4
自然科学	4
岐阜学	4
スポーツ・健康科学	2
合計	18

5) 履修申請方法は、24ページを参照してください。

(3) 英語科目

- 1) 英語を4科目4単位修得しなければなりません。
- 2) 英語の開講科目及び最低修得単位数は、表7.4のとおりです。

表7.4 英語の開講科目及び最低修得単位数

科目区分	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
英語	1	◎		4単位 (4科目)	
	2	◎			
	3		◎		
	4		◎		

- 3) 表7.4のとおり英語1，英語2，英語3，英語4は全て必修です（履修登録は事務で行います）。
- 4) 英語のクラスは、表7.5のとおり開講されます。英語1及び2で所属したクラスは、英語3及び4の授業でも同じクラスです。
- 5) 不合格と判定されたものは、当該学期後の休業期間に開講される同じ授業科目の集中クラスを再履修できます。集中クラスの授業日程は、学期中に掲示及びWeb（学務情報システム）により指示されます。
- 6) 上記の集中クラス以外に、不合格や履修放棄と判定されたものは、原則として次学期以降に開講される同じ授業科目（他学部等用のものでも可）を再履修します。
この手続き方法は、掲示等により指示されます。
※また、英検等の資格を取得して、英語の単位の認定を受けることもできます（32ページ参照）。

表7.5 英語のクラス編成及び開講時期

英語	クラス名	開講学年	学期	曜日・時限
1	S1E1	1年	前学期	月曜日・1時限
2	S1E1	1年	前学期	水曜日・1時限
3	S1E1	1年	後学期	月曜日・1時限
4	S1E1	1年	後学期	水曜日・2時限

(4) 言語と文化科目

- 1) 言語と文化（講義科目）を1科目2単位修得しなければなりません。
- 2) 言語と文化の開講科目及び最低修得単位数は、表7.6のとおりです。

表7.6 言語と文化（講義科目）の開講科目及び最低修得単位数

科目	授業科目名	開講時期		最低修得単位数	備考
		1年次			
		前学期	後学期		
言語と文化 (講義科目)	ドイツ語	◎		2単位 (1科目)	6つの言語の中から、1つの言語を選んで履修します。
	フランス語				
	中国語				
	ポルトガル語				
	朝鮮・韓国語				
	アイスランド語		◎		

- 3) 言語と文化（講義科目）は、表7.6のとおり、1年次において、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語、アイスランド語から1つ選んで履修します。
- 4) 希望調査により、クラス分け・履修登録されます（Webで申請する必要はありません）。指定されたクラスで受講してください。授業は、およそ40人でクラスを編成します。特定の言語の希望者が多くなり、クラスを維持できなくなる場合は、希望順位の低い言語になることもあります。
- 5) 言語のクラス分けは、前学期開講科目については4月5日に学務情報システムの履修登録画面により通知しますので、これらに記載されている教室に行き受講してください。後学期開講のアイスランド語については、別途学務情報システムの全学共通教育キャビネットにてお知らせします。
- 6) 言語と文化を再履修する場合は、次学期以降に開講される授業科目（他学部等用のものでも可）を履修します。この手続き方法は、掲示等により指示されます。
- 7) 言語と文化（講義科目）で学習した言語をさらに学ぶ科目として、第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）があります。第二外国語Ⅰ・Ⅱは、アイスランド語を除く5つの言語が後学期に開講されます。履修申請方法等詳細を後日掲示等にてお知らせします。全学共通教育棟前の掲示板や学務情報システムの全学共通教育キャビネット等のお知らせに従い申請してください。

(5) 社会人リテラシー科目

社会人リテラシー科目のうち「日本語表現Ⅰ（初級）」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

(6) 数理・データサイエンス・AI科目

数理・データサイエンス・AI科目のうち「データ科学基礎」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）及び「データ科学基礎演習A」（1単位・オンデマンド型遠隔授業）は必修科目になります。それ以外は自由選択科目となるので注意してください。

全学共通教育科目一覧

詳細は、「岐阜大学 WEB シラバス」を参照
(<https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/syllabus.html>)

* 同じ科目名のものは、授業名、担当教員及び開講時期が異なっても1つしか履修できません。また、一度単位修得した科目は、再履修できません。

* 人文科学、社会科学、自然科学の科目については、同一分野での複数の授業科目の単位を修得した場合、当該科目区分の最低修得単位数には1科目分のみ算入されます。同一分野の2科目以降の修得単位については、自由選択科目の単位として、算入することができます。(ただし、学部等によって自由選択科目に算入できる単位数は異なりますので、全学共通教育事務室または各学部等の事務室へ相談にきてください。)

* スポーツ・健康科学で履修申請できるのは、各学期に1科目までです。

初年次セミナー

【目標】

高校生までの勉強方法から大学生に相応しい学習方法へと転換できるよう、アカデミック・スキルズ（学習に必要な知識・技術）、および消費に関する知識を修得します。また、大学で学ぶうえで不可欠な自主的・積極的な態度を涵養します。

【カリキュラムの特徴】

本科目は、それぞれの学部等で複数の教員が担当します。学部学科等により、また担当する教員によって教授する内容に少し違いはあるものの、図書館やアカデミック・コアの利用方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの技能、ディスカッションの進め方、全学共通教育から専門教育への繋げ方など、大学における学習の仕方について理解を深める点で共通しています。また、消費者教育も行います。初年次セミナーの内容をしっかりと修得することで初めて、大学4～6年間の勉学を意義あるものにすることが可能となります。

学修支援部会

初年次セミナー

学部	科目名	担当教員	所属	単位	開講枠		
教育学部	初年次セミナー《教育・国語》 Freshman Seminar	佐藤貴裕 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・社会》 Freshman Seminar	田中 伸 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・数学》 Freshman Seminar	田中利史 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・理科》 Freshman Seminar	三宅 崇 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・音楽》 Freshman Seminar	西尾 洋 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・美術》 Freshman Seminar	野村幸弘 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・保健体育》 Freshman Seminar	林 陵平 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・技術》 Freshman Seminar	舟越久敏 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・家政》 Freshman Seminar	大藪千穂 他	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・英語》 Freshman Seminar	仲 潔	教育学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《教育・特別支援》 Freshman Seminar	神野幸雄 他	教育学部	2	前	火	5

学部	科目名	担当教員	所属	単位	開講枠		
					前	火	5
教育学部	初年次セミナー《教育・学校》 Freshman Seminar	長谷川哲也 他	教育学部	2	前	火	5
地域科学部	初年次セミナー《地域・小林セミナー》 Freshman Seminar	小林垂由美	地域科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《地域・水林セミナー》 Freshman Seminar	水林 純	地域科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《地域・神谷セミナー》 Freshman Seminar	神谷宗明	地域科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《地域・河合セミナー》 Freshman Seminar	河合 壘	地域科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《地域・内田セミナー》 Freshman Seminar	内田 勝	地域科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《地域・向井セミナー》 Freshman Seminar	向井貴彦	地域科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《地域・魏セミナー》 Freshman Seminar	魏 晨	地域科学部	2	前	月	5
医学部医学科	初年次セミナー《医学部（医学科）》 Freshman Seminar	医学科教員	医学部医学科	2	前	水	6
医学部看護学科	初年次セミナー《医学部（看護学科）》 Freshman Seminar	看護学科教員	医学部看護学科	2	前	月	5
工学部	初年次セミナー《工・社会基盤工学科》 Freshman Seminar	教務担当教員	工学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《工・機械工学科》 Freshman Seminar	教務担当教員	工学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《工・化学・生命工学科》 Freshman Seminar	教務担当教員	工学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《工・電気電子・情報工学科（電気）》 Freshman Seminar	教務担当教員	工学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《工・電気電子・情報工学科（情報）》 Freshman Seminar	教務担当教員	工学部	2	前	火	5
	初年次セミナー《工・電気電子・情報工学科（応用物理）》 Freshman Seminar	教務担当教員	工学部	2	前	火	5
応用生物科学部	初年次セミナー《応生 A・岩澤セミナー》 Freshman Seminar	岩澤 淳 他	応用生物科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《応生 B・柳瀬セミナー》 Freshman Seminar	柳瀬笑子 他	応用生物科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《応生 C・山田セミナー》 Freshman Seminar	山田邦夫 他	応用生物科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《応生 D・二宮セミナー》 Freshman Seminar	二宮 茂 他	応用生物科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《応生 E・只野セミナー》 Freshman Seminar	只野 亮 他	応用生物科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《応生 F・吉岡セミナー》 Freshman Seminar	吉岡有美 他	応用生物科学部	2	前	月	5

学部	科目名	担当教員	所属	単位	開講枠		
					前	月	5
応用生物科学部	初年次セミナー《応生 G・齋藤セミナー》 Freshman Seminar	齋藤正一郎 他	応用生物科学部	2	前	月	5
	初年次セミナー《応生 H・海野セミナー》 Freshman Seminar	海野年弘	応用生物科学部	2	前	月	5
社会システム経営学環	初年次セミナー《社会システム経営学環》 Freshman Seminar	高木朗義	社会システム経営学環	2	前	火	5

人文科学科目

【目標】

人間の複雑さと多様性について学ぶことを通じて、わたしたち自身の思考・行動を客観的・批判的にとらえる方法を身につけます。同時に、自分とは異なる価値観や立場を認め、共存しようとする姿勢を養います。

【カリキュラムの特徴】

人文科学領域には、①哲学 ②歴史学 ③文学 ④言語 ⑤心理・行動学 ⑥文化・芸術 の6つの分野があり、それぞれの分野で多様なテーマの授業が開講されています。各分野で入門的内容から専門性の高いものまで、いずれの授業も、皆さんが大学生にふさわしい教養（＝基盤的能力）を身につけることができるよう工夫されています。

人文科学部会

人文科学科目

分野	科目名	授業名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
哲学分野	哲学入門 Introduction to Philosophy	正義について哲学しよう	香春	非常勤	100	2	前	月	1
		西洋哲学入門	柴田和宏	地域科学部	100	2	後	月	3
		批判的思考 (クリティカルシンキング)	長谷川暁人	教育推進・学生支援機構	100	2	後	水	2
	人間・死生学 Human Thanatology	現代人間論	成瀬 翔	非常勤	100	2	後	火	4
	近現代思想 Modern and Contemporary Ideology	日本の近代思想	田澤晴子	教育学部	25	2	後	月	3
		自由と現代社会	府川純一郎	地域科学部	150	2	前	月	2
		西洋近現代思想	長谷川暁人	教育推進・学生支援機構	100	2	後	火	2
	東洋・日本思想 Oriental, Japanese Ideology	インド思想の特質	平野克典	非常勤	100	2	前	月	3
	倫理学 Ethics	倫理学とは何か	成瀬 翔	非常勤	100	2	後	火	3
	宗教学 Religion	比較宗教学概論	平野克典	非常勤	100	2	前	月	4
社会問題と宗教		水野和彦	非常勤	100	2	後	火	4	
歴史学分野	歴史学入門 Introduction to History	歴史学とは何か	小島 崇	非常勤	100	2	前	月	4
	西洋・中東史 Western and Middle East History	西洋史（イギリス近代史）	辻本 諭	教育学部	80	2	前	月	2
		西欧諸国形成史	小島 崇	非常勤	100	2	前	月	5
	中国・朝鮮半島史 Chinese and Korean Peninsula History	朝鮮・韓国の文化と日本との交流史	陳 大哲	非常勤	100	2	後	月	1
		中国史	塚本明日香	地域協学センター	100	2	後	火	5
	世界近現代史 Modern and Contemporary World History	現代国際関係史	加藤公一	地域科学部	30	2	令和7年度非開講		
		アメリカ概論	西川裕子	非常勤	80	2	前	火	5
	日本史 Japanese History	日本の歴史	関口哲矢	非常勤	30	2	後	月	1
	日本近・現代史 Japanese Modern and Contemporary History	近現代日本の政治と国家主義運動	岡 佑哉	非常勤	40	2	後	水	2
民俗学・人類学 Folklore and Anthropology	人類学入門	堀江未央	地域科学部	100	2	後	月	2	

分野	科目名	授業名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠			
							前	火	3	
文学分野	文学 Literature	文学とは何か	加藤博子	非常勤	70	2	前	火	3	
					70	2	前	火	4	
	外国文学 Foreign Literature	朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能 英米文学を読む 三國志時代の文学 西洋文学論 ロシア革命と文学	陳 大哲 林 日佳理 好川 聡 加藤博子 白村直也	非常勤 教育学部 教育学部 非常勤 教育推進・学生支援機構	100	2	前	前	月	1
					50	2	前	水	2	
					50	2	後	月	5	
					50	2	後	火	3	
					70	2	後	火	4	
	日本文学 Japanese Literature	近世文学の世界 中世日本の絵物語の世界	土谷桃子 末松美咲	日本語・日本文化教育センター 教育学部	30	2	前	月	2	
					50	2	後	火	5	
	言語分野	言語学入門 Introduction to Linguistics	日本語学入門 一緒に学ばまい！岐阜の方言と南欧の言語	吉成祐子 山田敏弘	日本語・日本文化教育センター 教育学部	20	2	前	月	1
20						2	後	月	1	
60						2	前	月	1	
言語学 Linguistics		北欧のことばと地域の方言 フランス語論 児童の文章表現 映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化 日本語再発見	大宮康一 ゲラン, ジル 小林一貴 飯田泰弘 佐藤貴裕	地域協学センター 地域科学部 教育学部 教育学部 教育学部	80	2	前	前	月	3
					45	2	前	月	3	
					80	2	後	火	1	
					150	2	前	月	4	
					150	2	前	火	4	
日本語表現論 Japanese Expression Studies		劇作における会話表現 日本語口頭表現 実用的な日本語表現を学ぶ あいみよんの歌詞から学ぶ日本語表現	はせひろいち 橋本慎吾 清島絵利子 山田敏弘	非常勤 日本語・日本文化教育センター 教育推進・学生支援機構 教育学部	40	2	前	前	月	2
					20	2	前	火	2	
					20	2	後	火	2	
					20	2	令和7年度非開講			
					80	2	後	月	4	
					心理・行動学分野	心理学入門 Introduction to Psychology	心理学概論 社会心理学	伊藤宗親 他 峰尾菜生子	教育学部 地域科学部	100
60	2	後	月	4						
心理学 Psychology 心理学実験・調査法 Psychological Experiments and Research Method	幼児発達支援入門 心理学実験・調査法	坂本 裕 合掌 顕	教育学部 地域科学部	100		2	後	火	3	
				25		2	前	月	4	
文化・芸術分野	西洋文化論 Western Culture Studies	ロシア人の生活と言語 西洋建築史 ロシアの自然と言語	高島康弘 他 杉山真魚 高島康弘 他	応用生物科学部 教育学部 応用生物科学部	20	2	前	火	2	
					100	2	後	月	3	
					20	2	後	火	2	
	日本文化論 Japanese Culture Studies	日本言語文化論：国語教育史 礼儀作法の理論と背景	安 直哉 柴崎直人	教育学部 教育学部	50	2	前	月	1	
					100	2	前	月	2	
	現代文化論 Contemporary Culture Studies	現代の文化研究 科学技術と人間社会	洞澤 伸 宮坂武志 他	地域科学部 工学部	130	2	後	火	1	
					100	2	前	月	1	
	異文化論 Cross Cultural Studies	社会の中の言語・言語の中の社会 リトアニア学 グローバル人材としての諸外国理解	仲 潔 毛利哲也 他 小山博之 他	教育学部 工学部 グローバル推進機構	100	2	後	月	2	
					40	2	前	月	5	
					30	2	後	月	2	
	美術論 Art Studies	美術史 デザイン論 カリグラフィ論	野村幸弘 山本政幸 山本政幸	教育学部 教育学部 教育学部	60	2	前	火	1	
					100	2	前	水	2	
					100	2	後	水	2	
	音楽論 Music Studies	オーケストラ音楽を聴く 実用作曲法 ドイツ歌曲への誘い ピアノ基礎（連弾）	松浦光男 西尾 洋 近野賢一 仲田久美子	教育学部 教育学部 教育学部 教育学部	55	2	前	火	3	
					80	2	前	水	1	
					80	2	後	水	1	
					100	2	前	水	2	
16	2	前	水	1						

社会科学科目

【目標】

岐阜大学の学生が、高度な情報化や経済のグローバル化の中で、社会に流されたり、個々の社会現象の片面的な理解に振り回されたりせずに、その背後にある真理を多面的に分析できるようになるために、トータルな科学的法則的認識を獲得することを目標とします。その認識によって、社会の未来を見通し、能動的に社会に働きかける自立した市民として成長できるようになってください。

【カリキュラムの特徴】

社会科学は、法学、政治学、経済学、経営学、社会学、地理・地域論、教育学、社会総合の8つの分野に分かれます。

社会科学は、学部等により2科目（4単位）または3科目（6単位）を必修としていますが、なるべくトータルに把握できるように広い分野から科目選択することが望まれます。

社会科学部会

社会科学科目

分野	科目名	授業名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
							前	月	2
法学分野	法学入門 Introduction to Law	法とは何か	宮坂果麻理	非常勤	100	2	前	月	2
		立法体験：まちづくり条例制定の体験	三谷 晋	地域科学部	30	2	令和7年度非開講（隔年開講）		
	日本国憲法 Constitution of Japan	憲法	加藤徳人	非常勤	100	2	前	月	2
		人権	小牧亮也	地域科学部	100	2	前	月	4
		教職のための憲法	坂本一也	教育学部	100	2	後	水	2
	社会法 Society Law	労働と法	河合 壘	地域科学部	80	2	後	火	3
	裁判法 Trial Law	市民と裁判	宮坂果麻理	非常勤	100	2	後	月	2
	刑事法 Criminal Law	犯罪と刑罰について	宮坂果麻理	非常勤	100	2	後	月	3
知的財産権法 Intellectual Property Law	知的財産権法入門	豊吉 滋 他	非常勤	45	2	前	水	2	
政治学分野	現代政治論 Studies in Contemporary Politics	現代日本の政治	岡田宏太郎	非常勤	100	2	前	火	3
		日本の政治と世界	岡田宏太郎	非常勤	100	2	後	火	3
		近代日本の政治と行政	山本公德	地域科学部	100	2	後	火	1
平和学 Peace Studies	国際平和学	上野友也	教育学部	100	2	前	火	4	
経済学分野	経済学入門 Introduction to Economics	現代の日本経済	柴田 努	地域科学部	60	2	前	月	2
		社会における経済の仕組み	天池洋介	非常勤	80	2	前	水	1
		経済政策	鈴木 力	地域科学部	60	2	後	水	2

分野	科目名	授業名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
							前	中	後
経営学分野	経営学入門 Introduction to Management	経営学とは何か	大澤圭吾	地域科学部	80	2	前	火	3
		はじめての経営学	加藤厚海 他	社会システム経営学環	60	2	前	水	2
		ファイナンス・アカウントング入門	後藤尚久 他	社会システム経営学環	50	2	後	火	3
		起業入門	柴田仁夫	社会システム経営学環	30	2	前	水	1
	マネジメント論 Studies in Management	マーケティング論入門	天池洋介	非常勤	70	2	前	火	1
			70	2	前	火	2		
		マネジメントシステムと監査	櫻田 修 他	工学部	25	2	前	集中	
		めざせソーシャルビジネス起業【連携】	高野雅夫	名古屋大学	4	2	前	金	2
	PBL マーケティング【連携】	児玉英明	名古屋大学	5	2	前	集中		
社会学分野	社会学入門 Introduction to Sociology	社会階層論	安藤純子	非常勤	100	2	前	月	2
		やさしいジェンダー学入門	落合絵美	男女共同参画推進室	60	2	後	火	3
		社会の中の看護	小木曾加奈子 他	医学部看護学科	50	2	後	水	2
	現代社会論 Contemporary Society Studies	少子高齢化社会	安藤純子	非常勤	100	2	前	月	3
		現代を生きる家族	山田奈央 他	医学部看護学科	80	2	前	月	3
		社会の基盤	國枝 稔 他	工学部	100	2	後	月	2
		宇宙時代を生きる	宮坂武志	工学部	100	2	後	月	3
		Amish のライフスタイルから現代社会を考える	大藪千穂	教育学部	100	2	後	月	2
		ワーク・ライフ・バランス (男女共同参画論)	落合絵美 他	男女共同参画推進室	100	2	後	水	2
	メディア論 Media Studies	メディア論の基礎	三井愛子	非常勤	100	2	前	月	2
			100	2	前	月	3		
		メディアの特徴・歴史・現状・課題	野原 仁	地域科学部	150	2	前	月	4
		国際メディア論	三井愛子	非常勤	100	2	後	月	3
地理・地域論分野	地域論 Regional Studies	環境学入門【連携】	小松 尚	名古屋大学	10	2	前	金	2
教育学分野	教育論 Educational Studies	障害児教育臨床学	神野幸雄	教育学部	30	2	前	火	4
		教育哲学	柳沼良太	教育学部	100	2	前	月	4
			120	2	後	月	4		
		学校の社会的意味を問う	南出吉祥	地域科学部	100	2	後	月	5
特別支援教育ベーシック	坂本 裕	教育学部	100	2	前	火	3		
社会・総合分野	社会総合 General Studies in Social Science	生活の経済	大藪千穂	教育学部	100	2	前	月	1
		環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント	櫻田 修 他	工学部	50	2	令和7年度非開講		
	安全科学 Safety Science	現代社会の労働：労働問題を考える	河合 壘	地域科学部	70	2	前	水	2
		交通安全の科学	道上知美 他	大学院医学系研究科	100	2	前	火	5
	社会安全学入門	富田賢吾	非常勤	100	2	後	水	2	

自然科学科目

【目標】

未知の自然現象等に対する好奇心と鋭い観察力，そして論理的思考力を涵養することを目指します。そのために自然現象等の基礎的な法則・知識の習得や，その不思議さ・美しさ・神秘性を楽しむことも必要です。

【カリキュラムの特徴】

本科目群は「数学分野」，「物理学分野」，等の10分野に分かれています。標準的レベルの授業以外にも「○○学入門」というような科目名で初学者向けの授業も多数開設されています。受講の際にはシラバス等を調べ予備知識がどの程度必要かも確認しておいてください。

自然科学部会

自然科学科目

分野	科目名	授業名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
数学分野	教養の数学 General Mathematics	図学	小宮山正治	工学部	30	2	後	火	2
		数学の創造と活用	花木 良	教育学部	24	2	後	水	2
	基礎代数学 Basic Algebra	古典数学へのいざない	山室考司	工学部	40	2	前	火	3
	基礎解析学 Basic Analysis	微分積分学	山田雅博	教育学部	50	2	前	月	5
	基礎統計学 Basic Statistics	Excel で学ぶ基礎統計学	小林信介	工学部	15	2	後	火	3
実感する統計学		高橋周平	工学部	20	2	後	火	3	
物理学分野	物理学入門 Introduction to Physics	物理実験で調べてみよう【連携】	井村敬一郎	名古屋大学	5	2	前	集中	
	教養の物理学 General Physics	雷の科学	王 道洪	工学部	40	2	前	水	2
		物性の力学	平松 研 他	応用生物科学部	50	2	後	火	2
		力学現象の数学的見方	松村雄一	工学部	50	2	後	火	3
		日曜大工からはじめる力学	永井学志	工学部	48	2	前	火	4
現代物理学 Modern Physics	表面張力の物理学	岩本悟志	応用生物科学部	100	2	令和7年度非開講			
化学分野	化学入門 Introduction to Chemistry	日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ	瀬瀬 守	工学部	150	2	前	月	2
		身近なものから学ぶ化学	植村一広 他	工学部	80	2	後	火	2
		身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学	近江靖則	高等研究院	50	2	前	月	3
		化学実験で調べてみよう【連携】	珠玖良昭	名古屋大学	80	2	後	月	4
	教養の化学 General Chemistry	化学概論	和佐田裕昭 他	地域科学部	5	2	前	集中	
		現代の視点から、古典に学ぶ(化学系)	杳水祥一 他	地域科学部	24	2	後	月	2・3
現代化学 Modern Chemistry	プラスチック材料の基礎	武野明義	工学部	90	2	後	月	4	
	ソフトマター	木村 浩 他	工学部	100	2	前	月	5	
	ケミカルエンジニアリング入門	上宮成之 他	工学部	50	2	後	水	2	
生物学分野	生物学入門 Introduction to Biology	現代生物学入門	上宮成之 他	工学部	65	2	前	月	3
		現代生物学入門	小山博之 他	応用生物科学部	100	2	前	月	1
		微生物と病気	永井宏樹 他	大学院医学系研究科	147	2	前	月	3
		森と人の生態学(岐阜の植生から学ぶ)	大塚俊之	高等研究院	40	2	後	月	1

分野	科目名	授業名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠			
							後	火	1	
生物学分野	教養の生物学 General Biology	動物と病気	椎名貴彦 他	応用生物科学部	50	2	後	火	1	
		ヒトのからだ	小川名美 他	大学院医学系研究科	100	2	後	火	2	
		生命の仕組み	志水泰武 他	応用生物科学部	100	2	前	水	2	
		食の多様な役割	北口公司 他	応用生物科学部	40	2	前	水	2	
	現代生物学 Modern Biology	薬の細胞生物学	上田 浩	工学部	60	2	後	月	2	
		生き物よもやま話	渡邊一弘 他	応用生物科学部	150	2	後	月	2	
		生物共生論	伊藤直人 他	応用生物科学部	100	2	前	火	2	
実践生物化学	実践生物化学	竹森 洋	工学部	30	2	前	月	4		
	医学史	山口 瞬 他	大学院医学系研究科	100	2	前	水	2		
医学分野	教養の医学 General Medicine	幹細胞と再生医学	本橋 力 他	大学院医学系研究科	40	2	後	水	2	
	現代医学 Modern Medicine	身近な薬と毒の科学	海野年弘 他	応用生物科学部	90	2	後	火	3	
現代医療の最前線		末次 淳 他	大学院医学系研究科	100	2	前	水	1		
宇宙地球科学分野	教養の宇宙地球科学 General Earth and Space Science	気象学概論	玉川一郎 他	高等研究院	100	2	前	火	4	
		地球環境の変遷	大谷具幸	工学部	100	2	後	月	3	
		ESD 入門	塚本明日香	地域協学センター	20	2	前	火	3	
環境学分野	教養の環境学 General Environmental Science	自然災害と生活	玉川一郎 他	高等研究院	100	2	後	月	2	
		生物の多様性と人間社会	広田 勲 他	応用生物科学部	60	2	前	火	4	
		生物生産と環境	松井 勤 他	応用生物科学部	100	2	後	水	2	
		里山の水辺の環境学	伊藤浩二	地域協学センター	35	2	前	火	2	
	現代環境学 Modern Environmental Science	地球史における環境問題：水・土・生命・人	大西健夫	応用生物科学部	70	2	後	水	1	
		エネルギー問題	林 浩司	工学部	100	2	前	月	1	
		生物多様性を支える森林と動物たち	鈴木正嗣 他	応用生物科学部	80	2	前	水	1	
		世界の食料と人口問題	小山博之 他	応用生物科学部	100	2	前	月	3	
		ESD 実践研究	塚本明日香	地域協学センター	16	2	後	火	3	
		キャンパス緑地で学ぶグリーンインフラ入門	伊藤浩二	地域協学センター	20	2	後	火	4	
		世界の農業事情	八代田真人 他	応用生物科学部	100	2	後	月	4	
		化学と生物のインターフェース	中川智行 他	応用生物科学部	150	2	後	月	3	
		科学的なものの考え方	櫻田 修 他	工学部	40	2	後	火	4	
		数値シミュレーション入門	山下 実	工学部	70	2	前	月	4	
自然科学総合分野	自然科学総合 Interface of Natural Sciences	ものの科学	吉田佳典	工学部	50	2	後	月	2	
		化学と生命科学	竹森 洋 他	工学部	61	2	前	月	2	
		古典に学ぶ(偉大な科学者の学問と人生)	新田高洋 他	工学部	70	2	後	火	3	
		生物間コミュニケーション	柳瀬笑子 他	応用生物科学部	40	2	前	月	1	
		ロボット文化論	毛利哲也 他	工学部	40	2	後	月	5	
		食と調理	柴田奈緒美	教育学部	60	2	後	月	3	
		生とリプロダクティブヘルス/ライツ	大平幸子 他	医学部看護学科	15	2	前	月	3	
		実用例から学ぶプラズマ	伊藤貴司 他	工学部	50	2	後	火	5	
		メタバース文化論	尾関智恵 他	高等研究院	20	2	後	火	5	
		実験講座 Natural Science Experiment Course	ご飯までのフィールド科学	大場伸也 他	応用生物科学部	40	2	前	火	2
			家畜たちのフィールド科学	八代田真人	応用生物科学部	30	2	前	水	2
			森と川のフィールド科学	伊藤健吾 他	応用生物科学部	15	2	後	月	3
			金属を使ったものづくり	中田隼矢	教育学部	8	2	前	集中	
		情報学分野	情報学入門 Introduction to Informatics	ITの歴史と未来	山田宏尚	工学部	60	2	前	月
経営のためのオペレーションズ・リサーチ	金子美博			工学部	60	2	後	火	1	
教養の情報学 General Informatics	オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング		金子美博	工学部	40	2	前	火	1	
	認知科学入門		尾関智恵	高等研究院	40	2	前	火	5	

岐阜学科目

【目標】

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域活性化の中核拠点としての役割を担う大学です。そのためには、岐阜県出身であるなしに関わらず、この岐阜大学が位置する岐阜をよく知ることが大切です。岐阜学分野は、岐阜を中心としたこの地域を知り、地域に学び、地域への関心を高め、地域を誇ることができるよう編成された分野で、地域づくりに貢献できる力を育むことを目指します。そして、岐阜大学を卒業するまでに、すべての岐阜大学生が岐阜について説明できるようになることを目標とします。

【カリキュラムの特徴】

この分野には、2種類の科目が含まれています。1つは、人文科学、社会科学、自然科学など、多様な諸科学の科目で、「岐阜」を共通のテーマとして掲げ深める内容となっています。もう1つは、上記の諸科学の科目の枠にとらわれず「岐阜」という観点から学際的にアプローチする科目です。どちらも、フィールドワークや現地調査、体験などもふまえ、世界から岐阜を捉えた俯瞰的かつ具体的な知見を皆さんにもたらしめてくれることでしょう。

岐阜学部会

岐阜学科目

科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
					前	月	5
地域と環境 SDGs Community and Environmental SDGs	櫻田 修 他	工学部	—	2	前	月	5
			50	2	後	月	3
地域社会と災害 Regional Community and Disaster	小山真紀 他	高等研究院	50	2	後	月	3
畜産・水産業の歴史と食文化 Livestock and Fisheries History and Food Culture	山本朱美 他	応用生物科学部	60	2	後	月	3
世界の食文化 World food culture	タンマウオン マナスイカン 他	応用生物科学部	50	2	後	月	2
人権と社会教育 Human rights and social education	後藤誠一 他	地域協学センター	50	2	後	水	2
現代社会と学習・教育（生涯学習概論Ⅰ） Learning & Education in Modern Society (Study of Lifelong Learning I)	益川浩一 他	地域協学センター	50	2	前	月	3
生涯学習概論Ⅱ Study of Lifelong Learning II	後藤誠一 他	地域協学センター	50	2	前	水	1
社会教育施設・支援者論 Theories of Social Educational Facilities & Its Supporters	後藤誠一 他	地域協学センター	50	2	後	水	1
社会教育経営論 Theories of Social Education Management	後藤誠一 他	地域協学センター	40	2	前	集中	
学校と家庭・地域の連携 Cooperation between Schools, Homes & Local Communities	後藤誠一 他	地域協学センター	50	2	前	火	4
教育社会システム論（教育社会学） Theories of Educational Social Systems (Educational Sociology)	後藤誠一 他	地域協学センター	36	2	前	集中	
生涯学習成果の還元とボランティア活動 Lifelong Learning and Volunteering	後藤誠一 他	地域協学センター	40	2	後	集中	
社会教育実習 Practice of Social Education	後藤誠一 他	地域協学センター	30	1	後	集中	
野外活動実習 Practice of Field Activities	後藤誠一 他	地域協学センター	30	1	後	集中	
社会教育課題研究（学習プログラム開発論） Research of Social Education	益川浩一 他	地域協学センター	50	2	後	月	4

科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠	
					前	集中
環境リーダー実践（上級）Ⅰ Environmental leader practice (advanced) I	大場伸也 他	応用生物科学部	20	2	前	集中
環境リーダー実践（上級）Ⅱ Environmental leader practice (advanced) II	大場伸也 他	応用生物科学部	20	2	後	集中
岐阜県の生物の分布と生態 Distribution and ecology of animals and plants in Gifu Prefecture	古屋康則 他	教育学部	70	2	後	月 4
岐阜大学の教育研究と運営 Education, research and administration of Gifu University	益子典文 他	副学長	100	2	前	月 1
まちづくりリーダー入門 Introduction to Community Development Leaders	高木朗義 他	社会システム経営学環	100	2	前	火 4
まちづくりリーダー実践 Training of Community Development Leaders	高木朗義 他	社会システム経営学環	25	2	後	集中
岐阜の自然（地質・活断層と水環境） Nature of Gifu Prefecture, geology, active faults and water environment	大谷具幸 他	工学部	100	2	前	火 4
フューチャーセンター入門 Introduction to Future Center	益川浩一 他	地域協学センター	30	2	前	月 5
			30	2	後	月 5
岐阜県の生活と文化 Life and Culture in Gifu Prefecture	橋本 操 他	教育学部	20	2	前	火 2
人と自然との関わりから見た岐阜 Seen from the relationship between human and nature Gifu	益川浩一 他	地域協学センター	25	2	前	月 2
人と自然の関わりから見た岐阜（実践） Gifu viewed in Relation to Human and Nature (Field-work)	益川浩一 他	地域協学センター	25	2	後	月 2
岐阜の産業：地域で活躍する企業と人 Gifu industry - Companies and people that are active in the region	伊藤貴司 他	工学部	60	2	前	火 4
地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る Introduction to Regional Industry and Business Strategy	益川浩一 他	地域協学センター	30	2	前	月 2
岐阜にまつわる東洋史 Oriental History Related to Gifu	塚本明日香	地域協学センター	100	2	前	火 5
地域防災リーダー基礎 Basics of Community Damage Prevention Leaders	小山真紀 他	高等研究院	15	2	前	集中
			15	2	後	集中
岐阜県の環境教育と科学・技術 Environmental education and science & technology in Gifu Prefecture	大場伸也 他	応用生物科学部	100	2	後	月 3
古今のものづくり History of manufacturing	中田隼矢	教育学部	30	2	前	月 3
			30	2	後	月 3
高年次教養フォーラム Liberal Arts Forum for Junior and Senior Students	神酒太郎 他	教育推進・学生支援機構	20	2	後	月 5
キャリア形成論 Studies in career development	白村直也	教育推進・学生支援機構	55	2	前	火 3
			55	2	後	月 2
地域福祉をめぐる課題解決型実習 Problem-solving practice for community welfare	白村直也	教育推進・学生支援機構	55	2	後	火 3
現代社会とボランティア・地域活動 Modern Society and Community-Based Volunteer Activities	白村直也 他	教育推進・学生支援機構	50	2	前	水 3
			50	2	後	水 3
生活と金融・人生設計と資産形成 Social life and the Financial-planning	林 勲	非常勤	150	2	後	火 4
自己省察と将来のキャリア設計 Self-reflection and Design of Future Career	益川浩一 他	地域協学センター	30	2	後	月 2
自分らしいキャリア設計Ⅰ Career Planning for oneself I	益川浩一 他	地域協学センター	50	2	前	水 2
			50	2	後	水 2
アントレプレナーシップ入門 Introduction to Entrepreneurship	上原雅行	高等研究院	30	2	前	月 3
高度専門職業人概論 An Introduction to Highly-Skilled Professionals	中村垂綺 他	非常勤	50	2	前	月 2
地域系協学実習（職場体験）Ⅰ Regional collaborative study practical training (workplace learning) I	大宮康一 他	地域協学センター	25	1	前	集中
地域系協学実習（職場体験）Ⅱ Regional collaborative study practical training (workplace learning) II	大宮康一 他	地域協学センター	25	1	後	集中
産業系協学実習（職場体験）Ⅰ Industrial collaborative study practical training (workplace learning) I	大宮康一 他	地域協学センター	25	1	前	集中

科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠	
					後	集中
産業系協学実習（職場体験）Ⅱ Industrial collaborative study practical training (workplace learning) Ⅱ	大宮康一 他	地域協学センター	25	1	後	集中
地域リーダー実践（上級）Ⅰ Training of Regional Leaders (Advanced) Ⅰ	益川浩一 他	地域協学センター	30	2	前	集中
地域リーダー実践（上級）Ⅱ Training of Regional Leaders (Advanced) Ⅱ	益川浩一 他	地域協学センター	30	2	後	集中
産業リーダー実践 Training of Industrial Leaders	益川浩一 他	地域協学センター	30	2	前	集中
			30	2	後	集中
持続可能な地域と環境リテラシー Sustainable communities and environmental literacy	岩澤 淳 他	地域協学センター	15	2	後	集中
グローカリゼーションと異文化理解 Glocalization and Cross-cultural Understanding	松井真弓 他	グローバル推進機構	60	2	前	月 4
グローバルリーダー実践Ⅰ Practical Glocal Leaders Program Ⅰ	松井真弓 他	グローバル推進機構	16	2	前	集中
グローバルリーダー実践Ⅱ Practical Glocal Leaders Program Ⅱ	松井真弓 他	グローバル推進機構	16	2	後	集中
現代社会問題と社会教育 Social Issues in Contemporary Japan and Social Education	益川浩一	地域協学センター	50	2	前	月 4
地域共創セミナー（サマースクール） Seminar on cocreation with communities (the Summer School)	益川浩一 他	地域協学センター	10	1	前	集中
学習者の特性と支援方法 Learner Characteristics and Learning Support	後藤誠一 他	地域協学センター	25	2	前	集中
社会教育における地域ネットワーク形成 Local Network Creation in Social Education	二村玲衣	地域協学センター	30	2	前	集中
岐阜の地方自治とその課題：政策法務の可能性 Law and Policy Study of Local Autonomy	三谷 晋	地域科学部	80	2	後	火 3
社会教育の意義と展開 Significance and Development of Social Education	二村玲衣	地域協学センター	60	2	後	月 3
世界農業遺産入門 Introduction to Globally Important Agricultural Heritage System(GIAHS)	伊藤浩二	地域協学センター	15	2	前	集中

スポーツ・健康科学科目

【目標】

生涯にわたり幸福で豊かな生活を営むために、心身の健康の保持増進に努め、自主的に運動やスポーツに親しみ楽しむことができ、また、人との交流を通して他者理解を深め、実践的な思考力や判断力を養います。

【カリキュラムの特徴】

健康科学に関する講義系とスポーツ演習系から選び2単位以上履修します。スポーツ演習系では、個人スポーツ（ジョギング、水泳、ヨガ・エアロビクス等）、対人スポーツ（テニス、卓球、バドミントン等）、集団スポーツ（サッカー、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、ソフトボール等）があります。受講者の健康状態や体力、経験および技能に合わせて選択できるようシラバスに記されています。体育施設や用具・器具などの条件から全ての希望学生を受け入れることは難しく、抽選となる科目もあります。

スポーツ・健康科学部会

スポーツ・健康科学科目

分野	科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
						後	月	2
健康科学講義	健康科学 Health Science	山本真由美 他	保健管理センター	50	2	後	月	2
	スポーツコンディショニング Sports conditioning	河野公昭	非常勤	20	2	前	火	3
	ヘルスプロモーションと地域保健 Health Promotion and Community Health	西田友子 他	医学部看護学科	40	2	後	月	4
	健康と QOL Quality of life in health	中川ひろみ 他	医学部看護学科	75	2	前	火	3
	栄養と運動 Nutrition and Exercise	久保和弘	教育学部	45	2	後	火	2
スポーツ演習分野	アダプテッドスポーツ Adapted Sports	河野公昭	非常勤	20	2	後	火	3
	ファストピッチ・ソフトボール（ウインドミル投法入門） Fast pitch softball	伊藤直人	応用生物科学部	25	2	前	月	2
	ヨガ・エアロビクス yoga, aerobics	熊谷佳代	教育学部	35	2	前	火	4
	卓球 Table Tennis	岸 順治	非常勤	48	2	前	月	4
		西村真一	応用生物科学部	48	2	後	月	2
		岸 順治	非常勤	48	2	後	月	3
		岸 順治	非常勤	48	2	後	月	4
	卓球・水泳 Table Tennis and Swimming	清水将文 他	応用生物科学部	21	2	前	火	4
	ベタンク（球技） Petanque (ball game)	ゲラン, ジル	地域科学部	30	2	前	火	4
		ゲラン, ジル	地域科学部	30	2	後	火	3
新卓球（ラージボール） New Table Tennis with Large Ball	横川隆志	工学部	40	2	後	月	5	

分野	科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
スポーツ演習分野	テニスⅠ TennisⅠ	長かおり	非常勤	48	2	前	月	3
		長かおり	非常勤	48	2	前	月	4
	テニスⅡ TennisⅡ	長かおり	非常勤	48	2	後	月	3
		長かおり	非常勤	48	2	後	月	4
	バドミントンAⅠ Badminton AⅠ	伊藤寿浩	非常勤	40	2	前	月	2
		大坪健太	非常勤	48	2	前	月	3
		大坪健太	非常勤	48	2	前	月	4
		大坪健太	非常勤	48	2	後	月	3
		大坪健太	非常勤	48	2	後	月	4
		小栗和雄	非常勤	48	2	後	火	3
		小栗和雄	非常勤	48	2	後	火	4
	ハンドボール Handball	杉森弘幸	教育学部	36	2	前	月	5
	ボールゲームⅠ Ball GamesⅠ	日置佑輔	非常勤	50	2	前	火	2
	ボールゲームⅡ Ball GamesⅡ	日置佑輔	非常勤	50	2	後	火	1
	ボールゲームⅢ Ball GamesⅢ	伊藤寿浩	非常勤	30	2	前	月	3
		坂本太一	非常勤	30	2	前	月	3
		坂本太一	非常勤	30	2	前	月	4
	バスケットボールA Basketball A	小椋優作	非常勤	48	2	後	月	3
	バレーボールA Volleyball A	小栗和雄	非常勤	56	2	前	火	3
		小栗和雄	非常勤	56	2	前	火	4
サッカー Soccer	難波宏明	非常勤	30	2	後	火	3	
	難波宏明	非常勤	30	2	後	火	4	
ジョギングⅡ JoggingⅡ	篠田知之	非常勤	25	2	前	火	2	
	篠田知之	非常勤	25	2	後	火	2	
	中宗一郎	非常勤	25	2	前	月	3	
雪上スポーツで学ぶ(スキー) Winter season sports on the snow -Ski-	春日晃章 他	教育学部	50	2	後	集中		
剣道Ⅰ KendoⅠ	坂本太一	非常勤	20	2	後	月	4	
バランスボールエクササイズ Balance Ball Exercise	福田真衣子	非常勤	20	2	前	月	3	
	福田真衣子	非常勤	20	2	前	月	4	
太極拳 Tai-chi-chuan	藤澤哲郎	工学部	10	2	前	火	5	

英語科目

【目標】

これからの国際化社会において、英語は必須のツールとなります。「受験英語」から脱却し、自ら情報を取り込み、発信できるような、実用的な英語運用能力を身に付けることを目標とします。同時に専門教育での勉学に資する英語力をも養成していきます。

【カリキュラムの特徴】

学部等学科ごとにクラス分けし、また、学部等により履修時期が異なるなどの違いはありますが、全学で統一したカリキュラムで授業を実施します。

英語1では「話す」、英語2では「聞く」、英語3では「読む」、英語4では「書く」の4技能をそれぞれ重点的に伸ばしていきます。

英語部会

英語科目

《必修科目》

学部	科目名	クラス	担当教員	所属	単位	開講枠		
教育学部	英語1 English 1	L1E1	オフォード, アンドリユー	非常勤	1	前	月	1
	英語1 English 1	L1E2	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	前	月	1
	英語1 English 1	L1E3	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	前	月	1
	英語1 English 1	L1E4	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	前	月	1
	英語1 English 1	L1E5	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	前	月	2
	英語1 English 1	L1E6	仲 潔	教育学部	1	前	月	2
	英語1 English 1	L1E7	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	前	月	2
	英語1 English 1	L1E8	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	前	月	2
	英語2 English 2	L1E1	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	前	水	1
	英語2 English 2	L1E2	オフォード, アンドリユー	非常勤	1	前	水	1
	英語2 English 2	L1E3	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	前	水	1
	英語2 English 2	L1E4	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	前	水	1
	英語2 English 2	L1E5	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	前	水	1
	英語2 English 2	L1E6	飯田泰弘	教育学部	1	前	水	1
	英語2 English 2	L1E7	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	前	水	1
	英語2 English 2	L1E8	川崎 睦	非常勤	1	前	水	1
	英語3 English 3	L1E1	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	後	月	1
	英語3 English 3	L1E2	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	後	月	1
	英語3 English 3	L1E3	オフォード, アンドリユー	非常勤	1	後	月	1
	英語3 English 3	L1E4	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	後	月	1
	英語3 English 3	L1E5	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	後	月	2
	英語3 English 3	L1E6	巽 徹	教育学部	1	後	月	1
	英語3 English 3	L1E7	オフォード, アンドリユー	非常勤	1	後	月	2

学部	科目名	クラス	担当教員	所属	単位	開講枠		
教育学部	英語 3 English 3	L1E8	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	後	月	2
	英語 4 English 4	L1E1	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	後	水	1
	英語 4 English 4	L1E2	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	後	水	1
	英語 4 English 4	L1E3	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	後	水	1
	英語 4 English 4	L1E4	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	後	水	2
	英語 4 English 4	L1E5	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	後	水	2
	英語 4 English 4	L1E6	瀧沢広人	教育学部	1	後	水	2
	英語 4 English 4	L1E7	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	後	水	2
	英語 4 English 4	L1E8	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	後	水	2
地域科学部	英語 1 English 1	R1E1	キャシディ, パトリック	非常勤	1	前	火	1
	英語 1 English 1	R1E2	川崎 睦	非常勤	1	前	火	1
	英語 1 English 1	R1E3	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	前	火	1
	英語 1 English 1	R1E4	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	前	火	1
	英語 2 English 2	R1E1	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	前	水	2
	英語 2 English 2	R1E2	内田 勝	地域科学部	1	前	水	2
	英語 2 English 2	R1E3	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	前	水	2
	英語 2 English 2	R1E4	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	前	水	2
	英語 3 English 3	R1E1	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	後	月	1
	英語 3 English 3	R1E2	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	後	月	1
	英語 3 English 3	R1E3	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	後	月	1
	英語 3 English 3	R1E4	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	後	月	1
	英語 4 English 4	R1E1	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	後	水	1
	英語 4 English 4	R1E2	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	後	水	1
	英語 4 English 4	R1E3	牧 秀樹	地域科学部	1	後	水	1
英語 4 English 4	R1E4	川崎 睦	非常勤	1	後	水	1	
医学部 医学科	英語 1 English 1	M1E1	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	前	月	2
	英語 1 English 1	M1E2	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	前	月	2
	英語 1 English 1	M1E3	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	前	月	2
	英語 1 English 1	M1E4	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	前	月	2
	英語 2 English 2	M1E1	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	前	水	3
	英語 2 English 2	M1E2	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	前	水	3
	英語 2 English 2	M1E3	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	前	水	4
	英語 2 English 2	M1E4	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	前	水	4
	英語 3 English 3	M1E1	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	後	月	2
	英語 3 English 3	M1E2	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	後	月	2
	英語 3 English 3	M1E3	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	後	月	2
	英語 3 English 3	M1E4	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	後	月	2
	英語 4 English 4	M1E1	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	後	水	3

学部	科目名	クラス	担当教員	所属	単位	開講枠		
医学部 医学科	英語 4 English 4	M1E2	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	後	水	3
	英語 4 English 4	M1E3	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	後	水	4
	英語 4 English 4	M1E4	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	後	水	4
医学部 看護学科	英語 1 English 1	N1E1	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	前	月	2
	英語 1 English 1	N1E2	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	前	月	2
	英語 1 English 1	N1E3	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	前	月	2
	英語 2 English 2	N1E1	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	後	月	2
	英語 2 English 2	N1E2	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	後	月	2
	英語 2 English 2	N1E3	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	後	月	2
	英語 3 English 3	N2E1	2年次開講		1	前	水	1
	英語 3 English 3	N2E2	2年次開講		1	前	水	1
	英語 3 English 3	N2E3	2年次開講		1	前	水	1
	英語 4 English 4	N3E1	3年次開講		1	前	火	2
	英語 4 English 4	N3E2	3年次開講		1	前	火	2
	英語 4 English 4	N3E3	3年次開講		1	前	火	2
工学部	英語 1 English 1	T1E1	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E2	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E3	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E4	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E5	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E6	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E7	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E8	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	前	火	1
	英語 1 English 1	T1E9	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	前	火	2
	英語 1 English 1	T1E10	キャッシュディ, パトリック	非常勤	1	前	火	2
	英語 1 English 1	T1E11	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	前	火	2
	英語 1 English 1	T1E12	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	前	火	2
	英語 1 English 1	T1E13	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	前	火	2
	英語 1 English 1	T1E14	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	前	火	2
	英語 1 English 1	T1E15	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	前	火	2
	英語 1 English 1	T1E16	川崎 睦	非常勤	1	前	火	2
	英語 2 English 2	T1E1	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	後	火	2
	英語 2 English 2	T1E2	キャッシュディ, パトリック	非常勤	1	後	火	2
	英語 2 English 2	T1E3	川崎 睦	非常勤	1	後	火	2
	英語 2 English 2	T1E4	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	後	火	2
	英語 2 English 2	T1E5	川崎 睦	非常勤	1	後	火	1
英語 2 English 2	T1E6	キャッシュディ, パトリック	非常勤	1	後	火	1	
英語 2 English 2	T1E7	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	後	火	1	

学部	科目名	クラス	担当教員	所属	単位	開講枠		
						後	火	1
工 学 部	英語 2 English 2	T1E8	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E9	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E10	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E11	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E12	ファンヘトホフ, オノ	教育推進・学生支援機構	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E13	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E14	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E15	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	後	火	1
	英語 2 English 2	T1E16	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	後	火	1
	英語 3 English 3	T2E1	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E2	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E3	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E4	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E5	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E6	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E7	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E8	2年次開講		1	前	木	4
	英語 3 English 3	T2E9	2年次開講		1	前	木	5
	英語 3 English 3	T2E10	2年次開講		1	前	木	5
	英語 3 English 3	T2E11	2年次開講		1	前	木	5
	英語 3 English 3	T2E12	2年次開講		1	前	木	5
	英語 3 English 3	T2E13	2年次開講		1	前	木	5
	英語 3 English 3	T2E14	2年次開講		1	前	木	5
	英語 3 English 3	T2E15	2年次開講		1	前	木	5
	英語 3 English 3	T2E16	2年次開講		1	前	木	5
	英語 4 English 4	T2E1	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E2	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E3	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E4	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E5	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E6	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E7	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E8	2年次開講		1	後	木	5
	英語 4 English 4	T2E9	2年次開講		1	後	木	4
英語 4 English 4	T2E10	2年次開講		1	後	木	4	
英語 4 English 4	T2E11	2年次開講		1	後	木	4	
英語 4 English 4	T2E12	2年次開講		1	後	木	4	
英語 4 English 4	T2E13	2年次開講		1	後	木	4	
英語 4 English 4	T2E14	2年次開講		1	後	木	4	

学部	科目名	クラス	担当教員	所属	単位	開講枠		
工学部	英語 4 English 4	T 2 E15	2 年次開講		1	後	木	4
	英語 4 English 4	T 2 E16	2 年次開講		1	後	木	4
応用生物科学部	英語 1 English 1	A 1 E1	デビッドソン, ジョン	非常勤	1	前	水	2
	英語 1 English 1	A 1 E2	川崎 睦	非常勤	1	前	水	2
	英語 1 English 1	A 1 E3	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	前	水	2
	英語 1 English 1	A 1 E4	キャッシュディ, パトリック	非常勤	1	前	水	2
	英語 1 English 1	A 1 E5	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	前	水	2
	英語 1 English 1	A 1 E6	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	前	水	2
	英語 2 English 2	A 1 E1	クラブ, ジェフリー	非常勤	1	後	火	2
	英語 2 English 2	A 1 E2	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	後	火	2
	英語 2 English 2	A 1 E3	楊 瑛玲 (近藤インリン)	非常勤	1	後	火	2
	英語 2 English 2	A 1 E4	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	後	火	2
	英語 2 English 2	A 1 E5	マッキンソン, ジェームス	教育推進・学生支援機構	1	後	火	2
	英語 2 English 2	A 1 E6	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	後	火	2
	英語 3 English 3	A 1 E1	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	後	水	2
	英語 3 English 3	A 1 E2	キャッシュディ, パトリック	非常勤	1	後	水	1
	英語 3 English 3	A 1 E3	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	後	水	1
	英語 3 English 3	A 1 E4	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	後	水	2
	英語 3 English 3	A 1 E5	キャッシュディ, パトリック	非常勤	1	後	水	2
	英語 3 English 3	A 1 E6	オフォード, アンドリュー	非常勤	1	後	水	1
	英語 4 English 4	A 2 E1	2 年次開講		1	前	月	1
	英語 4 English 4	A 2 E2	2 年次開講		1	前	月	1
	英語 4 English 4	A 2 E3	2 年次開講		1	前	月	1
	英語 4 English 4	A 2 E4	2 年次開講		1	前	月	1
	英語 4 English 4	A 2 E5	2 年次開講		1	前	月	1
	英語 4 English 4	A 2 E6	2 年次開講		1	前	月	1
社会システム経営学環	英語 1 English 1	S 1 E1	シャーボーン, マイケル	非常勤	1	前	月	1
	英語 2 English 2	S 1 E1	ホング, ジョイ	教育推進・学生支援機構	1	前	水	1
	英語 3 English 3	S 1 E1	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	1	後	月	1
	英語 4 English 4	S 1 E1	川崎 睦	非常勤	1	後	水	2

《選択科目》

科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
English Advanced Reading 《上級》	スミス, ハンター	教育推進・学生支援機構	20	1	前	水	3
English Advanced Writing 《上級》	ガスリー, マーク	教育推進・学生支援機構	20	1	後	水	3
Studium Generale A 【連携】	ヴァシレヴァ, マリア	名古屋大学	50	2	後	金	5
Studium Generale B 【連携】	ヴァシレヴァ, マリア	名古屋大学	50	2	前	金	5
Summer Camp 【連携】	頼 偉寧 (ライ, ウェイリン)	名古屋大学	10	2	前	集中	
海外留学準備セミナー 【連携】 Study Abroad Preparation Seminar	未定	名古屋大学	5	2	前	集中	
			5	2	後	集中	

言語と文化科目

【目標】

私たちの日常生活は、すでに多様な文化背景を持つ人たちの存在が当たり前となっています。そのような時代にふさわしく、思考の象徴といえる「言語」およびその言語が話されている社会や文化について学んでいきます。英語圏以外の社会や文化を理解することで、世界を相対的にとらえ、多面的に考察する能力を涵養します。

【カリキュラムの特徴】

科目には、「言語と文化」（講義科目）と「第二外国語」（演習科目）があります。「言語と文化」は必修科目で、6つの外国語——ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮・韓国語、ポルトガル語、アイスランド語——から一つ選択し履修します（母語以外）。「第二外国語Ⅰ・Ⅱ」は、アイスランド語を除く5つの外国語が開講されており、語学の習得を希望する学生は自由選択科目として履修することができます。

言語と文化部会

言語と文化科目

分野	科目名	クラス	担当教員	所属	単位	開講枠		
言語と文化分野	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	L1G1・S1G1	伊藤 惟	非常勤	2	前	火	2
	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	R1G1	山村比鶴	非常勤	2	後	火	3
	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	M1G1・N1G1・A1G1	伊藤 惟	非常勤	2	前	火	1
	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	M1G2・N1G2・A1G2	フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	2	前	火	2
	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	M1G3・N1G3・A1G3	山村比鶴	非常勤	2	前	火	4
	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	T1G1	山村比鶴	非常勤	2	前	水	1
	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	T1G2	山村比鶴	非常勤	2	前	水	2
	言語と文化（ドイツ語） Language and Culture (German)	T1G3	フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	2	前	水	2
	言語と文化（フランス語） Language and Culture (French)	L1F1・S1F1	ゲラン, ジル	地域科学部	2	前	火	2
	言語と文化（フランス語） Language and Culture (French)	R1F1	長谷川暁人	教育推進・ 学生支援機構	2	後	火	3
	言語と文化（フランス語） Language and Culture (French)	M1F1・N1F1・A1F1	ゲラン, ジル	地域科学部	2	前	火	1
	言語と文化（フランス語） Language and Culture (French)	M1F2・N1F2・A1F2	長谷川暁人	教育推進・ 学生支援機構	2	前	火	2
	言語と文化（フランス語） Language and Culture (French)	T1F1	長谷川暁人	教育推進・ 学生支援機構	2	前	火	3
	言語と文化（フランス語） Language and Culture (French)	T1F2	ゲラン, ジル	地域科学部	2	前	水	2
	言語と文化（中国語） Language and Culture (Chinese)	L1C1・S1C1	熊谷暁子	非常勤	2	前	火	2

分野	科目名	クラス	担当教員	所属	単位	開講枠		
						前	火	2
言語と文化分野	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	L1C2・S1C2	齊藤正高	非常勤	2	前	火	2
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	L1C3・S1C3	寺澤知美	非常勤	2	前	火	2
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	R1C1	熊谷暁子	非常勤	2	後	火	2
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	M1C1・N1C1・A1C1	熊谷暁子	非常勤	2	前	火	1
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	M1C2・N1C2・A1C2	齊藤正高	非常勤	2	前	火	1
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	M1C3・N1C3・A1C3	寺澤知美	非常勤	2	前	火	1
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	M1C4・N1C4・A1C4	齊藤正高	非常勤	2	前	火	4
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	T1C1	呂 政慧	非常勤	2	前	水	1
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	T1C2	熊谷暁子	非常勤	2	前	水	1
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	T1C3	寺澤知美	非常勤	2	前	水	1
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	T1C4	呂 政慧	非常勤	2	前	水	2
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	T1C5	熊谷暁子	非常勤	2	前	水	2
	言語と文化 (中国語) Language and Culture (Chinese)	T1C6	寺澤知美	非常勤	2	前	水	2
	言語と文化 (ポルトガル語) Language and Culture (Portuguese)	L/R/M/N/A/S1・P1	瀧藤千恵美	非常勤	2	前	火	2
	言語と文化 (ポルトガル語) Language and Culture (Portuguese)	L/R/M/N/T/A/S1・P2	瀧藤千恵美	非常勤	2	前	火	3
	言語と文化 (朝鮮・韓国語) Language and Culture (Korean)	L/M/N/A/S1・K1	宮本桃子	非常勤	2	前	火	1
	言語と文化 (朝鮮・韓国語) Language and Culture (Korean)	L/R/M/N/A/S1・K2	宮本桃子	非常勤	2	前	火	2
	言語と文化 (朝鮮・韓国語) Language and Culture (Korean)	L/R/M/N/T/A/S1・K3	宮本桃子	非常勤	2	前	火	3
	言語と文化 (朝鮮・韓国語) Language and Culture (Korean)	L/R/M/N/T/A/S1・K4	宮本桃子	非常勤	2	前	火	4
	言語と文化 (アイスランド語) Language and Culture (Icelandic)	L/R/M/N/T/A/S1・I1	大宮康一	地域協学センター	2	後	火	3

分野	科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠	
						前	集中
言語と文化分野	短期海外研修 A【連携】 Contemporary Overseas Societis A	未定	名古屋大学	5	2	前	集中
	短期海外研修 A【連携】 Contemporary Overseas Societis A	未定	名古屋大学	5	2	前	集中
	短期海外研修 B【連携】 Contemporary Overseas Societis B	未定	名古屋大学	5	2	後	集中
	短期海外研修 B【連携】 Contemporary Overseas Societis B	未定	名古屋大学	5	2	後	集中
	短期海外研修 C【連携】 Contemporary Overseas Societis C	未定	名古屋大学	5	2	前	集中
	短期海外研修 D【連携】 Contemporary Overseas Societis D	未定	名古屋大学	5	2	後	集中
	短期海外研修 E【連携】 Contemporary Overseas Societis E	巽 洋子	名古屋大学	5	2	前	集中

分野	科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠	
言語と文化分野	短期海外研修 F【連携】 Contemporary Overseas Societis F	未定	名古屋大学	5	2	後	集中
	短期海外研修 F【連携】 Contemporary Overseas Societis F	巽 洋子	名古屋大学	5	2	後	集中

分野	科目名	クラス	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
第二外国語分野	ドイツ語Ⅰ GermanⅠ	R1G1	山村比鶴	非常勤	40	1	前	火	3
	ドイツ語Ⅰ GermanⅠ	R1G2 (外国人教員)	フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	20	1	前	火	3
	ドイツ語Ⅰ GermanⅠ		フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	20	1	後	月	3
	ドイツ語Ⅰ GermanⅠ		フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	20	1	後	月	4
	ドイツ語Ⅱ GermanⅡ	R1G1	洞澤 伸	地域科学部	40	1	前	水	1
	ドイツ語Ⅱ GermanⅡ	R1G2 (外国人教員)	フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	20	1	前	水	1
	ドイツ語Ⅱ GermanⅡ		フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	20	1	後	火	1
	ドイツ語Ⅱ GermanⅡ		フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ	地域科学部	20	1	後	水	2
	フランス語Ⅰ FrenchⅠ	R1F1	ゲラン,ジル	地域科学部	40	1	前	火	3
	フランス語Ⅰ FrenchⅠ		ゲラン,ジル	地域科学部	40	1	後	月水	3 2
	フランス語Ⅰ FrenchⅠ		ゲラン,ジル	地域科学部	40	1	後	月火	4 1
	フランス語Ⅱ FrenchⅡ	R1F1	ゲラン,ジル	地域科学部	40	1	前	水	1
	フランス語Ⅱ FrenchⅡ		ゲラン,ジル	地域科学部	40	1	後	月水	3 2
	フランス語Ⅱ FrenchⅡ		ゲラン,ジル	地域科学部	40	1	後	月火	4 1
	中国語Ⅰ ChineseⅠ	R1C1	齊藤正高	非常勤	40	1	前	月	2
	中国語Ⅰ ChineseⅠ	R1C2	橋本永貞子	地域科学部	40	1	前	月	2
	中国語Ⅰ ChineseⅠ		熊谷暁子	非常勤	40	1	後	火	1
	中国語Ⅰ ChineseⅠ		魏 永芬	高等研究院	40	1	後	月	3
	中国語Ⅱ ChineseⅡ	R1C1	齊藤正高	非常勤	40	1	前	火	3
	中国語Ⅱ ChineseⅡ	R1C2	魏 晨	地域科学部	40	1	前	火	2
	中国語Ⅱ ChineseⅡ		寺澤知美	非常勤	40	1	後	水	1
	中国語Ⅱ ChineseⅡ		寺澤知美	非常勤	40	1	後	水	2
	ポルトガル語Ⅰ PortugueseⅠ		瀧藤千恵美	非常勤	40	1	後	火	3
	ポルトガル語Ⅱ PortugueseⅡ		瀧藤千恵美	非常勤	40	1	後	火	4
	朝鮮・韓国語Ⅰ KoreanⅠ		宮本桃子	非常勤	40	1	後	火	3 4
	朝鮮・韓国語Ⅱ KoreanⅡ		宮本桃子	非常勤	40	1	後	火	3 4

●…前半授業 (1～8週目)

■…後半授業 (9～16週目)

社会人リテラシー科目

【目標】

岐阜大学の学生として、大学での学習や研究活動において必要な日本語力の向上を図り、場面や状況に応じた適切なコミュニケーションにより良好な人間関係を築き、大学生活の充実を図れる態度を養います。また、先輩社会人の体験談を視聴することで、実りある学生生活の設計や就職活動の進め方、卒業後のキャリア形成などのヒントが得られることを目指しています。

【カリキュラムの特徴】

社会人リテラシー科目は、オンデマンド型の授業で、通年開講しています。

「日本語表現Ⅰ（初級）」は、必修1単位の授業です。適切な日本語でレポートや論文が執筆でき、よりよいコミュニケーションが図れる力を身に付けることができます。「日本語表現Ⅱ（中級）」は、令和7年度から2年生以上に開講する選択1単位の授業です。初級編の内容を深めつつ、社会人として実務に必要なスキルやコミュニケーション力の向上を図ることができます。

「先輩社会人に学ぶ—実りある学生生活を送るために—」も選択1単位の授業です。岐阜大学を卒業し社会で活躍する先輩社会人のみなさんに、学生生活の過ごし方や就職活動の進め方、そして働く中での失敗体験（しくじり体験）を語ってもらいます。先輩の経験を踏まえて自分の学生生活を振り返り、今後の学生生活をどのように過ごしていくのかをより具体的に考えていきます。

社会人リテラシー部会

社会人リテラシー科目

《必修科目》

科目名	担当教員	所属	単位	開講枠	
日本語表現Ⅰ（初級） Japanese Expression Studies I	清島絵利子	教育推進・学生支援機構	1	前	集中 (オンデマンド)
			1	後	集中 (オンデマンド)

《選択科目》

科目名	担当教員	所属	単位	開講枠	
日本語表現Ⅱ（中級） Japanese Expression Studies II	清島絵利子	教育推進・学生支援機構	1	前	集中 (オンデマンド)
			1	後	集中 (オンデマンド)
先輩社会人に学ぶ： 実りある学生生活を送るために Learning from the Experiences of Graduates to enrich university life	白村直也	教育推進・学生支援機構	1	前	集中 (オンデマンド)
			1	後	集中 (オンデマンド)

数理・データサイエンス・AI科目

【目標】

インターネットなどの情報通信技術の飛躍的發展によってもたらされたビッグデータは、人工知能（AI）技術の発展と相まって、自動運転、画像認識、医療診断、防犯、コンピュータゲームなど、従来の社会システムの在り方を大きく変えつつあります。近年は、各国の巨大企業等を中心としてビッグデータやAIを利活用することによりデータから価値を生み出す産業構造にシフトし、その競争が激化しています。そこで日本政府は、全国民がデータサイエンスに関するリテラシーを高め、デジタル社会の基礎知識である「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能などを修得し、不安なく自らの意思でAIの恩恵を享受・活用することを目指す戦略目標を立てました。

本科目群はその一環として開講され、社会のあらゆる分野で人材が活躍するために文理を問わず最低限必要とされる初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得することが目標です。

【カリキュラムの特徴】

上記目標を達成するため、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）に準拠し、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成できるようにカリキュラムを設計しています。

「データ科学基礎」、「データ科学基礎演習A」及び「データ科学基礎演習B」はオンデマンド型の授業とし、名古屋大学で開講されている同名授業の教材を共通で利用します。

「データサイエンス入門」は、上記オンデマンド授業では学びにくいことを対面授業で学びます。

数理・データサイエンス・AI部会

数理・データサイエンス・AI科目

科目名	担当教員	所属	単位	開講枠		
データ科学基礎 Introduction to Data Science	神酒太郎 他	教育推進・学生支援機構	1	前	集中 (オンデマンド)	
データ科学基礎演習A Data Science Exercise A	福岡大輔 他	教育学部	1	前	集中 (オンデマンド)	
			1	後	集中 (オンデマンド)	
データ科学基礎演習B Data Science Exercise B	鈴木 優 他	工学部	1	前	集中 (オンデマンド)	
			1	後	集中 (オンデマンド)	

科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠		
データサイエンス入門 Introduction to Data Science	奥岡桂次郎	社会システム経営学環	120	2	前	火	3
			120	2	後	火	4

日本語科目及び日本事情に関する科目

【目標】

日本語科目は、学部の専門科目を受講するために必要な日本語力を身に付けること、日本事情科目は、留学生が日本で勉学する基盤となる「日本事情」を理解することを目標としています。

【カリキュラムの特徴】

日本語の授業は、実際の作文を教材化した「作文クリニック」を行ったり、グループ活動を行ったりするなど、さまざまな工夫をしています。各回の授業は密接に関連しているので、毎週出席することによって、日本語力が向上します。また、頻繁に課題を出しますので、確実にそれをこなすことも必要です。

日本事情の授業は、少人数でディスカッションを行います。なかには、日本人学生と合同の授業もあります。積極的な授業参加によって、内容の理解が深まります。なお、日本語科目は、2単位まで、言語文化の第二外国語（演習）科目の1つに振り替えることができます。日本事情科目は、6単位まで、人文科学、社会科学、岐阜学または言語文化（講義）科目の単位に振り替えることができます。

日本語・日本事情部会

日本語科目及び日本事情

分野	科目名	担当教員	所属	定員	単位	開講枠
日本語分野	日本語 D I - 文章表現 - Advanced Japanese DI	土谷桃子	日本語・日本文化 教育センター	留学生のみ	1	令和7年度非開講
	日本語 D II - 文章表現 - Advanced Japanese DII	土谷桃子			1	後 月 3
日本事情分野	日本事情 A I Japanese circumstances AI	土谷桃子			2	前 月 3
	日本事情 A II Japanese circumstances AII	未定			2	令和7年度非開講
	日本事情 C I Japanese circumstances CI	橋本慎吾			2	前 火 2
					2	後 火 2
	日本事情 C II Japanese circumstances CII	未定			2	令和7年度非開講

次世代地域リーダー育成プログラム 概要（2025年度版）

次世代地域リーダー育成プログラム概要 (2025年度版)

〈目的〉

「次世代地域リーダー育成プログラム」は、「地域を知り」、「地域の課題を見つけ」、「地域の課題解決に向けて行動する」能力、すなわち、「地域リテラシー」を備え、自身の専門的能力をより実践的に応用することにより、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材、並びにリーダーを支援する人材である「次世代地域リーダー」を育成することを目的とするプログラムである。

学生は、地域について学び、地域における体験や地域との交流を深め、地域の課題解決に参画する中で、地域の現状の把握や地域の課題解決に貢献できる知識・理解・意欲・能力など、社会に出てから役立つ実践力を習得する。当プログラムは、初級段階と上級段階に分かれる。初級段階では、地域で専門的能力を実践的に応用して活動するために、基盤的能力における「進める力」、「伝える力」、「考える力」の基礎的な素養や能力を身につけることを目指す。上級段階では、地域社会を活動の場とし、基盤的能力を活かして、より実践的に専門的能力を応用するための実行力を身につけることを目指す。

〈コース編成〉

当プログラムは、地域の課題等の解決のためリーダーシップを発揮し活躍できる人材を育成する「地域リーダーコース」と、地域産業の担い手としてリーダーシップを発揮し活躍できる人材を育成する「産業リーダーコース」、地域の教育現場でリーダーシップを発揮し活躍できる人材を育成する「教育リーダーコース」、地域社会の環境問題においてリーダーシップを発揮し取り組むことができる人材を育成する「環境リーダーコース」、地域の国際的な多様性に伴う諸課題の発見、企画、実行力を備えたリーダーシップを発揮できる人材を育成する「グローバルリーダーコース」の5つで構成されている。いずれのコースも初級段階と上級段階に分かれており、地域や産業界、教育現場の現状の把握及び課題解決に貢献できる知識・能力を修得できるカリキュラムで構成されている。

〈地域リーダーコースの構成〉

当コースは、地域の現状の把握及び地域の課題解決に貢献できることを目指し、理解・意欲を高めるとともに必要な知識・能力を修得できるカリキュラムで構成されている。

初級段階は A. 「地域志向科目群」、B. 「地域活動科目群」、C. 「地域実践科目群」の科目群で構成されている。上級段階に進むためにはこれらの3科目群から所定の単位（合計8単位以上）を修得することが求められる。なお、岐阜大学の卒業要件として、A. 「地域志向科目群」から2単位の修得が選択必修（平成27年度以降の入学生対象）となっている。また、B. 「地域活動科目群」又は C. 「地域実践科目群」の単位を修得し、地域活動をコーディネートするための基本的な知識と技能を有すると認められた者に対し、「学生コーディネーター」の称号が授与される。

上級段階は D. 「次世代地域リーダー育成科目群」で構成されており、当コースを修了するためには、この科目群から所定の単位（合計4単位）を修得することが求められる。なお、上級段階の4単位を修得した学生は、地域リーダーコース（上級段階）修了者と認定され、あわせて修了証が交付される。

地域リーダーコースの上級段階を修了し、岐阜大学・地域協学センターまたは学部との協働活動等を30時間以上行い、一定の実績を上げた者は「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与される。

〈産業リーダーコースの構成〉

当コースは、地域産業の現状の把握及び地域産業の課題解決に貢献できることを目指し、理解・意欲を高めるとともに必要な知識・能力を修得できるカリキュラムで構成されている。

初級段階は A. 「地域志向科目群」、C. 「地域実践科目群」の科目群で構成されている。上級段階に進むためにはこ

これらの2科目群から地域協学センター長が指定する科目（別表の科目一覧参照のこと）を含む所定の単位（合計8単位以上）を修得することが求められる。なお、岐阜大学の卒業要件として、A.「地域志向科目群」から2単位の修得が選択必修（平成27年度以降の入学生対象）となっている。また、C.「地域実践科目群」の単位を修得し、地域活動をコーディネートするための基本的な知識と技能を有すると認められた者に対し、「学生コーディネーター」の称号が授与される。

上級段階はE.「次世代産業リーダー育成科目群」で構成されており、当コースを修了するためには、この科目群から所定の単位（合計2単位）を修得することと、あわせて、ぎふCOC+事業推進コンソーシアム参加大学共通プログラム（サマースクール、企業見学会、企業向け成果発表会）への参加が求められる。これらを満たした学生は、産業リーダーコース（上級段階）修了者と認定され、あわせて修了証が交付される。

産業リーダーコースの上級段階を修了し、岐阜大学・地域協学センターまたは学部等との協働活動等を30時間以上行い、一定の実績を上げた者は、「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与される。

〈教育リーダーコースの構成〉

当コースは、地域の現状や課題を把握し地域の教育現場で活躍し貢献できることを目指し、理解・意欲を高めるとともに必要な知識・能力を修得できるカリキュラムで構成されている。

初級段階はA.「地域志向科目群」、B.「地域活動科目群」、C.「地域実践科目群」の科目群で構成されている。上級段階に進むためにはこれらの3科目群から所定の単位（合計8単位以上）を修得することが求められる。なお、岐阜大学の卒業要件として、A.「地域志向科目群」から2単位の修得が選択必修（平成27年度以降の入学生対象）となっている。また、B.「地域活動科目群」又はC.「地域実践科目群」の単位を修得し、地域活動をコーディネートするための基本的な知識と技能を有すると認められた者に対し、「学生コーディネーター」の称号が授与される。

上級段階はF.「次世代教育リーダー育成科目群」で構成されており、当コースを修了するためには、この科目群から所定の単位（合計4単位）を修得することが求められる。なお、上級段階の4単位を修得した学生は、教育リーダーコース（上級段階）修了者と認定され、あわせて修了証が交付される。

教育リーダーコースの上級段階を修了し、岐阜大学・地域協学センターまたは学部等との協働活動等を30時間以上行い、一定の実績を上げた者は「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与される。

〈環境リーダーコースの構成〉

当コースは、様々な分野からみた環境問題を学びながら、自ら主体的に環境問題に取り組み地域社会に貢献できることを目指し、理解・意欲を高めるとともに必要な知識・能力を修得できるカリキュラムで構成されている。

初級段階はA.「地域志向科目群」、B.「地域活動科目群」、C.「地域実践科目群」の科目群で構成されている。上級段階に進むためには、地域志向科目群または地域活動科目群から地域協学センター長が指定する選択必修科目2単位以上（別表の科目一覧参照のこと）を修得するとともに、当コースに位置付けられた地域志向科目群かつ、地域活動科目群または、地域実践科目群から計8単位以上を修得することが求められる。

なお、岐阜大学の卒業要件として、A.「地域志向科目群」から2単位の修得が選択必修（平成27年度以降の入学生対象）となっている。また、B.「地域活動科目群」又はC.「地域実践科目群」の単位を修得し、地域活動をコーディネートするための基本的な知識と技能を有すると認められた者に対し、「学生コーディネーター」の称号が授与される。

上級段階はG.「次世代環境リーダー育成科目群」で構成されており、当コースを修了するためには、この科目群から所定の単位（合計4単位）を修得することが求められる。なお、上級段階の4単位を修得した学生は、環境リーダーコース（上級段階）修了者と認定され、あわせて修了証が交付される。

環境リーダーコースの上級段階を修了し、岐阜大学・地域協学センターまたは学部等との協働活動等を30時間以上行い、一定の実績を上げた者は「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与される。

〈グローバルリーダーコースの構成〉

当コースは、地域に根差した国際化を進めるにあたる諸問題の解決に貢献できることを目指し、理解・意欲を高めるとともに必要な知識・能力を修得できるカリキュラムで構成されている。

初級段階はA.「地域志向科目群」、B.「地域活動科目群」、C.「地域実践科目群」の科目群で構成されている。上級段

階に進むためにはこれら3科目群から地域協学センター長が指定する科目（別表の科目一覧参照のこと）を含む所定の単位（合計8単位以上）を修得することが求められる。なお、岐阜大学の卒業要件として、A.「地域志向科目群」から2単位の修得が選択必修（平成27年度以降の入学生対象）となっている。また、B.「地域活動科目群」又はC.「地域実践科目群」の単位を修得し、地域活動をコーディネートするための基本的な知識と技能を有すると認められた者に対し、「学生コーディネーター」の称号が授与される。

上級段階はH.「次世代グローバルリーダー育成科目群」で構成されており、当コースを修了するためには、この科目群から所定の単位（合計4単位）を修得することが求められる。なお、上級段階の4単位を修得した学生は、グローバルリーダーコース（上級段階）修了者と認定され、あわせて修了証が交付される。

グローバルリーダーコースの上級段階を修了し、岐阜大学・地域協学センターまたはグローバル推進機構、学部等との協働活動等を30時間以上行い、一定の実績を上げた者は「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与される。

〈初級段階〉

A.「地域志向科目群」（2単位必修（平成27年度以降の入学生対象））（別表参照）

全学共通教育科目及び学部開講科目から構成されており、「地域」（主に岐阜）の歴史・文化・自然・民俗・産業・経済・福祉・教育等多面的に渡って「地域」を学修し、「地域を知り」、地域に関する関心や知識・理解・意欲を高めるとともに、「地域の課題」を認識する。

B.「地域活動科目群」（別表参照）

全学共通教育科目及び学部開講科目から構成されており、学外の様々なボランティア活動や地域活動に参加し、地域の人びとと共に活動することを通して、実践的な生きた知識や技能を学ぶとともに、その過程において豊かな人間性や社会性を身に付け、「地域の課題を見つけ」、析出・明確化する力量及び「地域の課題解決に向けて行動する」能力を習得する。

C.「地域実践科目群」（別表参照）

全学共通教育科目及び学部開講科目から構成されており、地域の企業・団体などにおいてインターンシップ活動を行う。地域活性化の活動や地場産業の活性化の現場で、活性化プロジェクトの企画・運営やマーケティングリサーチ、広報プロモーション等に携わり、「地域の課題を見つけ」、その解決に向けて学生自身がプロジェクトとして取り組むことを通して、「地域の課題解決に向けて行動する」能力を習得する。

〈上級段階〉

D.「次世代地域リーダー育成科目群」（別表参照）

全学共通教育科目及び学部開講科目から構成されており、実際の地域の課題解決等に向けて実践することを通して、次世代地域リーダーに必要な素養や能力を養うとともに、将来においても、地域の課題解決等のための行動を実行できる人材となることを目指す。

【履修条件】

A.「地域志向科目群」かつ、B.「地域活動科目群」またはC.「地域実践科目群」の1単位以上を含む8単位以上を修得していること。

例1：地域志向科目群を 6単位 + 地域活動科目群を 2単位 = 8単位

例2：地域志向科目群を 6単位 + 地域実践科目群を 2単位 = 8単位

例3：地域志向科目群を 4単位 + 地域活動科目群を 2単位 + 地域実践科目群を 2単位 = 8単位

E.「次世代産業リーダー育成科目群」（別表参照）

全学共通教育科目及び学部開講科目から構成されており、実際の地域産業の課題解決等に向けて実践することを通して、次世代地域リーダーに必要な素養や能力を養うとともに、将来においても、地域産業の担い手として課題解決等のための行動を実行できる人材となることを目指す。

【履修条件】

A. 「地域志向科目群」のうち地域協学センター長が指定する4単位（別表参照）を含む6単位以上と、C. 「地域実践科目群」のうち地域協学センター長が指定する2単位（別表参照）を履修していること。

例：センター長指定の地域志向科目群 4単位 + 指定科目以外の地域志向科目群 2単位 + センター長指定の地域実践科目群 2単位 = 8単位

F. 「次世代教育リーダー育成科目群」（別表参照）

教育学部の専門科目から構成されており、実際の地域の教育現場の課題解決等に向けて実践することを通して、次世代地域リーダーに必要な素養や能力を養うとともに、将来において、地域の教育現場でリーダーシップを発揮し、行動できる人材となることを目指す。

【履修条件】

A. 「地域志向科目群」及び、B. 「地域活動科目群」またはC. 「地域実践科目群」の1単位以上を含む8単位以上（別表参照）を修得していること。

例1：地域志向科目群を 6単位 + 地域活動科目群を 2単位 = 8単位

例2：地域志向科目群を 6単位 + 地域実践科目群を 2単位 = 8単位

例3：地域志向科目群を 4単位 + 地域活動科目群を 2単位 + 地域実践科目群を 2単位 = 8単位

G. 「次世代環境リーダー育成科目群」（別表参照）

全学共通教育科目から構成されており、地域社会における環境問題に対する取組みを実践することを通して、次世代地域リーダーに必要な素養や能力を養うとともに、将来においても自ら主体的に環境問題に取り組むリーダーシップを発揮できる人材となることを目指す。

【履修条件】

A. 「地域志向科目群」またはB. 「地域活動科目群」のうち地域協学センター長が指定する選択必修科目2単位以上（別表参照）を修得するとともに、当コースに位置付けられた地域志向科目群かつ、地域活動科目群または、地域実践科目群から計8単位以上（別表参照）を修得すること。

例1：選択必修の地域志向科目群 2単位 + 選択必修の地域活動科目群 2単位 + 指定科目以外の地域志向科目群 4単位 = 計8単位

例2：選択必修の地域志向科目群 2単位 + 指定科目以外の地域志向科目群 4単位 + 指定科目以外の地域活動科目群 2単位 = 計8単位

例3：選択必修の地域活動科目群 2単位 + 指定科目以外の地域志向科目群 4単位 + 指定科目以外の地域実践科目群 2単位 = 計8単位

例4：選択必修の地域志向科目群 4単位 + 指定科目以外の地域活動科目群 2単位 + 指定科目以外の地域実践科目群 2単位 = 計8単位

H. 「次世代グローバルリーダー育成科目群」（別表参照）

全学共通教育科目及び学部開講科目から構成されており、実際の地域の課題解決等に向けて実践することを通して、次世代地域リーダーに必要な素養や能力を養うとともに、将来においても、地域の課題解決等のための行動を実行できる人材となることを目指す。

【履修条件】

A. 「地域志向科目群」のうち地域協学センター長が指定する科目 2単位以上（別表参照）とあわせて、「地域志向科目群」及び、B. 「地域活動科目群」またはC. 「地域実践科目群」のうち 1単位以上 を含む 合計8単位以上（別表参照）を修得していること。

例1：地域志向科目群を 6単位（指定科目：4単位 + 指定以外：2単位） + 地域活動科目群を 2単位 = 8単位

例2：地域志向科目群を 6単位（指定科目：2単位 + 指定以外：4単位） + 地域実践科目群を 2単位 = 8単位

〈称号授与〉

いずれかのコース（上級段階）を修了し、岐阜大学・地域協学センターまたは学部との協働活動等を30時間以上行い、かつレポート・面接審査を経て、一定の実績を上げた者に「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与される。

〈履修申請の方法〉

各科目群における履修申請は、当該授業科目の開講部局（全学共通教育事務室または各学部等）の申請手続きに従うこと。

〈登録手続き〉

地域リーダーコース、産業リーダーコース、教育リーダーコース、環境リーダーコース及びグローバルリーダーコースの上級段階を目指す者は、別途、地域協学センターでの登録が必要となる。登録は原則、4月及び10月とするが、希望に応じて随時申し込むことができる。

〈問い合わせ窓口〉

岐阜大学地域協学センター メール：ccsc@t.gifu-u.ac.jp 電話：058-293-3880

2025年度次世代地域リーダー育成プログラム開講科目一覧

2025年度 地域志向科目群（初級段階）

受講対象（他学部生の取扱い）
○ 全学生対象
△ 他学部生は人数等の制限有
× 他学部生は受講不可

区分欄の※1は、地域協学センター長が指定する産業リーダーコースの授業科目
 区分欄の※2は、地域協学センター長が指定する環境リーダーコースの授業科目
 区分欄の※3は、地域協学センター長が指定するグローバルリーダーコースの授業科目

2025年度 地域志向科目群（初級段階）

No.	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考		
1	全学共通	前期		世界近現代史（アメリカ概論）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
2				外国文学（朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
3				外国文学（英米文学を読む）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
4				言語学入門（一緒に学ばまい！岐阜の方言と南欧の言語）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
5				言語学（北欧のことばと地域の方言）	○	連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目		
6				言語学（映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
7				西洋文化論（ロシア人の生活と言語）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
8				日本文化論（日本語文化論：国語教育史）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
9				現代文化論（科学技術と人間社会）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
10				異文化論（リトアニア学）	○	連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目		
11				平和学（国際平和学）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
12				岐阜にまつわる東洋史	○	連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目		
13				現代社会論（少子高齢化社会）	○			
14				※2 教養の環境学（里山と水辺の環境学）	○			
15				現代環境学（世界の食料と人口問題）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
16				自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	○			
17				自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	○			
18				※2 地域と環境 SDGs	○	連携開設科目		
19				現代社会と学習・教育（生涯学習概論Ⅰ）	○			
20				生涯学習概論Ⅱ	○			
21				社会教育経営論	○	集中		
22				学校と家庭・地域の連携	○			
23				教育社会システム論（教育社会学）	○	集中		
24				岐阜大学の教育研究と運営	○			
25				まちづくりリーダー入門	○	連携開設科目		
26				岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	○	グローバルリーダーコース対象科目		
27				※1 岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	○	グローバルリーダーコース対象科目		
28				※1 地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	○	グローバルリーダーコース対象科目		
29				地域防災リーダー基礎	○	集中		
30				※2 岐阜県の環境教育と科学・技術	○	連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目		
31				※1 自分らしいキャリア設計Ⅰ	○			
32				フューチャーセンター入門	○			
33				アントレプレナーシップ入門	○	連携開設科目		
34				古今のものづくり	○	連携開設科目		
35				※3 グローカリゼーションと異文化理解	○	グローバルリーダーコース対象科目		
36				現代社会問題と社会教育	○			
37				後期		中国・朝鮮半島史（朝鮮・韓国の文化と日本との交流史）	○	グローバルリーダーコース対象科目
38						中国・朝鮮半島史（中国史）	○	連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目
39						外国文学（英米文学を読む）	○	グローバルリーダーコース対象科目
40						外国文学（三国志時代の文学）	○	グローバルリーダーコース対象科目
41						外国文学（西洋文学論）	○	グローバルリーダーコース対象科目
42						外国文学（ロシア革命と文学）	○	グローバルリーダーコース対象科目
43						西洋文化論（西洋建築史）	○	グローバルリーダーコース対象科目
44						西洋文化論（ロシアの自然と言語）	○	グローバルリーダーコース対象科目
45						現代文化論（現代の文化研究）	○	グローバルリーダーコース対象科目
46						異文化論（社会の中の言語・言語の中の社会）	○	グローバルリーダーコース対象科目
47						※3 異文化論（グローバル人材としての諸外国理解）	○	グローバルリーダーコース対象科目
48						現代政治論（日本の政治と世界）	○	グローバルリーダーコース対象科目
49						現代社会論（社会の基盤）	○	連携開設科目

50	全学共通	後期	メディア論（国際メディア論）	○	グローバルリーダーコース対象科目
51			現代環境学（世界の農業事情）	○	グローバルリーダーコース対象科目
52			※2 地域と環境 SDGs	○	連携開設科目
53			畜産・水産業の歴史と食文化	○	グローバルリーダーコース対象科目
54			世界の食文化	○	グローバルリーダーコース対象科目
55			人権と社会教育	○	グローバルリーダーコース対象科目
56			社会教育施設・支援者論	○	
57			社会教育課題研究（学習プログラム開発論）	○	
58			岐阜県の生物の分布と生態	○	
59			フューチャーセンター入門	○	
60			地域防災リーダー基礎	○	集中
61			※1 自己省察と将来のキャリア設計	○	
62			※1 自分らしいキャリア設計 I	○	
63			古今のものづくり	○	
64			※2 持続可能な地域と環境リテラシー	○	集中 連携開設科目
65			ヘルスプロモーションと地域保健	○	
66	社会教育の意義と展開	○			
67	教育学部	前期	教職リサーチ I	×	
68			教職リサーチ II	×	
69	後期	地球科学野外実習	×		
70		野外運動（キャンプ）	×	1単位	
71	地域科学部	前期	地域研究入門	×	
72			地域産業論	△	定員を超えた場合は抽選
73			行政法	○	
74			化学実験	×	グローバルリーダーコース対象科目
75			日本経済論	×	グローバルリーダーコース対象科目
76			言語学概論	×	グローバルリーダーコース対象科目
77		後期	地域経済論	○	
78			地方行政論	×	
79			環境法	○	
80			物理学 I	×	グローバルリーダーコース対象科目
81			憲法	×	グローバルリーダーコース対象科目
82			哲学	×	グローバルリーダーコース対象科目
83			近・現代思想論	×	グローバルリーダーコース対象科目
84			アメリカ文化論	×	グローバルリーダーコース対象科目
85	文化人類学	×	グローバルリーダーコース対象科目		
86	医学部(医学科)	後期	医療キャリア形成学実習	×	0.5単位
87			地域・産業保健	×	
88	工学部	前期	土木史	△	希望者過多の場合は、受講者数を制限する
89			都市・交通計画	△	希望者過多の場合は、受講者数を制限する
90		※1 技術表現法	△	他学部生は1クラス5名以内	
91	後期	社会基盤デザイン	×	社会基盤工学科生のみ受講可	
92	応用生物科学部	前期	応用生命化学概論	△	教室の収容人員の関係で受講者数を制限する
93			地球・生命・ヒト・人	△	教室の収容人員の関係で受講者数を制限する
94		かたちと分類の科学	△	教室の収容人員の関係で受講者数を制限する	
95		後期	野生動物医学	△	教室の収容人員の関係で受講者数を制限する
96		風土保全プログラム I	×	グローバルリーダーコース対象科目	
97	社会システム 経営学環	前期	社会システム経営入門	×	グローバルリーダーコース対象科目
98			行政法	×	
99			コミュニケーションデザイン論	×	グローバルリーダーコース対象科目
100			企業論	×	グローバルリーダーコース対象科目
101			デザイン思考論	×	グローバルリーダーコース対象科目
102		後期	経営組織論	×	グローバルリーダーコース対象科目
103			デザイン思考基礎	×	グローバルリーダーコース対象科目
104			プロジェクトマネジメント論	×	グローバルリーダーコース対象科目
105			地域デザイン論	×	グローバルリーダーコース対象科目
106			景観デザイン	○	グローバルリーダーコース対象科目
107		プロジェクトマネジメント基礎	×	グローバルリーダーコース対象科目	

2025年度 地域活動科目群（初級段階）

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	全学共通	前期		現代社会とボランティア・地域活動	○	グローバルリーダーコース対象科目
2			※2	人と自然との関わりから見た岐阜	○	グローバルリーダーコース対象科目
3			※2	教養の宇宙地球科学（ESD 入門）	○	
4				学習者の特性と支援方法	○	
5				社会教育における地域ネットワーク形成	○	グローバルリーダーコース対象科目
6				地域共創セミナー（サマースクール）	○	1単位 集中 グローバルリーダーコース対象科目
7			※2	世界農業遺産入門	○	2025年度新規開講 集中 連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目
8		後期		現代社会とボランティア・地域活動	○	グローバルリーダーコース対象科目
9				まちづくりリーダー実践	○	集中 連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目
10			※2	人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	○	グローバルリーダーコース対象科目
11			※2	キャンパス緑地で学ぶグリーンインフラ入門	○	2025年度新規開講
12			※2	現代環境学（ESD 実践研究）	○	
13			※2	野外活動実習	○	1単位 集中 連携開設科目
14				社会教育実習	○	1単位 集中
15			生涯学習成果の還元とボランティア活動	○	集中	
16	地域科学部	前期		社会活動演習	×	1単位、1年生対象
17				地域創生論	×	2・3年生対象 隔年開講 グローバルリーダーコース対象科目
18	応用生物科学部	後期		風土保全教育プログラムⅡ	×	定員30名
19	社会システム経営学環	後期		社会システム経営実践	×	グローバルリーダーコース対象科目

2025年度 地域実践科目群（初級段階）

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	全学共通	前期	※1	地域系協学実習（職場体験）Ⅰ	○	1単位 連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目
2			※1	産業系協学実習（職場体験）Ⅰ	○	1単位 連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目
3		後期	※1	地域福祉をめぐる課題解決型実習	○	グローバルリーダーコース対象科目
4			※1	地域系協学実習（職場体験）Ⅱ	○	1単位 連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目
5			※1	産業系協学実習（職場体験）Ⅱ	○	1単位 連携開設科目 グローバルリーダーコース対象科目
6	教育学部	前期		教職論（教職トライアル）	×	
7				教職インターン	×	グローバルリーダーコース対象科目
8		後期		教職インターン	×	グローバルリーダーコース対象科目
9	社会システム経営学環	前期		マネジメント活動実習（企業編）（フィールドワーク入門）	×	グローバルリーダーコース対象科目
		—		マネジメント活動実習（観光・まちづくり編）（フィールドワーク入門）	×	1年後期から2年前期まで通して実施 グローバルリーダーコース対象科目

2025年度 名古屋大学開講科目

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	名古屋大学	春		マネージメント論（PBL マーケティング）【連携】	○	地域志向科目群 2単位 春学期集中 定員5名 3年次以上対象
2			※2	マネージメント論（めざせソーシャルビジネス起業）【連携】	○	地域活動科目群 2単位 春学期・金2限 定員4名 3年次以上対象
3			※2	地域論（環境学入門）【連携】	○	地域志向科目群 2単位 春学期・金2限 定員10名

2025年度 次世代地域リーダー育成科目群（上級段階）

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	全学共通	前期		地域リーダー実践（上級）Ⅰ	○	定員30名、同年度内に「地域リーダー実践（上級）Ⅱ」を履修すること
2		後期		地域リーダー実践（上級）Ⅱ	○	定員30名、同年度内に「地域リーダー実践（上級）Ⅰ」を履修すること
3	地域科学部	前期		地域学実習	×	3年生対象
4		後期		専門セミナー（3年次後学期）	×	3年生対象

2025年度 次世代産業リーダー育成科目群（上級段階）

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	全学共通	前期		産業リーダー実践	○	
2		後期		産業リーダー実践	○	
3	工学部	前期		機械工学応用演習	×	1単位
4				知能機械工学演習	×	1単位
5		後期		機械工学創造演習	×	1単位

2025年度 次世代教育リーダー育成科目群（上級段階）

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	教育学部	前期		教育リーダー実践Ⅰ	×	
2		後期		教育リーダー実践Ⅱ	×	

2025年度 次世代環境リーダー育成科目群（上級段階）

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	全学共通	前期		環境リーダー実践（上級）Ⅰ	○	
2		後期		環境リーダー実践（上級）Ⅱ	○	

2025年度 次世代グローバルリーダー育成科目群（上級段階）

	開講学部等	学期	区分	科目名	受講対象	備考
1	全学共通	前期		グローバルリーダー実践Ⅰ	○	
2		後期		グローバルリーダー実践Ⅱ	○	
3	社会システム経営学環			観光デザイン実習	×	2年後期から3年後期までとおして実施
4		後期		観光デザイン基礎		2年後期履修

社会教育士の資格取得に必要な科目・単位について (教育・学習, 地域づくり, 行政・企業の人材育成などに関心のある方へ)

「社会教育士」とは、「社会教育主事講習等の学習成果が、教育委員会事務局や首長部局、企業、NPO等の社会教育に携わる多様な主体の中で広く活用され、連携・協働して人づくりや地域づくりに活躍していくことを図るため、令和2年4月より新設された称号」です(下記文部科学省ウェブサイトより)。簡単に言えば、人づくり・地域づくりの基盤となる学びの専門家であることを示す称号です。

この「社会教育士」の称号取得には、いくつかのメリットがあります。①社会教育法等の法令に基づく公的な称号・資格であり、就活時の履歴書等の資格欄に記入できる。②「社会教育士」の称号取得と同時に「社会教育主事任用資格」を得られるため、都道府県や市町村の教育委員会の事務局や公民館などの機関で採用された場合、社会教育を行う者に専門的・技術的な助言等を行う業務を行う社会教育主事に任命される資格があり、また、地域づくりや自治体の将来ビジョンづくりなどを担当する首長部局における活用も期待されていることから、公務員試験時に資格・称号の保有や学んできたことをアピールできる。③教員を目指す場合、昨今の学校教育においては、主体的、対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)という学びのあり方や、社会に開かれた教育課程やコミュニティ・スクール(学校運営協議会)といった地域と連携・協働して教育活動をつくり、子どもたちを地域で育てていくことが重視されており、本称号・資格取得の過程で得られる知識や能力は授業づくり等の教育活動実践の役に立つ。また、教員採用試験時に社会教育士の称号の保有や学んできたことをアピールできる。④地域づくり関係の業務を行う公務員、企業・NPO等に就職した場合、自治体の将来ビジョン、企業の経営戦略等を踏まえた人材育成のための各種講座や研修等の企画・立案などで教育・学習の専門家としての活躍が期待される。

本称号・資格はこのようなメリットがあることから、この資格を取得する過程で得られる知識・能力は皆さんの就職やキャリア形成において役立つものと思われます。担当教員が履修の相談や称号・資格の取得の支援を行いますので、本称号・資格に関心のある方の科目受講をお待ちしています。

社会教育士の資格取得に必要な科目と単位数は、下記の通りです。法定科目の計24単位を修得した者には「社会教育士(養成課程)」取得の根拠となる単位取得証明書を発行します。履修は次の表を参考に全都合に合わせて履修計画を立ててください。なお、法定科目「生涯学習概論」の科目は社会教育・生涯学習の基本的な知識を学ぶ入門編に当たるため、まずはこの科目を優先して履修計画を立てていただけたらと思います。

【社会教育士(社会教育主事任用資格)参考サイト】

文部科学省「社会教育士～学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割をはたす専門人材～」：
https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/mext_00667.html

【称号・資格取得に必要な科目一覧】

法定科目	必要単位	全学共通教育開設授業科目	開講単位数	開講時限	
生涯学習概論	4	現代社会と学習・教育(生涯学習概論Ⅰ)	2	前月3	R7新設
		生涯学習概論Ⅱ	2	前水1	
		社会教育の意義と展開	2	後月3	
生涯学習支援論	4	フューチャーセンター入門	2	前・後月5	
		社会教育施設・支援者論	2	後水1	
		学習者の特性と支援方法	2	前集中	
		自己省察と将来のキャリア設計	2	後月2	
社会教育経営論	4	社会教育経営論	2	前集中	
		学校と家庭・地域の連携	2	前火4	
		社会教育における地域ネットワーク形成	2	前集中	
社会教育特講	8	現代社会問題と社会教育	2	前月4	
		教育社会システム論(教育社会学)	2	前集中	
		生涯学習成果の還元とボランティア活動	2	後集中	
		人権と社会教育	2	後水2	
		持続可能な地域と環境リテラシー	2	後集中	
		自分らしいキャリア設計Ⅰ	2	前・後水2	
		教育論(学校の社会的意味を問う)	2	後月5	
社会教育実習	1	社会教育実習	1	後集中	
社会教育演習 社会教育実習 社会教育課題研究	3	野外活動実習	1	後集中	
		社会教育課題研究(学習プログラム開発論)	2	後月4	

※法定科目「生涯学習概論」「生涯学習支援論」「社会教育経営論」「社会教育特講」は、それぞれ法定の必要単位数を満たすように授業を選択して履修すること。その他の実習・演習系科目の「社会教育実習」「野外活動実習」「社会教育課題研究(学習プログラム開発論)」は必修です。合計24単位必要です。

※令和4年度までの取得済の科目は、そのまま各法定科目の必要単位数にカウントすることができる。ただし、既に「教育論(現代社会問題と教育)」で単位取得済の学生は、「現代社会問題と社会教育」は内容が同じものなので履修登録ができません。

※令和7年度地域科学部の新規開講科目(科目名「教育と社会論(2単位)」,前期木曜3限)を「生涯学習支援論」の区分に位置づける予定です。地域科学部学生等で本科目を取る事が可能な学生は、養成課程担当教員に相談すること。

【本称号・資格に関する問い合わせ窓口】

履修相談、質問は、岐阜大学地域協学センター教員の益川(メール:masukawa.koichi.w3@f.gifu-u.ac.jp)・後藤(goto.seiichi.e1@f.gifu-u.ac.jp)・二村(futamura.rei.c7@f.gifu-u.ac.jp)までお願いします。

[称号・資格取得に必要な科目の開講時間帯と履修推奨学年]

前学期

(2025年度の開講予定)

	月	火	水	木	金
1			・生涯学習概論Ⅱ ：2年前期		
2			・自分らしいキャリア設計Ⅰ ：1年前期		
3	・現代社会と学習・教育（生涯学習概論Ⅰ） ：1年前期			※1	
4	・現代社会問題と社会教育 ：1年前期	・学校と家庭・地域の連携 ：3年前期			
5	・フューチャーセンター入門 ：1年前期				

※1 地域科学部開講科目（科目名「教育と社会論」（木曜日3限）：3年前期）

後学期

	月	火	水	木	金
1			・社会教育施設・支援者論 ：2年後期		
2	自己省察と将来のキャリア設計 ：3年後期		・人権と社会教育 ：1年後期 ・自分らしいキャリア設計Ⅰ ：1年後期		
3	・社会教育の意義と展開 ：1年後期				
4	・社会教育課題研究（学習プログラム開発論） ：3年後期				
5	・フューチャーセンター入門 ：1年後期 ・教育論（学校の社会的意味を問う） ：3年後期				

集中講義

・野外活動実習 ：1年後期
・社会教育経営論 ：2年前期
・教育社会システム論（教育社会学） ：2年前期
・社会教育における地域ネットワーク形成 ：2年前期
・学習者の特性と支援方法 ：3年前期
・生涯学習成果の還元とボランティア活動 ：3年後期
・持続可能な地域と環境リテラシー ：3年後期
・社会教育実習 ：4年後期

(表の見方)

・『科目名』
：『履修推奨学年』

※『履修推奨学年』は、あくまで“目安”です。自身の専門授業とのバランスを考えて無理のない計画を立ててください。

※年度によって開講時限が変更になる場合があります。この場合、掲示や学務情報システム等によりお知らせいたしますので履修登録の際は確認してください。

社会教育士の資格取得に必要な科目・単位について

Q & A

Q：Webにて履修申請しましたが、間違いなく登録できたのですか。

A：申請結果がWeb発表されたら、Webの「抽選結果照会画面」を確認してください。なお、抽選期間終了間際の発表となる可能性もあります。質問等があれば、各自印刷した「抽選結果照会画面」を持参の上、すぐに全学共通教育事務室の窓口へ申し出てください。（「抽選結果照会画面」は証拠となります。必要に応じて印刷し、保管してください。）

さらに、次のことにも注意してください。

＊自分が履修申請した科目の結果が「当選」の場合、登録できています。「落選」の場合は、抽選漏れ等の理由で履修できません。

＊「抽選結果照会画面」は、学務情報システムの「履修・成績」→「抽選結果照会」をクリックし、印刷・確認します。

＊最終的には、履修登録確認期間にWebの「履修確認画面」を印刷・確認してください。

＊履修する授業科目が過不足なく正しい時限に登録されているか、チェックしてください。

＊担当教員名も間違いがないか、チェックしてください（同じ授業科目名でも、異なる教員が担当している場合があります）。

Q：初回履修申請の抽選に漏れたのですが、このあと申請はできないのですか。

A：抽選に漏れた授業は履修できません。

ただし、再申請期間に、まだ履修登録が可能な科目には、Web履修申請できます。なお、抽選に漏れてしまったものと同じ授業科目でも、別の曜日・時限に開講されていて、かつ履修可能であれば、他の科目と同じように申請できます。

Q：履修登録確認期間は、何を行うのですか。

A：Webの学務情報システムから出力した「履修確認画面」を、必ず確認してください。科目（授業）の名称、授業時間及び担当教員等、全ての情報のチェックが必要です。授業に出席しても、履修登録が確定していない科目は単位を修得できません。

＊「履修確認画面」は履修の証明となりますので印刷し、成績が出るまで保管してください。

＊初年次セミナーで「クラス間違えの修正」または「Web申請忘れによる初年次セミナーの追加登録」が必要な場合は、この期間に申請してください。方法等詳細は、掲示等によりお知らせします。〔前学期のみ〕

＊「日本語表現Ⅰ（初級）」、「データ科学基礎〔前学期のみ〕」、「データ科学基礎演習A」及び「データ科学基礎演習B」の追加登録が必要な場合も、掲示等確認し、この期間に申請してください。

Q：聴講とは何ですか。

A：興味・関心ある、自主的に学びたい等の理由により、履修登録をせず、授業だけを受けることです。聴講を希望する場合は、授業担当教員の受講を認める許可が必要になります。授業担当教員に聴講の意志を伝え承を得てください。なお、聴講で単位は修得できません。

Q：一度履修登録が確定した科目は取消できないのですか。

A：履修申請し、登録が確定した科目は、Web上で取消・訂正することはできません。自分の意志で登録した科目は、責任を持って履修してください。

やむを得ない理由で取消を希望する場合、履修登録確認期間に申請が可能です。方法についての詳細は別途掲示等にて指示があります。

その他、授業の第7週目位に「履修取消期間」が設けられています。取消（申請）期間・方法については、前学期は4月下旬、後学期は10月下旬に掲示・学務情報システム等によりお知らせします。ただし、履修の抽選で落選者が出た科目及びスポーツ・健康科学科目については、取消不可能とします。シラバスに記載があり、取消申請の受付ができないものもあります。

なお、前学期の履修取消期間は決まっていますので、授業時間割表等で確認してください。

Q：同じ曜日時に複数の全学共通教育科目を履修申請してもよいのですか。

A：それは禁止事項です。重複履修は決してしないでください。
重複履修が判明した場合は、その全科目が削除されます。

Q：履修登録する単位数の制限はありますか。

A：あります。履修登録できる単位数の制限は、所属学部や学科・課程等によって異なります。オーバーしないよう、きちんと計画をたてて履修申請してください。
全学共通教育科目の履修上限を超えて申請した場合は、超えた単位数分の科目が事務で無作為に削除されます。

Q：成績はどのようにわかりますか。

A：全学共通教育科目の成績は学期ごとに、Webにて発表されます。日程等は、後日お知らせします。

Q：履修案内や掲示等（全学共通教育掲示板・学務情報システム）を確認しないと駄目なのですか。

A：よく確認し、間違いのないよう履修申請してください。たとえ担当教員から許可を得たとしても、履修案内や掲示等に記されたルールを守らない場合は、履修登録できません。また、履修方法の変更や問題が発生した場合等の連絡は学務情報システムや掲示で行います。見逃すと履修登録できないケースもあります。履修申請期間は特に、学務情報システムの「お知らせ及び全学共通教育キャビネット」や掲示板を毎日チェックする習慣を身に付けてください。

Q：英語科目の履修について教えてください。

A：学部・学科等によりクラス分けされ、事務で履修登録しますので、指定されたクラスで受講してください。

Q：言語と文化の履修について教えてください。

A：《言語と文化（〇〇語）》
希望調査により、クラス分け・履修登録されますので指定されたクラスで受講してください。
《第二外国語（〇〇語Ⅰ）および（〇〇語Ⅱ）》
言語と文化で学んだ言語のⅠ・Ⅱを履修することができます。（自由選択科目の単位として単位修得できます。）
ただし、地域科学部の学生は言語と文化とは異なる言語のⅠ・Ⅱを履修することもできます。

Q：履修申請及び再申請結果発表の日程の関係で、授業前に履修登録できたかどうか分からない科目があります。どうすればよいのですか。

A：Web 申請の結果「当選」した科目のみ受講してください。

(なお、「定員があり抽選が行われる科目」以外は、所定の方法により履修登録し、受講してください。)

Q：どのように履修計画を立てればよいのですか。

A：履修案内をよく読み、以下の項目を考慮して計画を立ててください。授業時間割表についているワークシートに書き込みながら計画を立てると分かりやすいです。

- ①自分の履修できる単位の上限を確認する。(全学共通教育科目の上限に加え、専門科目と合わせての制限が設定されている可能性もありますので、注意してください。)
- ②必修科目を確認する。英語は学部・学科等によってクラス分けされ、自動的に Web 登録されます。前学期開講の言語と文化は入学手続き案内の希望調査によってクラス分けされ、自動的に Web 登録されます。(ただし、再履修の場合は異なります。)
- ③②以外の時間帯で、どの科目を申請するか必ず Web シラバスを確認して選択する。(主に人文科学、社会科学、自然科学、岐阜学、スポーツ・健康科学科目です。学部等によって、各区分の最低修得単位数が設定されているので、そちらをクリアすることを念頭に選んでください。①で確認した上限をオーバーしないように注意が必要です。)

Q：同一分野から、複数の科目を履修できますか。

A：人文科学、社会科学、自然科学については、【異分野からの学び】を重要視します。そのため、同一分野から複数の科目を履修することはできませんが、人文科学、社会科学、自然科学の各区分が定める最低修得単位数には1科目しか算入されません。同一分野の2科目以降の修得した単位については、自由選択科目の単位として算入することができます。(ただし、学部等によって自由選択科目に算入できる単位数は異なりますので、全学共通教育事務室または各学部等の事務室へ相談にきてください。)

Q：同じ「科目名」に属する授業を複数履修できますか。

A：人文科学、社会科学、自然科学では、「授業名」が異なっても、同じ「科目名」に属する場合には1つしか履修できません。

Q：Web シラバスとは何ですか。

A：この履修案内に掲載された科目(授業)の詳細を、Web シラバスで確認することができます。また、変更等があった場合、随時更新されます。必ず Web シラバスを確認し、履修要件等を理解して履修申請を行ってください。Web シラバスの URL は、<https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/syllabus.html> です。また、岐阜大学のホームページ (<https://www.gifu-u.ac.jp/>) の「在学生の方へ」→学習支援システムについて「学習支援システム」→「Web シラバス」からもアクセスできます。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

表紙デザイン・裏表紙カット：野村幸弘

デザイン協力：eplus（教育企画立案学生チーム）

コメント：

この履修案内は、表紙のコンセプトや内容の分かりやすさなどについて、元・教育推進・学生支援機構教養教育推進部門の教員と教育企画立案学生チーム eplus の学生たちが協議しながら作成しました。教員とともに大学の教育をより良いものにしたと考えている方は、全学共通教育事務室までご連絡ください。

